

「久御山町第3次男女共同参画プラン」 策定にかかるアンケート結果報告書

令和4年3月
久御山町

目次

I. 調査の概要	
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 結果の見方.....	1
II. 成人調査の結果	
1. 回答者属性.....	2
2. 男女の地位の平等に対する意識について.....	12
3. 家庭生活について.....	23
4. 仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について.....	24
5. 仕事の状況や女性の活躍に関することについて.....	39
6. 男女の人権について.....	47
7. 町の男女共同参画に対する取組について.....	68
III. 中学生調査の結果	
1. 回答者属性.....	78
2. 男女共同参画について.....	79
3. 固定的な役割分担意識について.....	86
4. 結婚・将来などについて.....	96
5. 男女の人権について.....	98
6. 町の男女共同参画に対する取組について.....	106
IV. 事業所調査の結果	
1. 事業所概要.....	109
2. 経営方針及び従業員の就業等の状況に関すること.....	111
3. ワーク・ライフ・バランスに関すること.....	113
4. その他の取組み等について.....	118

I. 調査の概要

1. 調査の目的

男女共同参画に対する住民の意識や日常生活の状況等を把握し、令和5年度に策定を予定している「久御山町第3次男女共同参画プラン」の基礎資料とすることを目的に、調査を実施しました。

2. 調査の概要

	①成人調査	②中学生調査	③事業所調査
調査対象者	久御山町在住の18歳以上	久御山中学校全校生徒	町内事業所
調査方法	郵送配布、郵送回収もしくはWEB回答	学校を通じた配布・回収	ワーク・ライフ・バランス推進宣言企業(34社)に郵送配布・郵送回収。そのほか、商工会が発送するDMに調査依頼を同封(二次元コードによるWeb調査・回答)
調査期間	令和3年12月23日(木)～令和4年1月10日(月)	令和3年12月24日(金)～令和4年1月10日(月)	令和3年12月23日(木)～令和4年1月24日(月)
配布数	1,500件	431件	-
回収件数	457件	394件	19件
有効回収率	30.5%	91.4%	-

3. 結果の見方

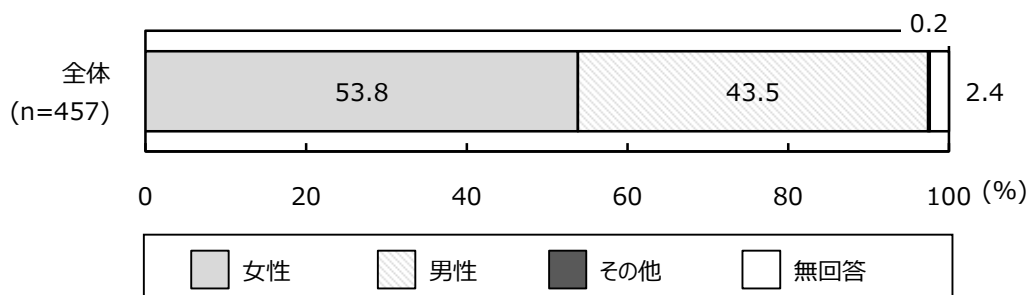
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者数を表しています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 報告書中の前回調査とは平成30年に実施した「久御山町男女共同参画住民意識調査」を指しています。
- クロス集計表の網掛けについては以下の通りです(無回答を除く順)。
最も割合の高いもの : 網掛けと白抜き文字
2番目に割合が高いもの : 網掛け(1位が同率の場合は2番目の網掛けはなし)
- 自由回答については概要をまとめ、主な意見を掲載しています。

Ⅱ. 成人調査の結果

1. 回答者属性

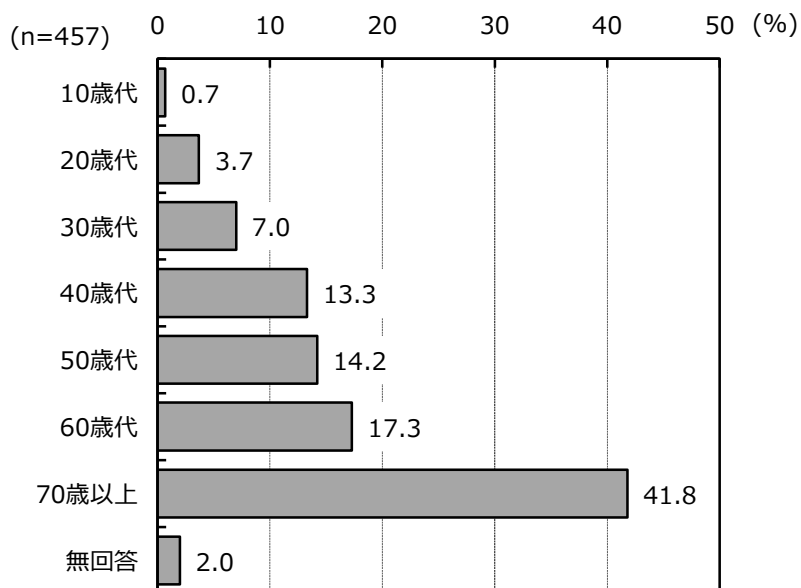
問1 あなたの性別は。(単数回答)

「女性」が53.8%、「男性」が43.5%、「その他」が0.2%となっています。



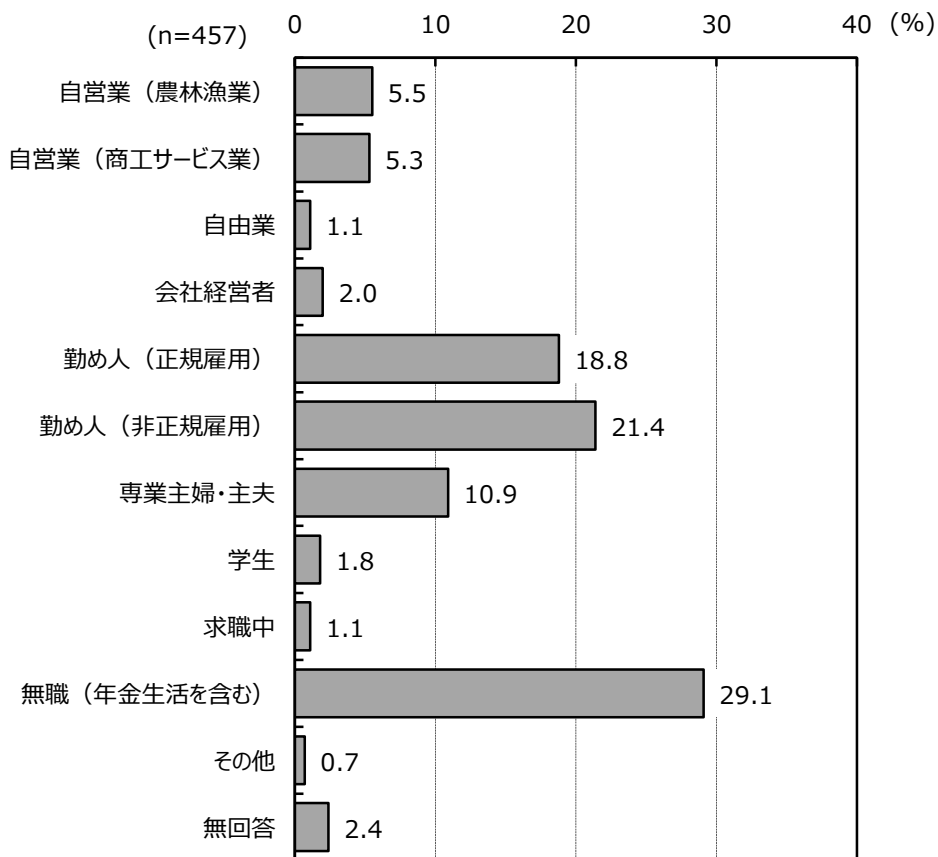
問2 あなたの年齢は。(単数回答)

「70歳以上」が41.8%と最も高く、次いで、「60歳代」が17.3%、「50歳代」が14.2%、「40歳代」が13.3%となっています。

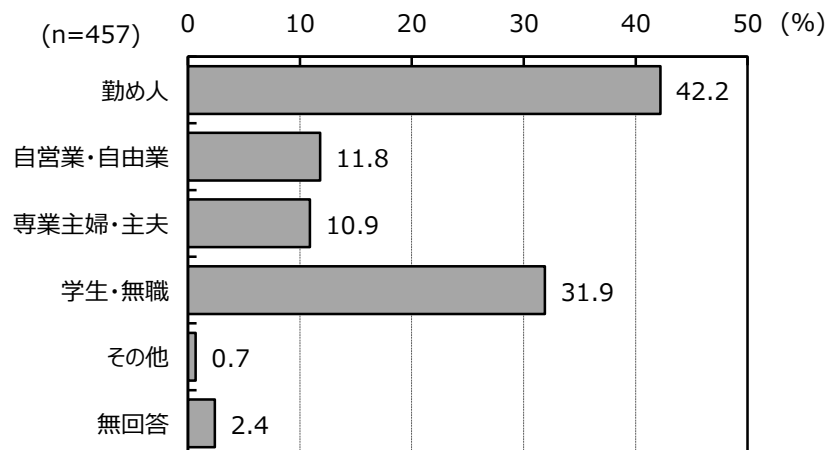


問3 現在のあなたの職業は。(単数回答)

「無職（年金生活を含む）」が 29.1%と最も高く、次いで、「勤め人（非正規雇用）」が 21.4%、「勤め人（正規雇用）」が 18.8%となっています。



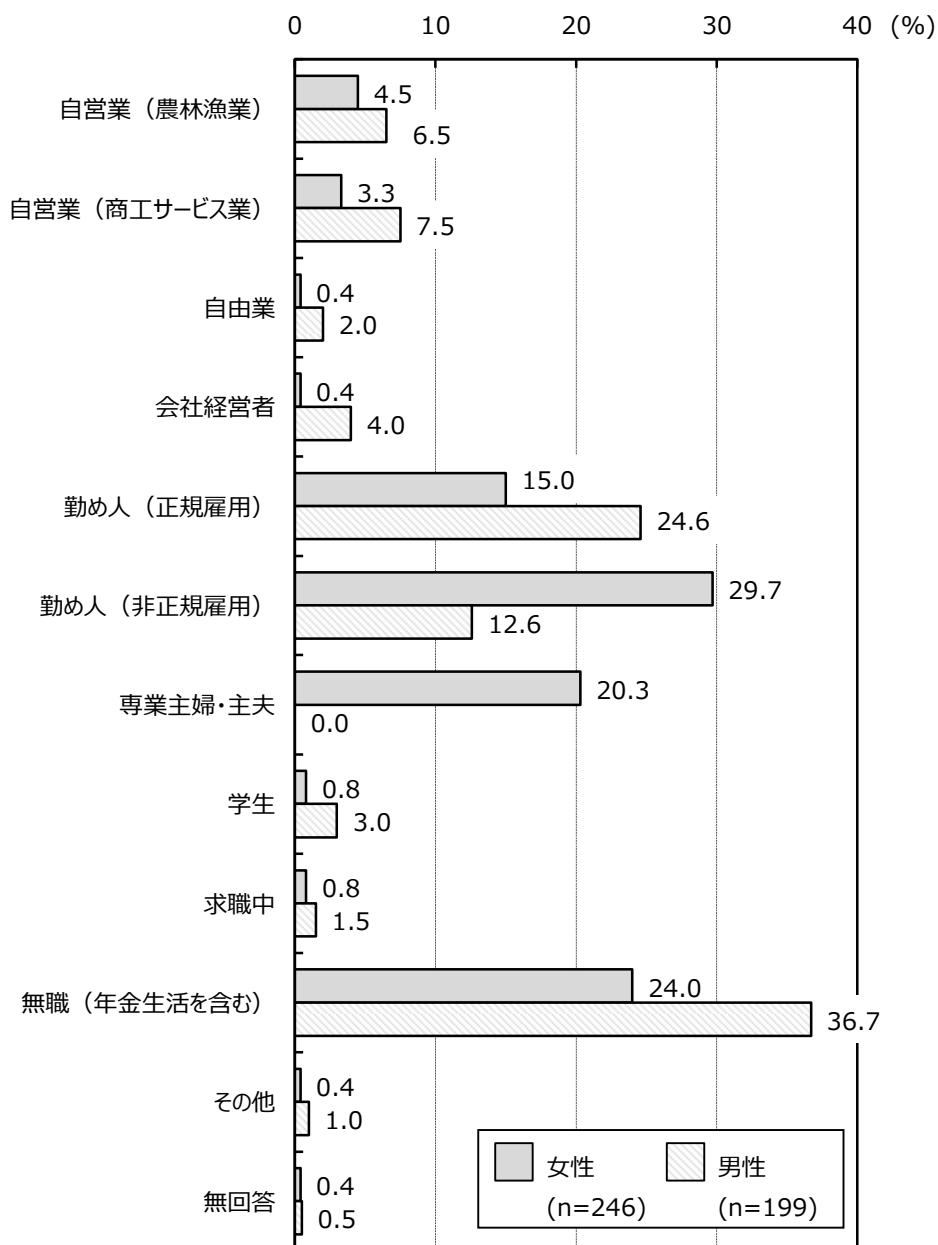
「勤め人」、「自営業・自由業」、「専業主婦・主夫」、「学生・無職」で区分してみると、「勤め人」が 42.2%と最も高く、次いで、「学生・無職」が 31.9%、「自営業・自由業」が 11.8%、「専業主婦・主夫」が 10.9%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

《女性》は「勤め人（非正規雇用）」が最も高いのに対し、《男性》は「無職（年金生活を含む）」が最も高くなっています。「勤め人（非正規雇用）」の割合については男女差が大きく、《女性》が《男性》を17.1ポイント上回っています。

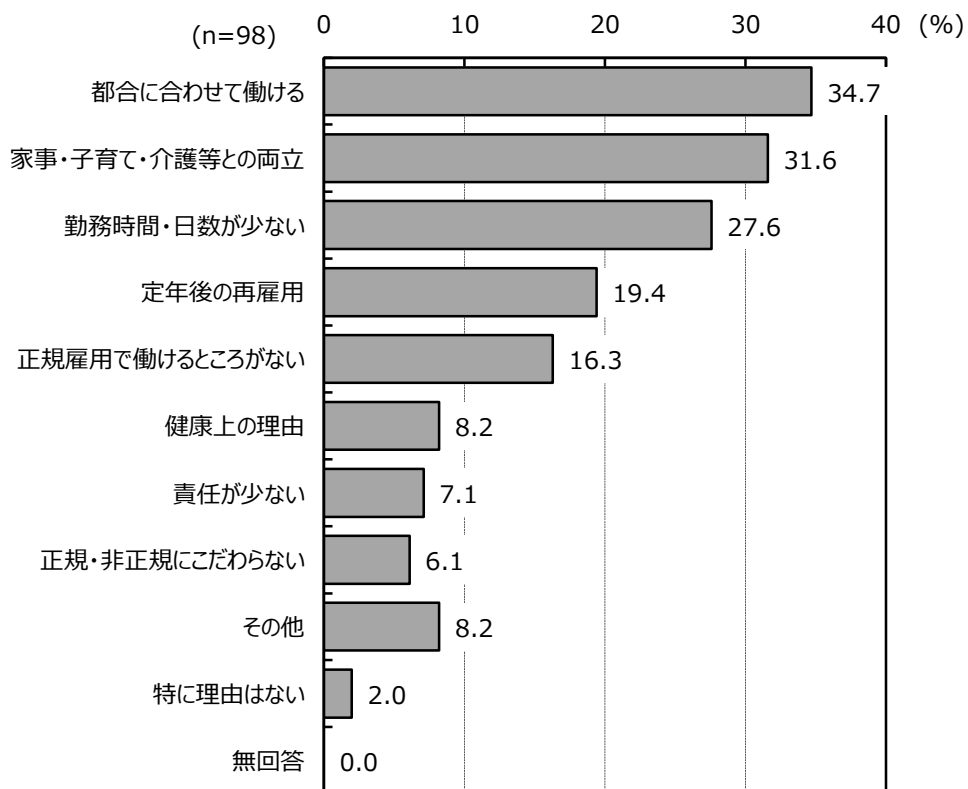
また、「専業主婦・主夫」の割合についてみると、《女性》では20.3%であるのに対し、《男性》では0.0%となっています。



問3で「勤め人（非正規雇用）」と回答された方にお聞きます

問3-1 正規雇用ではなく、非正規雇用として働く理由は何ですか。（複数回答）

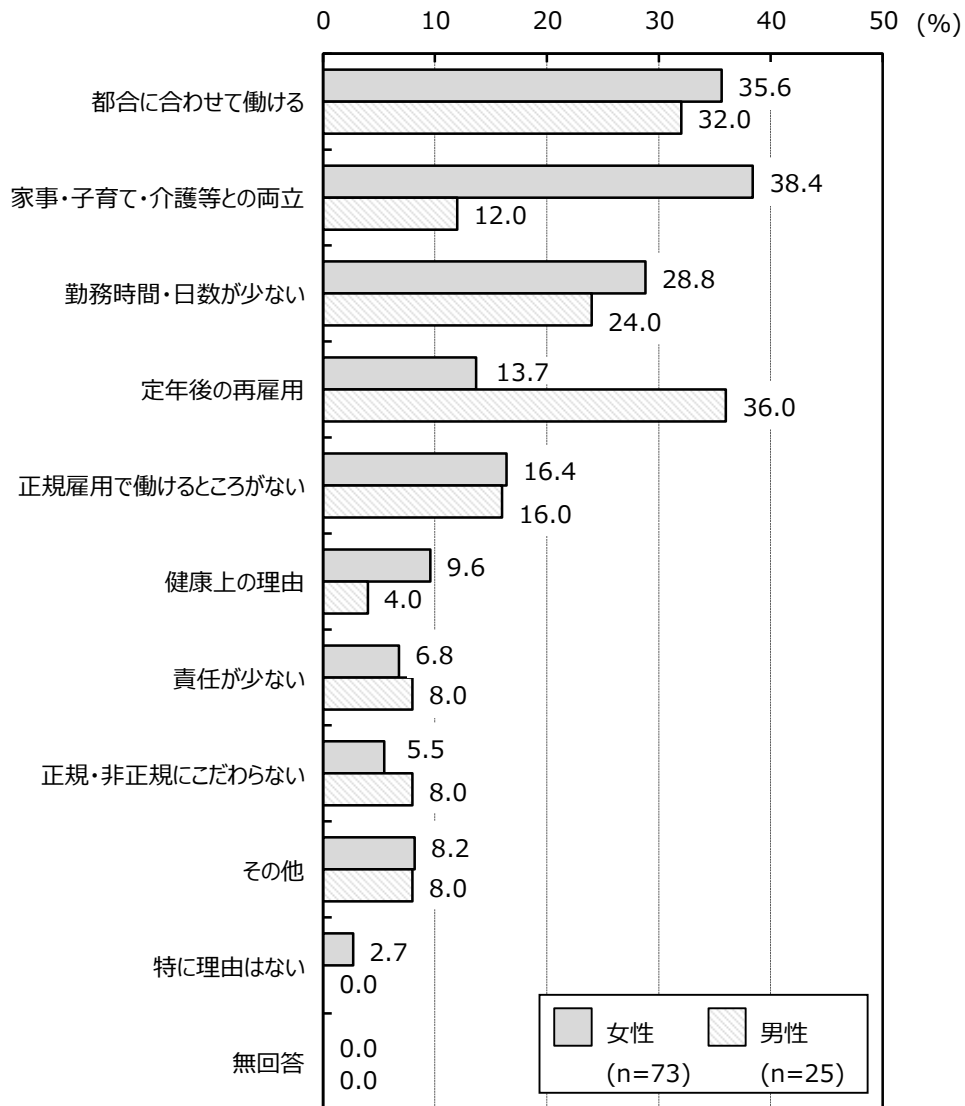
「都合に合わせて働ける」が34.7%と最も高く、次いで、「家事・子育て・介護等との両立」が31.6%、「勤務時間・日数が少ない」が27.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

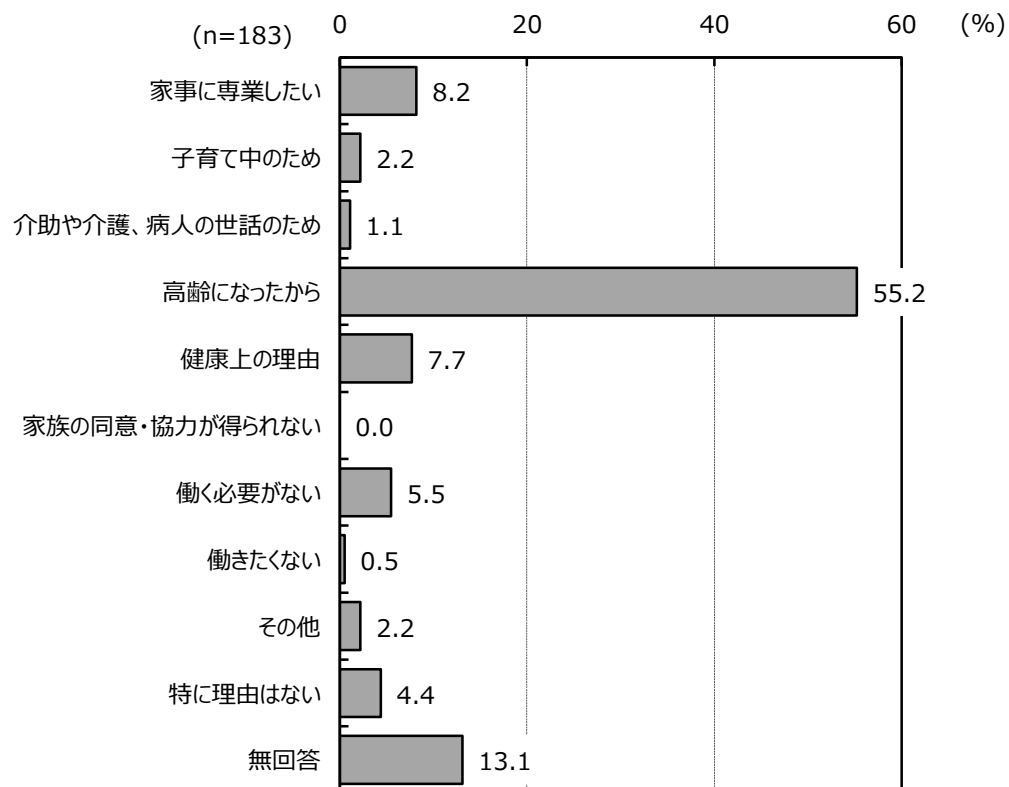
《女性》は「家事・子育て・介護等との両立」が最も高いのに対し、《男性》は「定年後の再雇用」が最も高くなっています。

その割合を比較すると、ともに男女差が大きく、「家事・子育て・介護等との両立」については《女性》が《男性》を 26.4 ポイント上回り、「定年後の再雇用」については《男性》が《女性》を 22.3 ポイント上回っています。



問3で「専業主婦・主夫」、「無職（年金生活を含む）」と回答された方にお聞きます
問3-2 就業していない理由は何ですか。（単数回答）

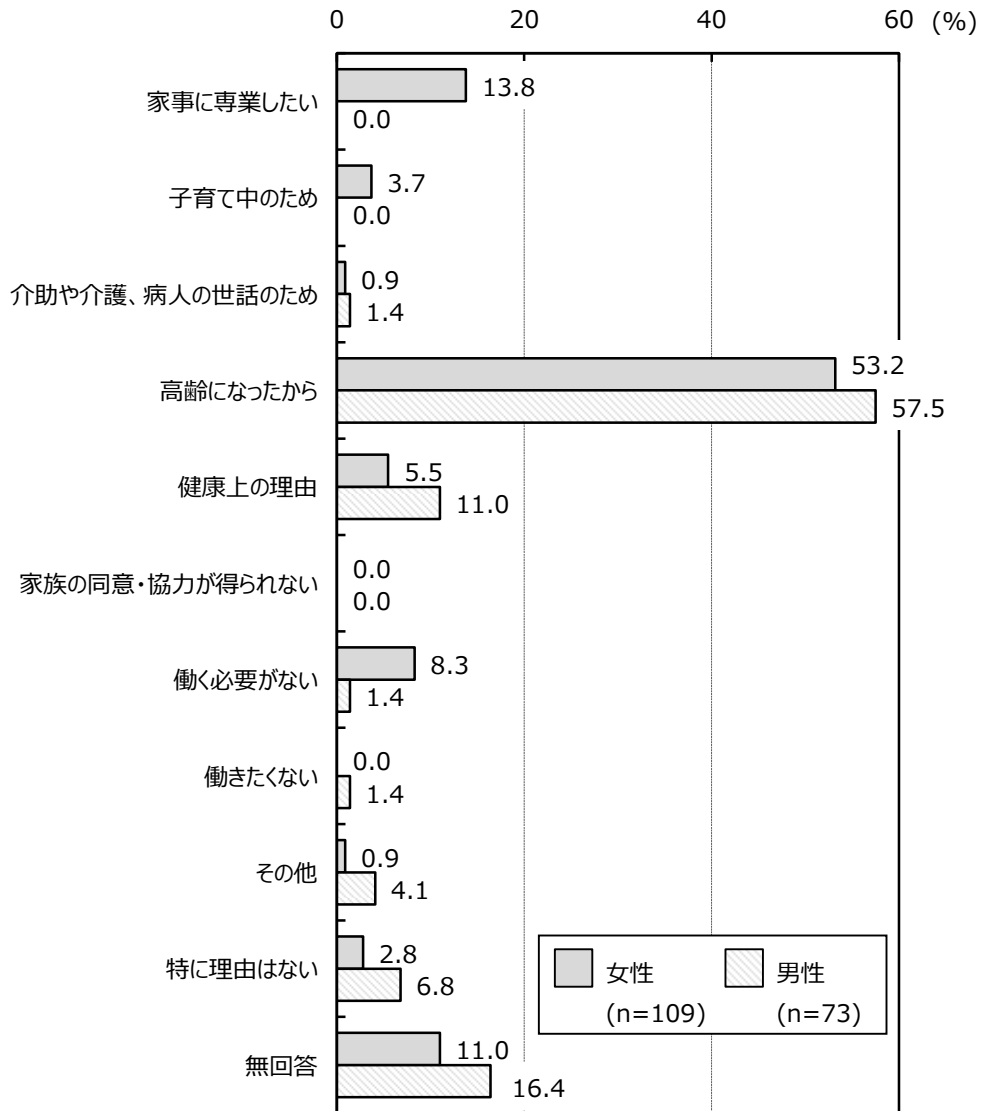
「高齢になったから」が55.2%と最も高くなっており、そのほかは10%未満となっています。



【クロス集計分析（性別）】

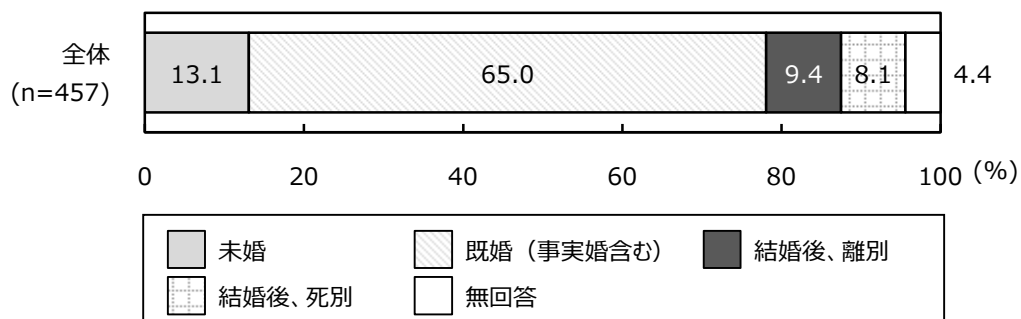
男女ともに「高齢になったから」が最も高くなっています。

また、「家事に専業したい」の割合については、《女性》では 13.8%であるのに対し、《男性》では 0.0%となっています。



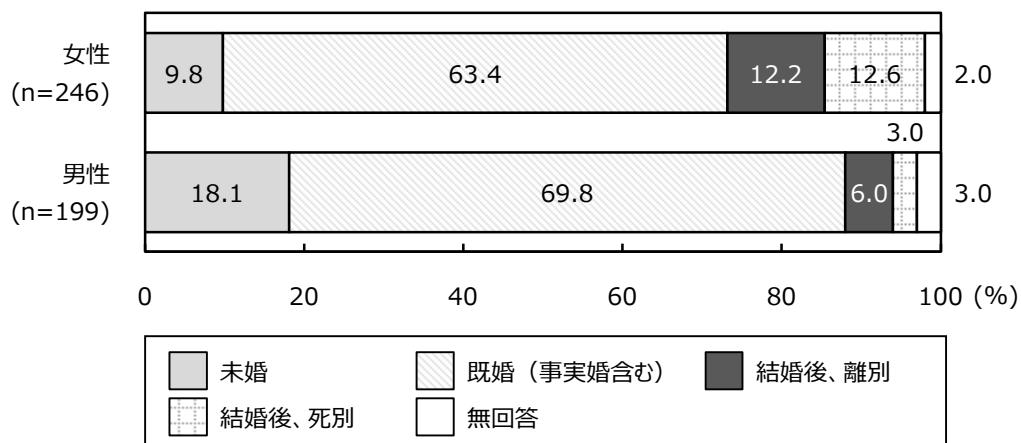
問4 あなたの婚姻状況は。(単数回答)

「既婚（事実婚含む）」が65.0%と最も高く、次いで、「未婚」が13.1%となっています。



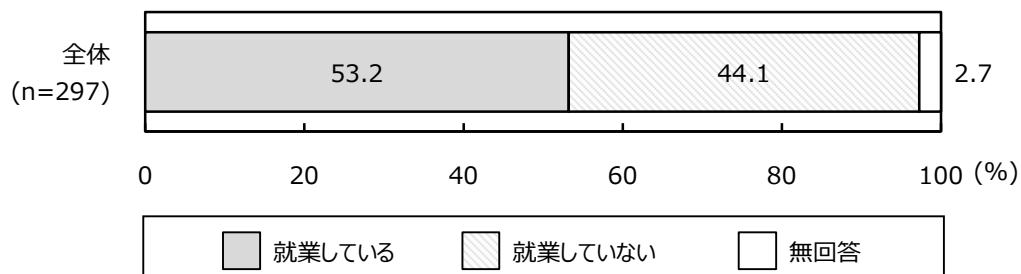
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「既婚（事実婚含む）」が最も高くなっています。「未婚」の割合については《男性》の方が高くなっています。



問4で「既婚（事実婚含む）」と回答された方にお聞きます
問4-1 あなたの配偶者は、就業していますか。（単数回答）

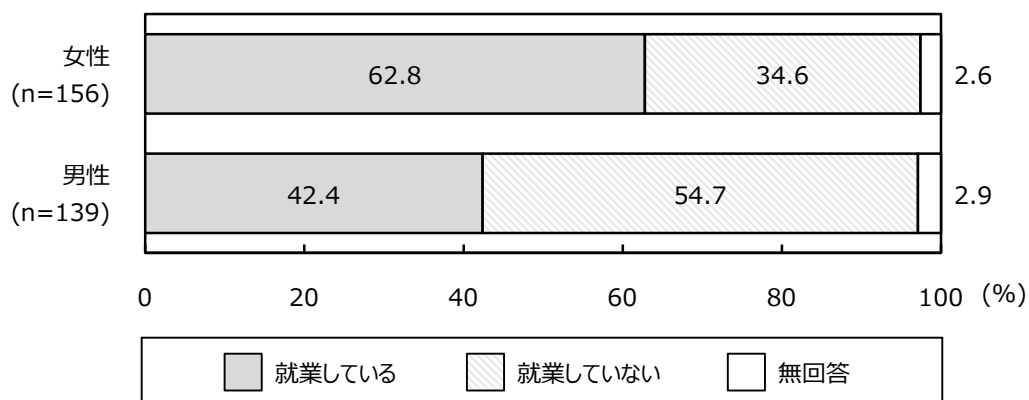
「就業している」が53.2%、「就業していない」が44.1%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

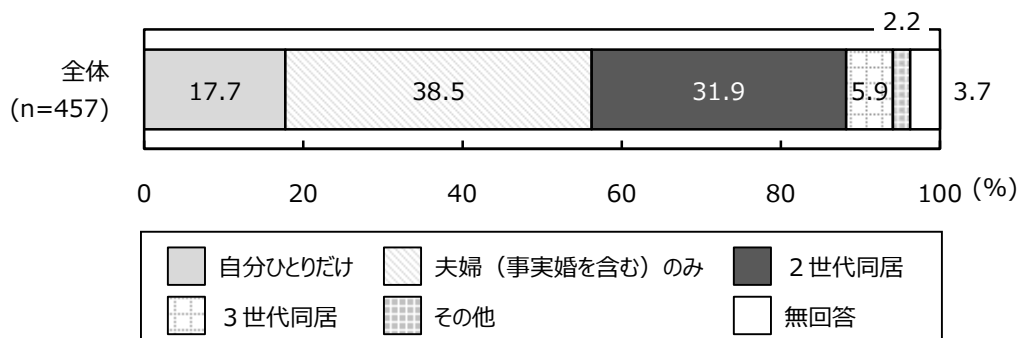
《女性》は「就業している」の割合の方が高いのに対し、《男性》は「就業していない」の割合の方が高くなります。

「就業している」の割合については男女差が大きく、《女性》が《男性》を20.4ポイント上回っています。



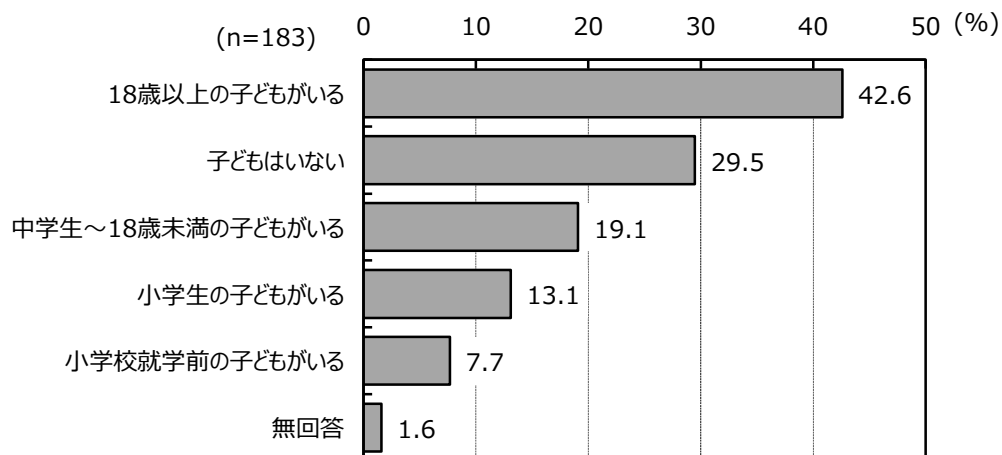
問5 あなたの世帯構成は。(単数回答)

「夫婦（事実婚を含む）のみ」が38.5%と最も高く、次いで、「2世代同居」が31.9%、「自分ひとりだけ」が17.7%となっています。



問6 あなたの世帯にはお子さんはいますか。(複数回答)

「18歳以上の子どもがいる」が42.6%と最も高く、次いで、「子どもはいない」が29.5%、「中学生～18歳未満の子どもがいる」が19.1%となっています。

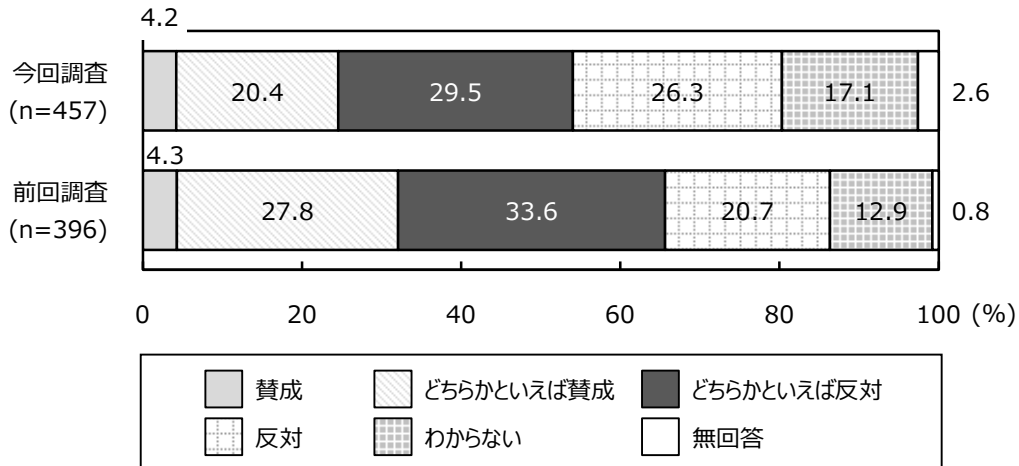


2. 男女の地位の平等に対する意識について

問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（単数回答）

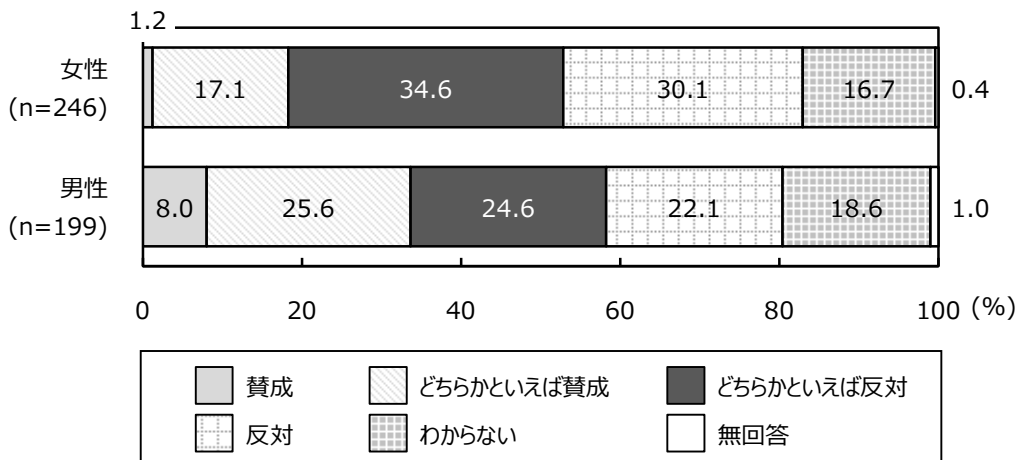
『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）と『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）の割合を比較すると、『賛成』は24.6%、『反対』は55.8%と、『反対』の割合の方が高くなっています。

前回調査と比較すると、『賛成』の割合は減少し（前回調査：32.1%）、『反対』の割合は増加しています（前回調査：54.3%）。



【クロス集計分析（性別）】

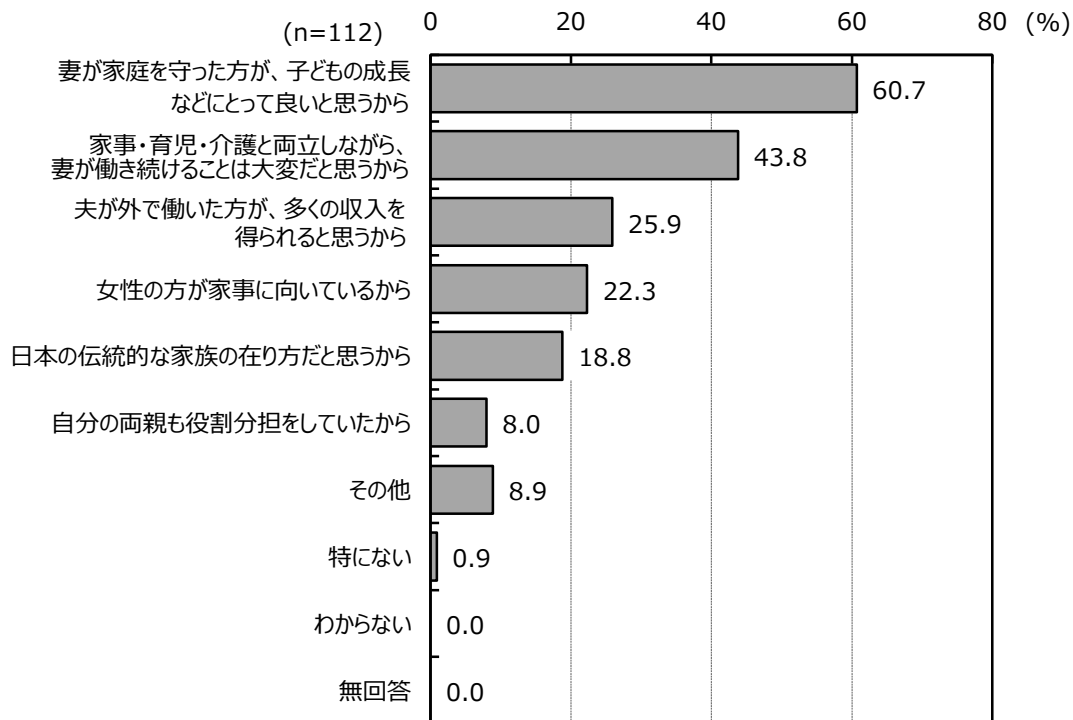
男女ともに『反対』の割合の方が高くなっていますが、その割合は《女性》が64.7%、《男性》が46.7%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を18.0ポイント上回っています。



問7で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方にお聞きします

問7-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成の理由は何ですか。（複数回答）

「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が60.7%と最も高く、次いで、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が43.8%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が25.9%となっています。

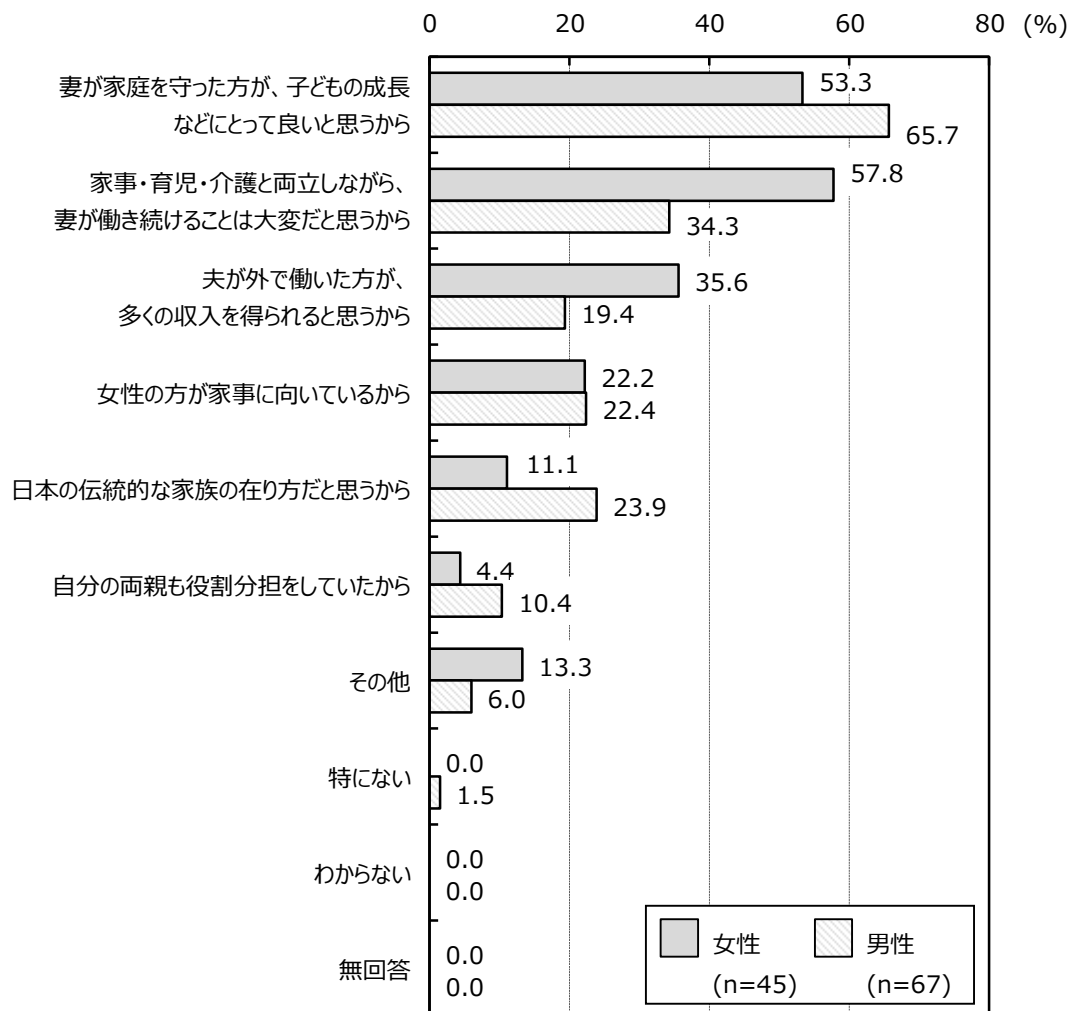


【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が上位2位となっていますが、《女性》は「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も高いのに対し、《男性》は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も高くなっています。

その割合を比較すると、ともに男女差が大きく、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」については《男性》が《女性》を12.4ポイント上回り、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」については《女性》が《男性》を23.5ポイント上回っています。

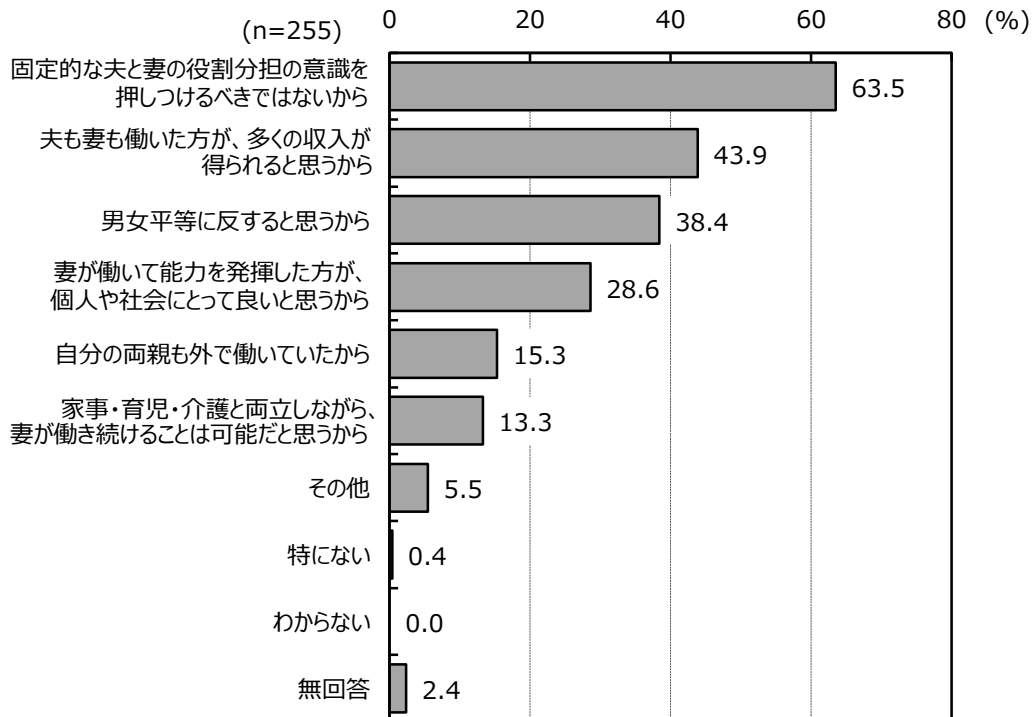
そのほか、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」の割合についても10ポイント以上の差となっており、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」については《女性》の方が高く、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」については《男性》の方が高くなっています。



問7で「どちらかといえば反対」、「反対」と回答された方にお聞きます

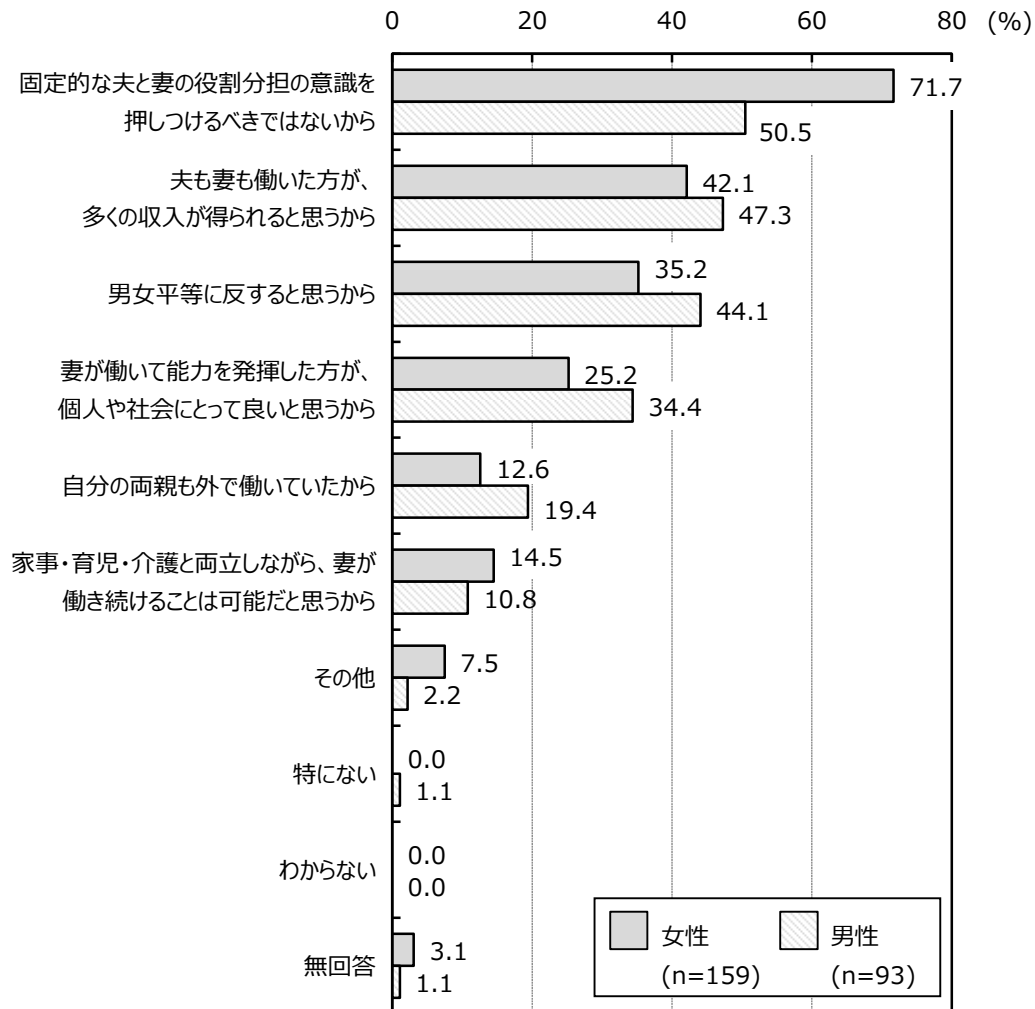
問7-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対の理由は何ですか。（複数回答）

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が63.5%と最も高く、次いで、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が43.9%、「男女平等に反すると思うから」が38.4%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

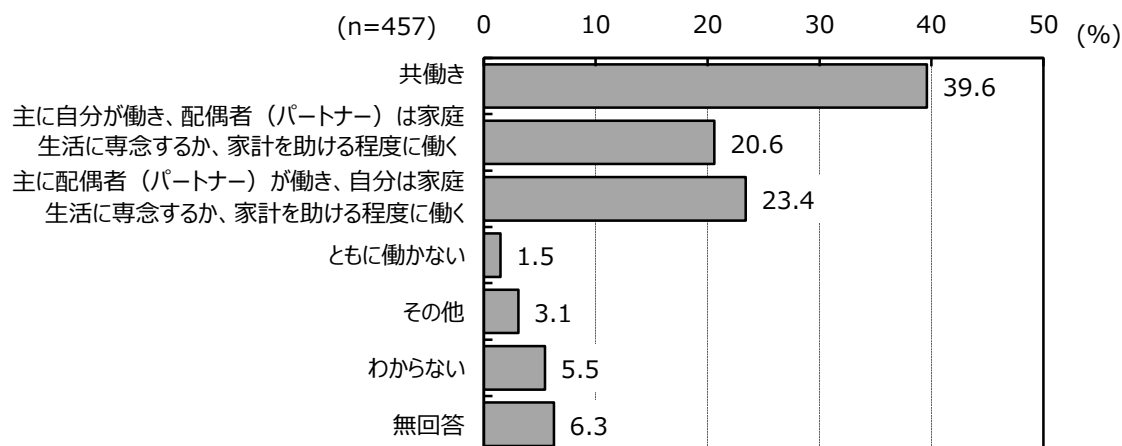
男女ともに「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高くなっていますが、男女差が大きく、《女性》が《男性》を 21.2 ポイント上回っています。



問8 あなたと配偶者又はパートナーの働き方について希望をお答えください。(単数回答)

※配偶者やパートナーがいない人は、いた場合を想定してお答えください。

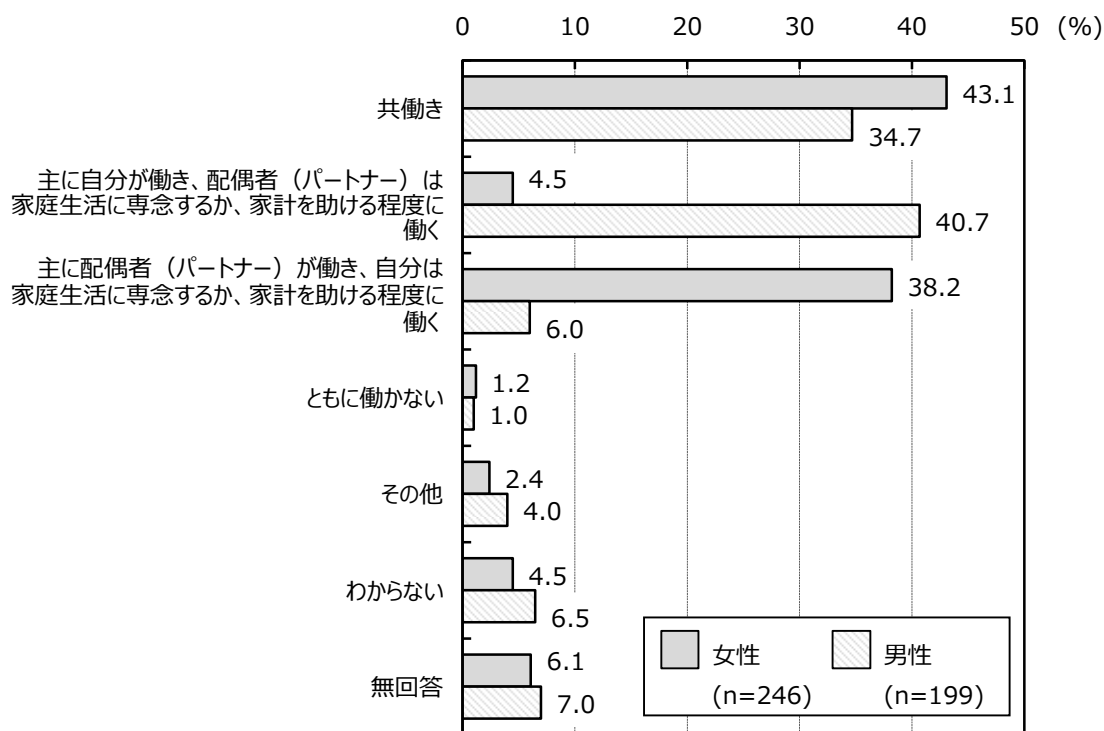
「共働き」が39.6%と最も高くなっています。



【クロス集計分析(性別)】

《女性》は「共働き」が最も高いのに対し、《男性》は「主に自分が働き、配偶者(パートナー)は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く」が最も高くなっています。

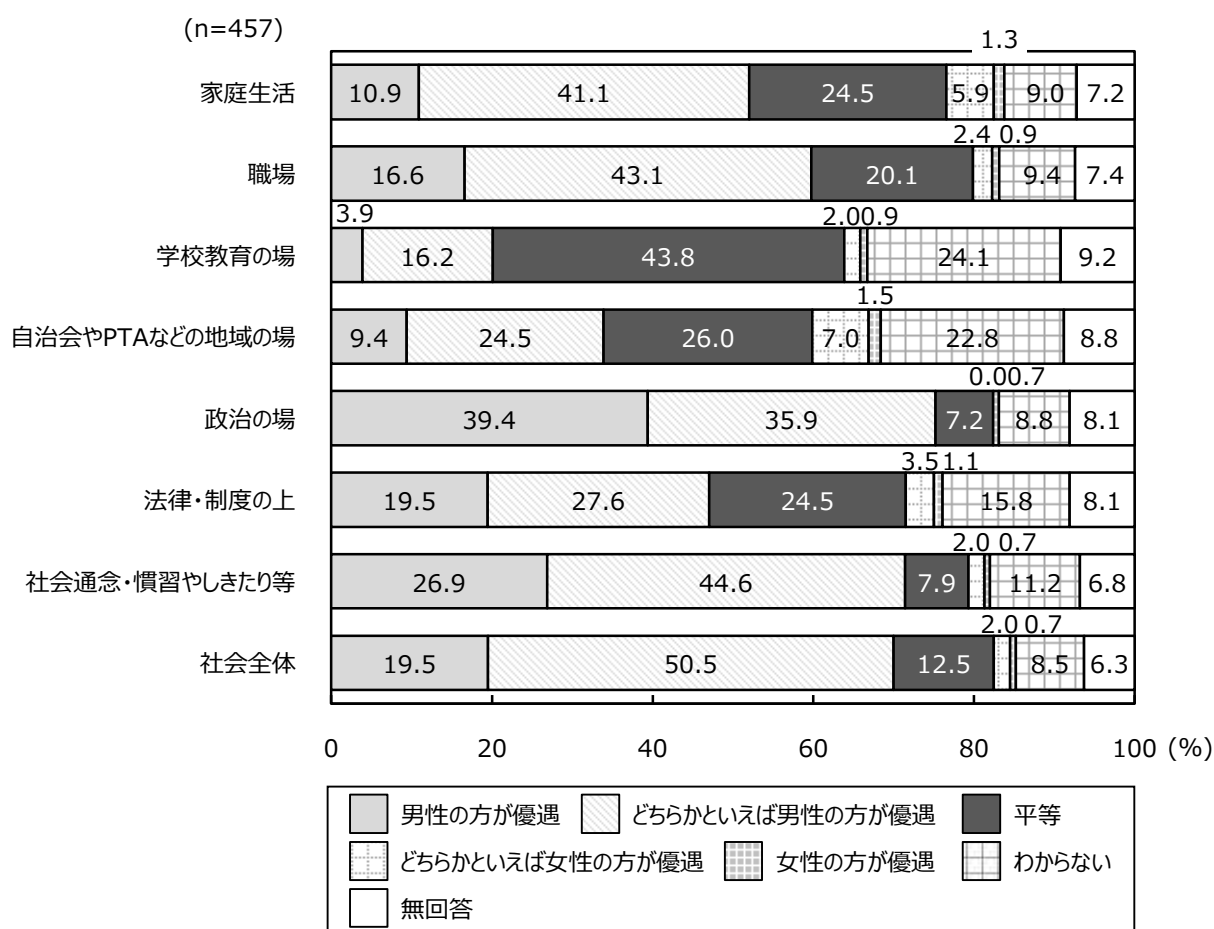
また、「主に自分が働き、配偶者(パートナー)は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く」、「主に配偶者(パートナー)が働き、自分は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く」については男女差が大きく、「主に自分が働き、配偶者(パートナー)は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く」については《男性》が《女性》を36.2ポイント上回り、「主に配偶者(パートナー)が働き、自分は家庭生活に専念するか、家計を助ける程度に働く」については《女性》が《男性》を32.2ポイント上回っています。



問9 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

『男性が優遇』(「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」)、「平等」、『女性が優遇』(「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」)で割合を比較すると、『学校教育の場』については「平等」が最も高くなっていますが、それ以外の分野では『男性が優遇』が最も高くなっています。

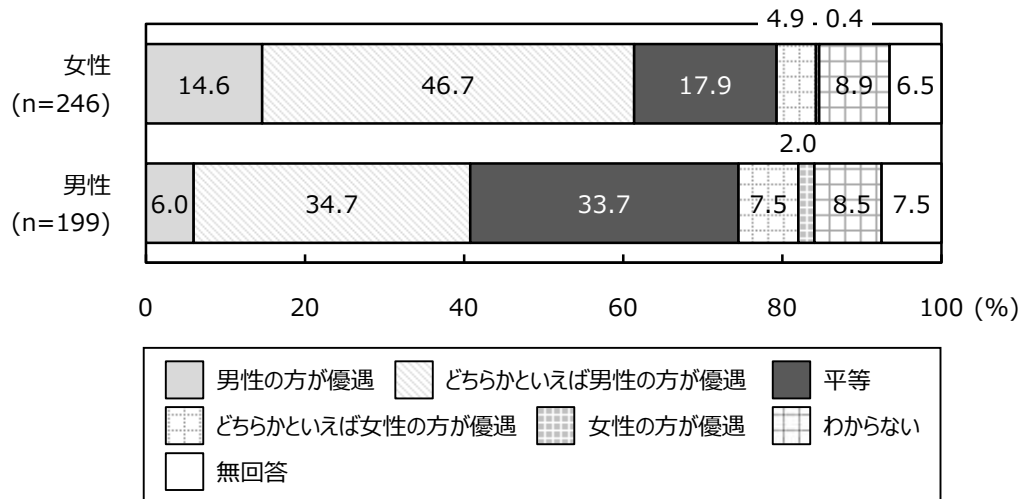
「平等」の割合についてみると、最も割合が高い『学校教育の場』では43.8%となっており、その後は差が開き、『自治会やPTAなどの地域の場』が26.0%、『家庭生活』、『法律・制度の上』がともに24.5%、『職場』が20.1%、『社会全体』が12.5%と続いています。それ以外の分野では10%未満となっています。



【クロス集計分析（性別）】

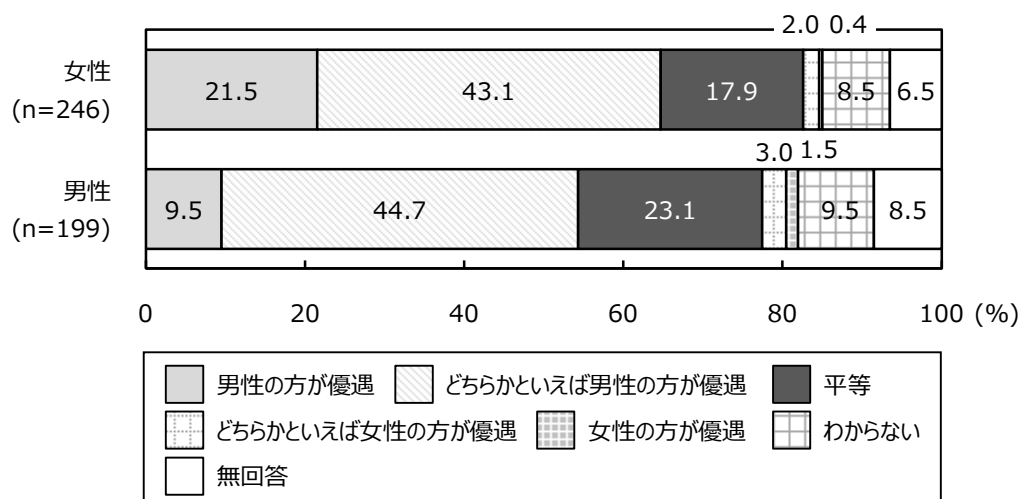
■ 家庭生活

《家庭生活》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が61.3%、《男性》が40.7%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を20.6ポイント上回っています。



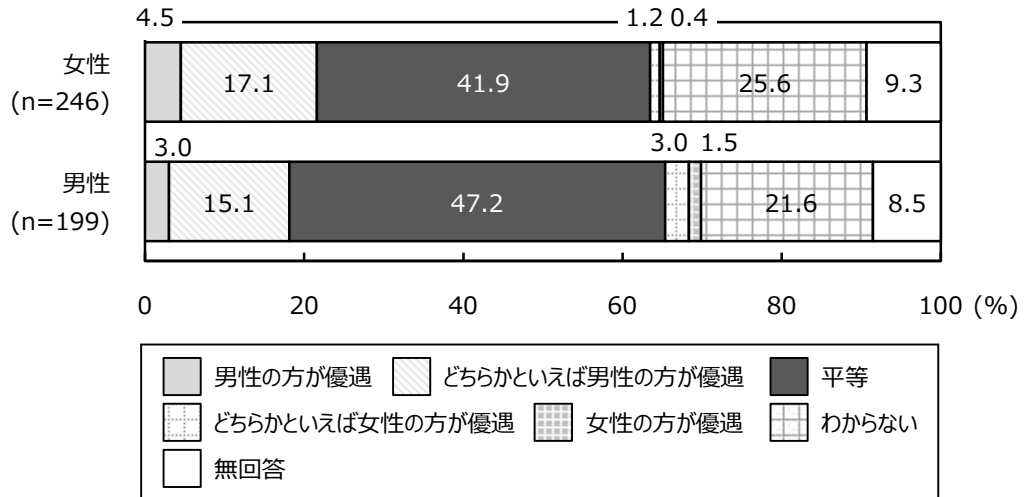
■ 職場

《職場》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が64.6%、《男性》が54.2%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を10.4ポイント上回っています。



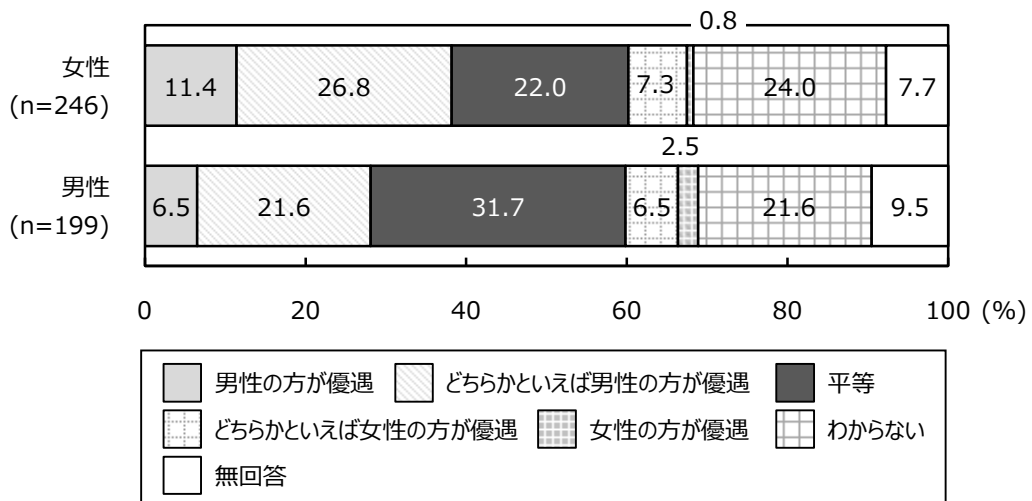
■ 学校教育の場

《学校教育の場》についてみると、男女ともに「平等」が最も高くなっていますが、《女性》が41.9%、《男性》が47.2%と、《男性》の割合の方が高くなっています。



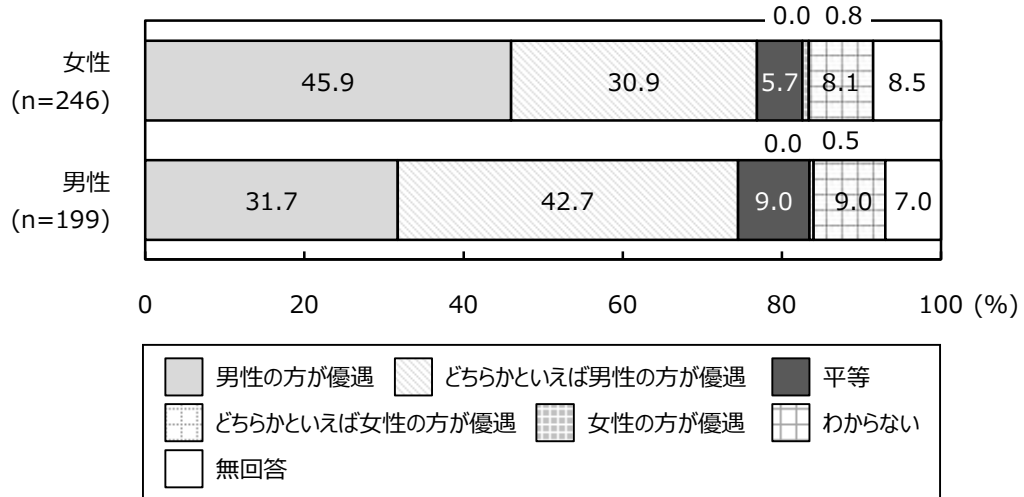
■ 自治会やPTAなどの地域の場合

《自治会やPTAなどの地域の場合》についてみると、《女性》では『男性が優遇』が最も高いのに対し、《男性》では『平等』が最も高くなっています。



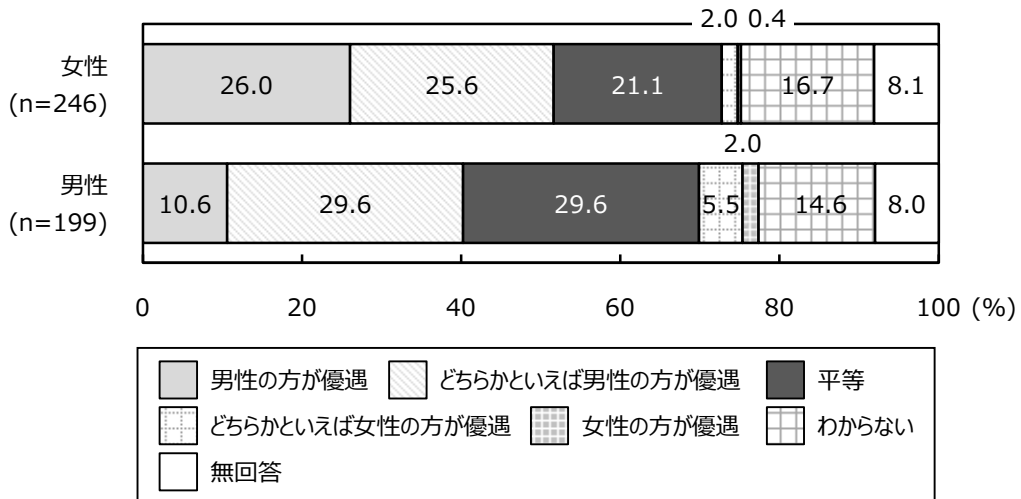
■ 政治の場

《政治の場》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が76.8%、《男性》が74.4%と、《女性》の割合の方が高くなっています。



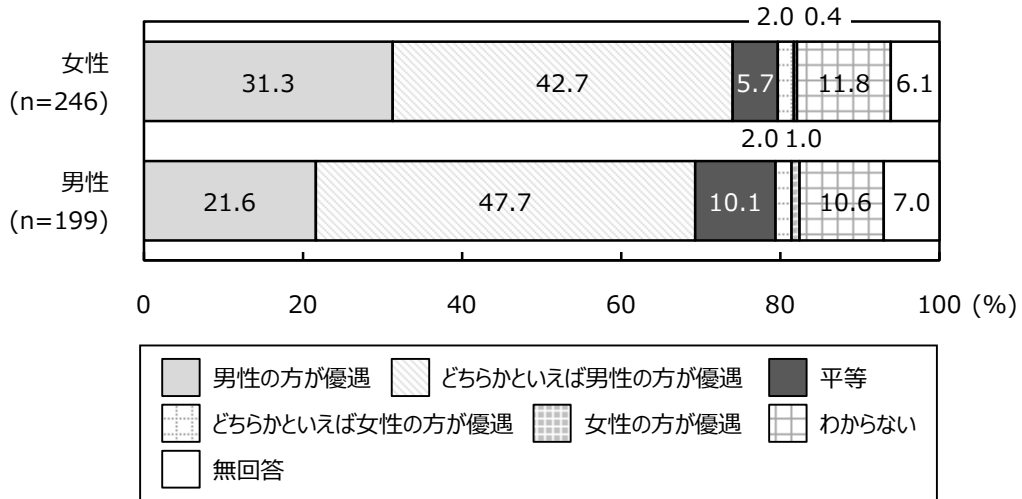
■ 法律・制度の上

《法律・制度の上》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が51.6%、《男性》が40.2%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を11.4ポイント上回っています。



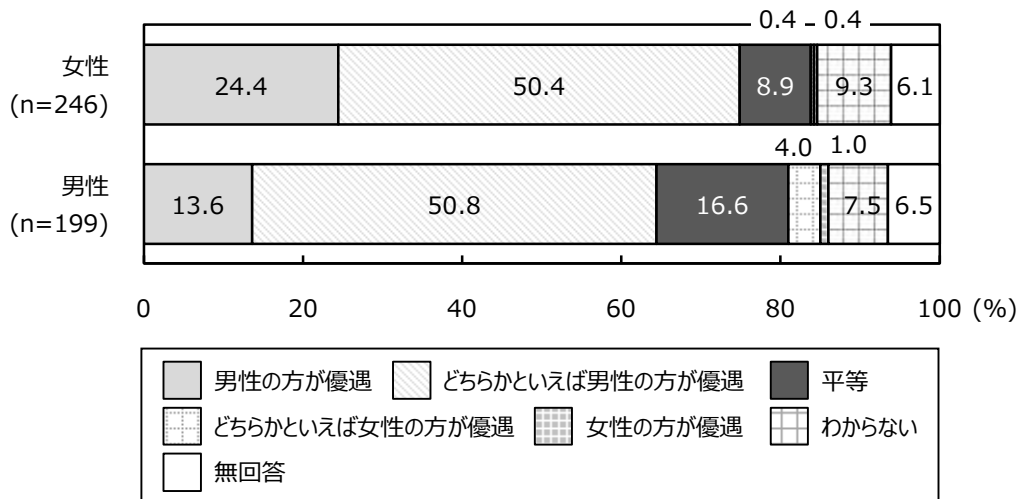
■ 社会通念・慣習やしきたり等

《社会通念・慣習やしきたり等》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が74.0%、《男性》が69.3%と、《女性》の割合の方が高くなっています。



■ 社会全体

《社会全体》についてみると、男女ともに『男性が優遇』が最も高くなっていますが、《女性》が74.8%、《男性》が64.4%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を10.4ポイント上回っています。



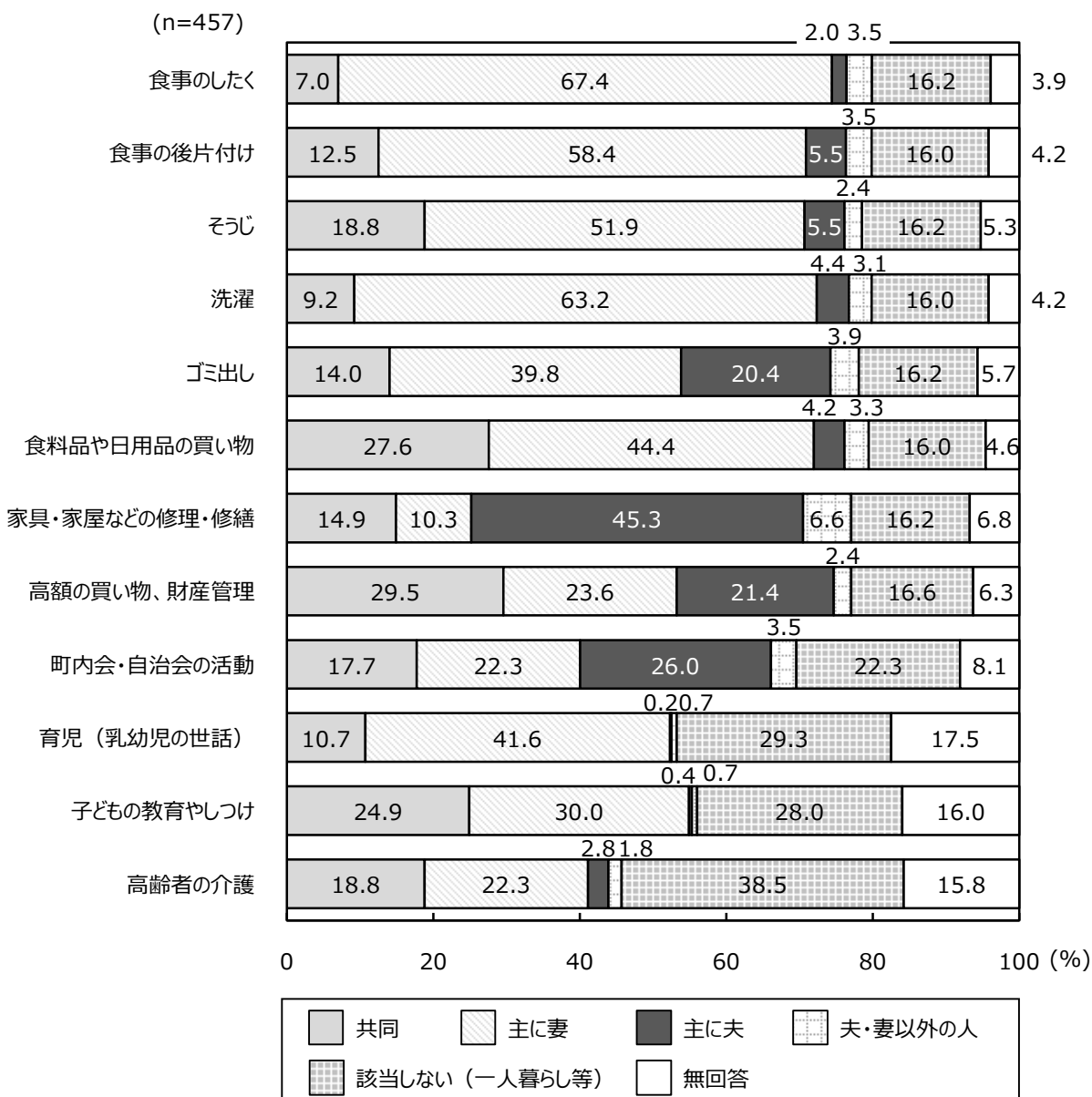
3. 家庭生活について

問 10 あなたのご家族では、次の事柄は主にどなたが担当されていますか。（単数回答）

《高額の買い物、財産管理》については「共同」が最も高くなっていますが、《家具・家屋などの修理・修繕》、《町内会・自治会の活動》では「主に夫」が最も高く、《高齢者の介護》を除くそれ以外の分野では「主に妻」が最も高くなっています。《高齢者の介護》については「該当しない」が最も高くなっていますが、それ以外でみると「主に妻」が最も高くなっています。

「共同」の割合についてみると、最も割合が高い《高額の買い物、財産管理》では 29.5%となっており、次いで、《食料品や日用品の買い物》が 27.6%、《子どもの教育やしつけ》が 24.9%となっています。

一方、《食事のしたく》、《洗濯》については「主に妻」の割合が特に高く、60%以上となっています（順に 67.4%、63.2%）。

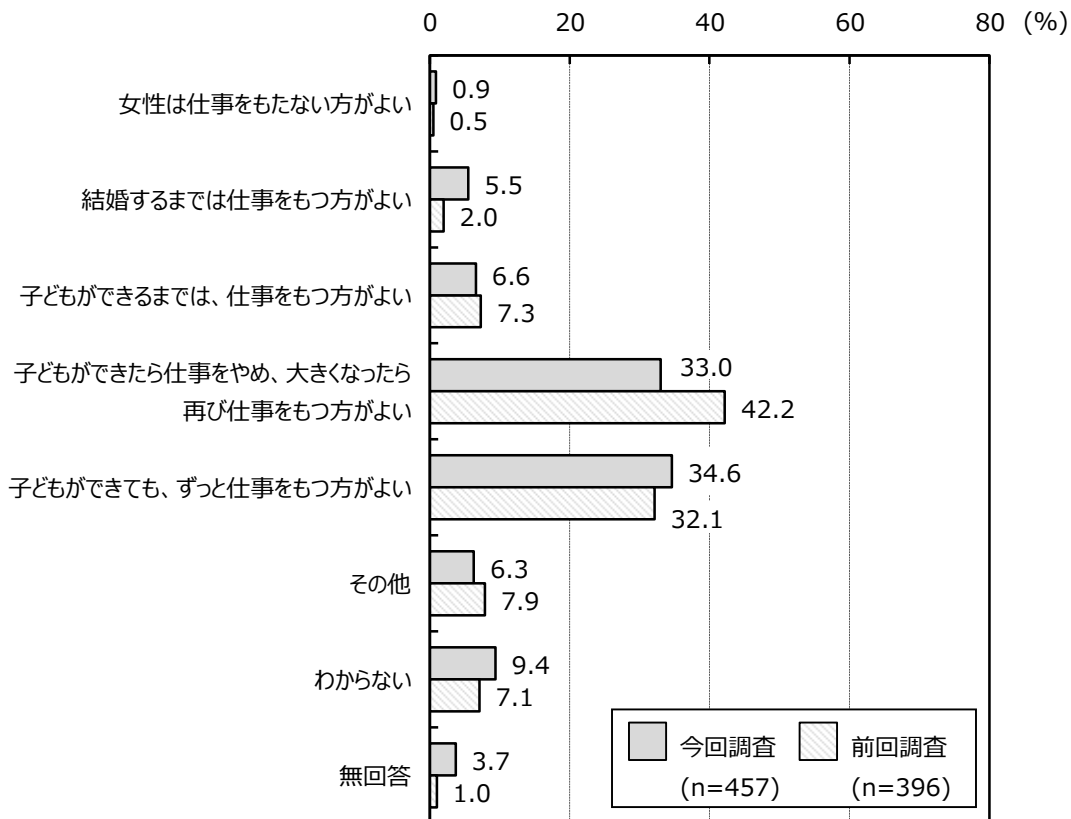


4. 仕事と家庭生活(ワーク・ライフ・バランス)について

問 11 一般的に女性が仕事と家庭を両立することについて、あなたはどう思いますか。
(単数回答)

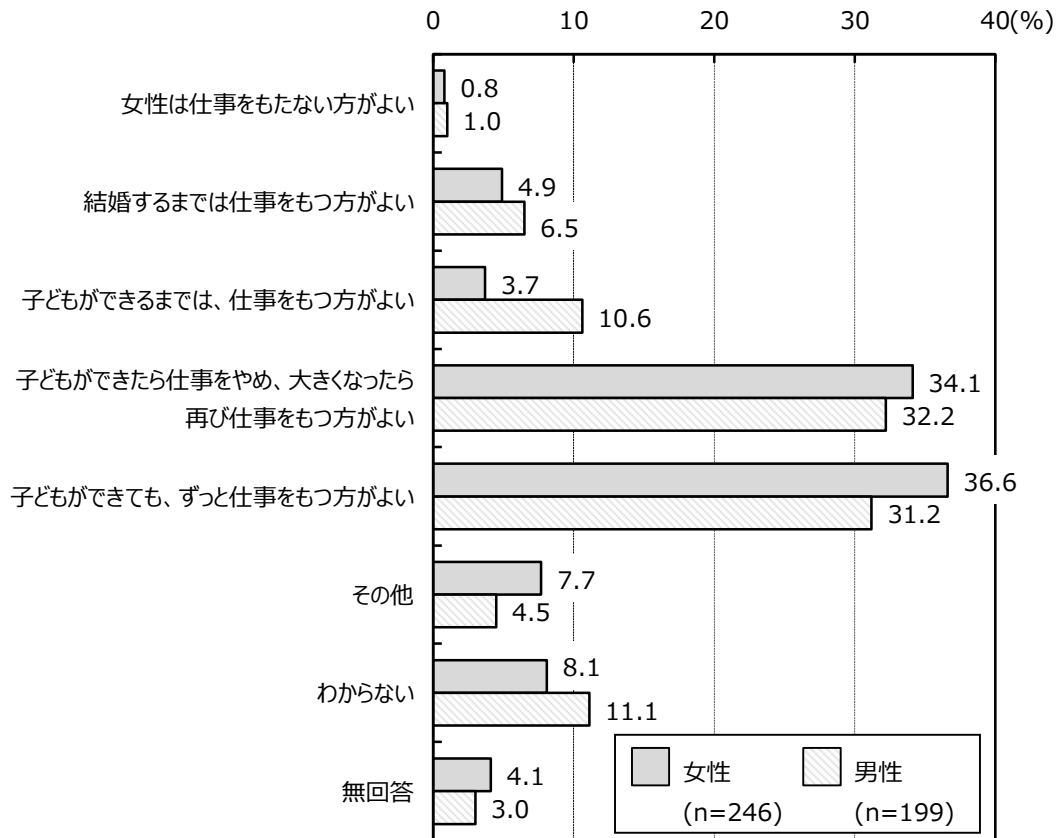
前回調査は、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が最も高かったのに対し、今回調査では「子どもができて、ずっと仕事をもつ方がよい」が最も高く、前回調査より増加し、34.6%となっています（前回調査：32.1%）。

次に割合が高いのは「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」となっていますが、割合は前回調査より減少し、33.0%となっています（前回調査：42.2%）。



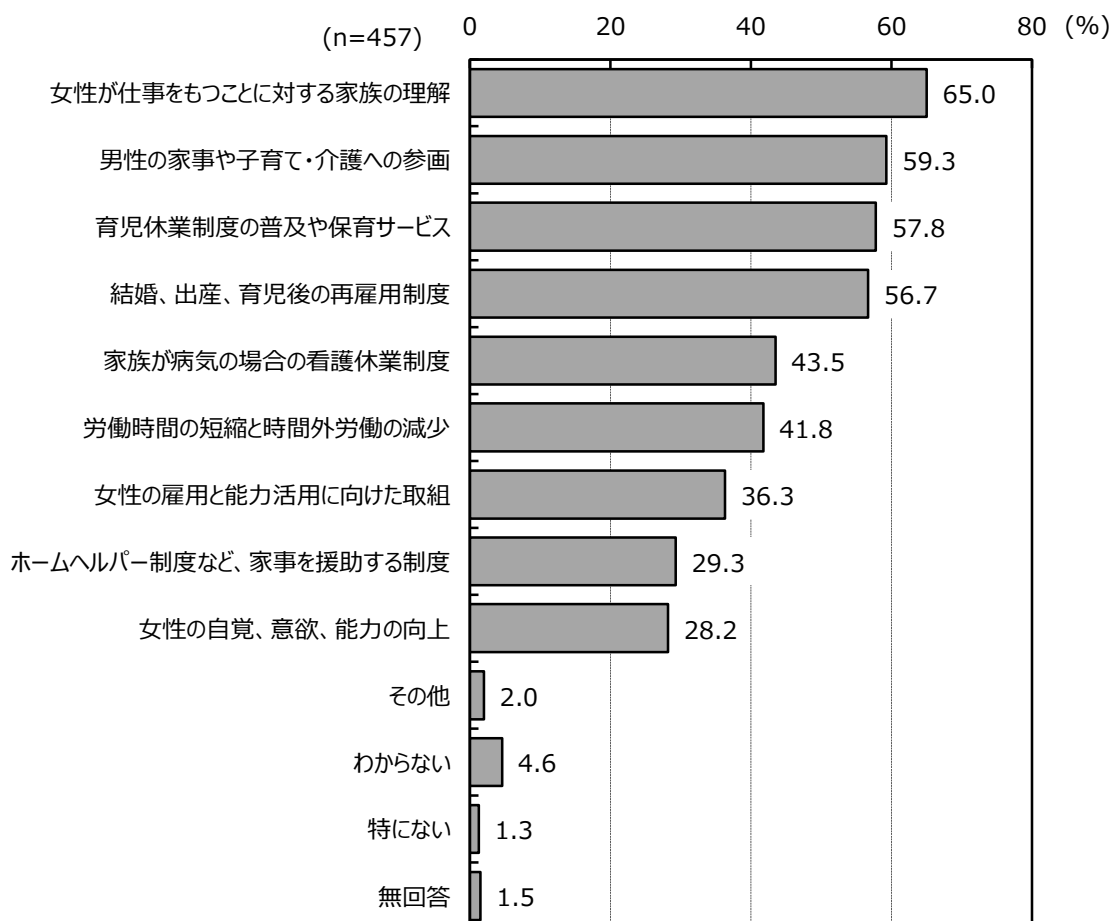
【クロス集計分析（性別）】

《女性》は「子どもができて、ずっと仕事をもつ方がよい」が最も高いのに対し、《男性》は「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が最も高くなっています。



問 12 男女が対等に働くために必要なことは、どのようなことだと思いますか。（複数回答）

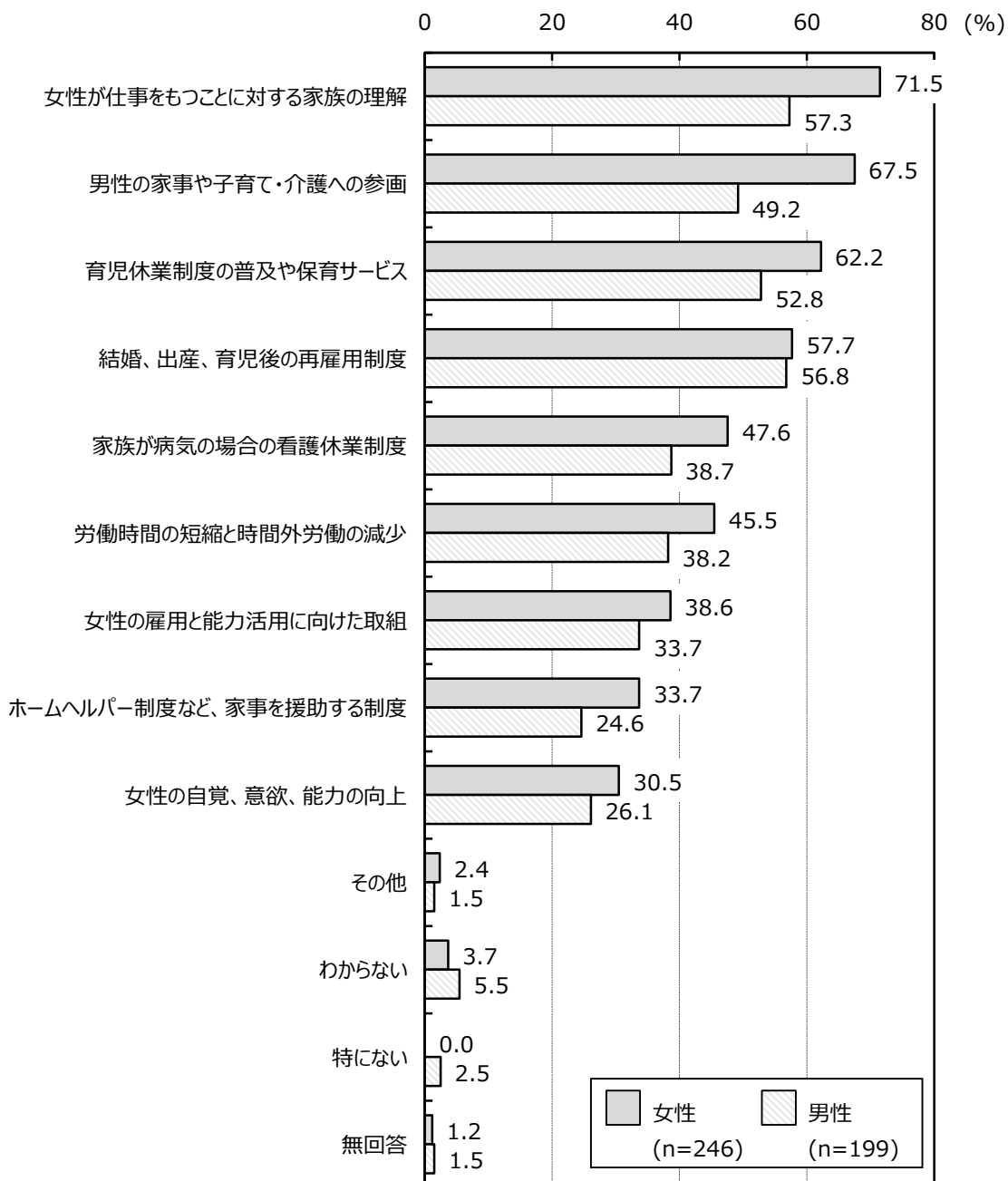
「女性が仕事をもつことに対する家族の理解」が65.0%と最も高く、次いで、「男性の家事や子育て・介護への参画」が59.3%、「育児休業制度の普及や保育サービス」が57.8%、「結婚、出産、育児後の再雇用制度」が56.7%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

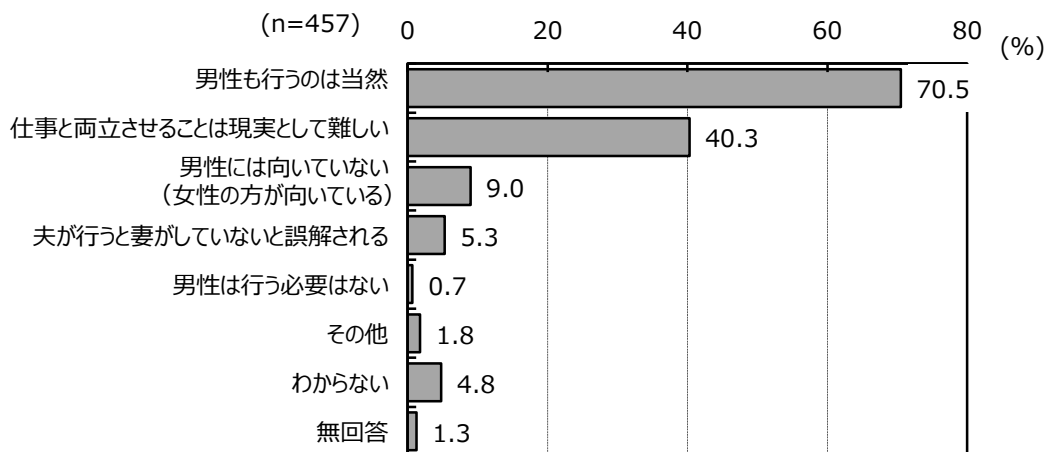
男女ともに「女性が仕事をもつことに対する家族の理解」が最も高くなっていますが、2番目に割合が高いものについてみると、《女性》は「男性の家事や子育て・介護への参画」、《男性》は「結婚、出産、育児後の再雇用制度」となっています。

「女性が仕事をもつことに対する家族の理解」、「男性の家事や子育て・介護への参画」の割合については男女差が大きく、《女性》が《男性》を10ポイント以上上回っています（順に14.2ポイント、18.3ポイント）。



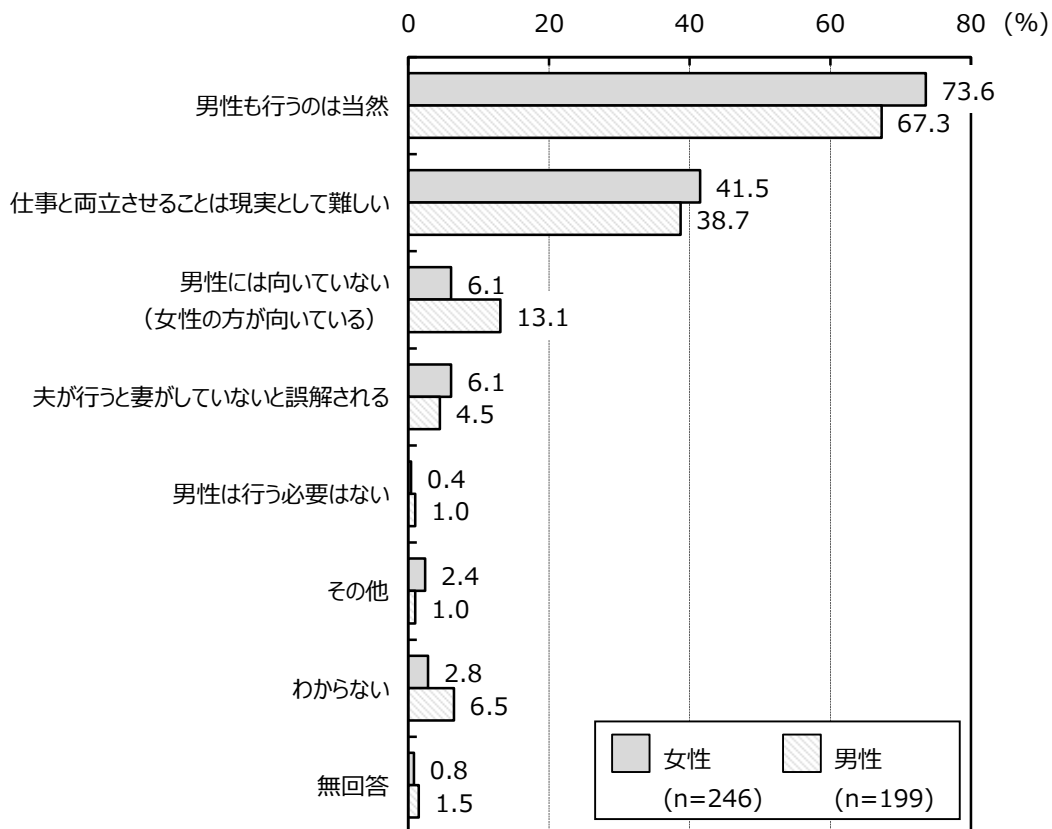
問 13 男性が家事・子育て・介護等を行うことについて、あなたはどのように思いますか。（複数回答）

「男性も行うのは当然」が70.5%と最も高く、次いで、「仕事と両立させることは現実として難しい」が40.3%となっています。



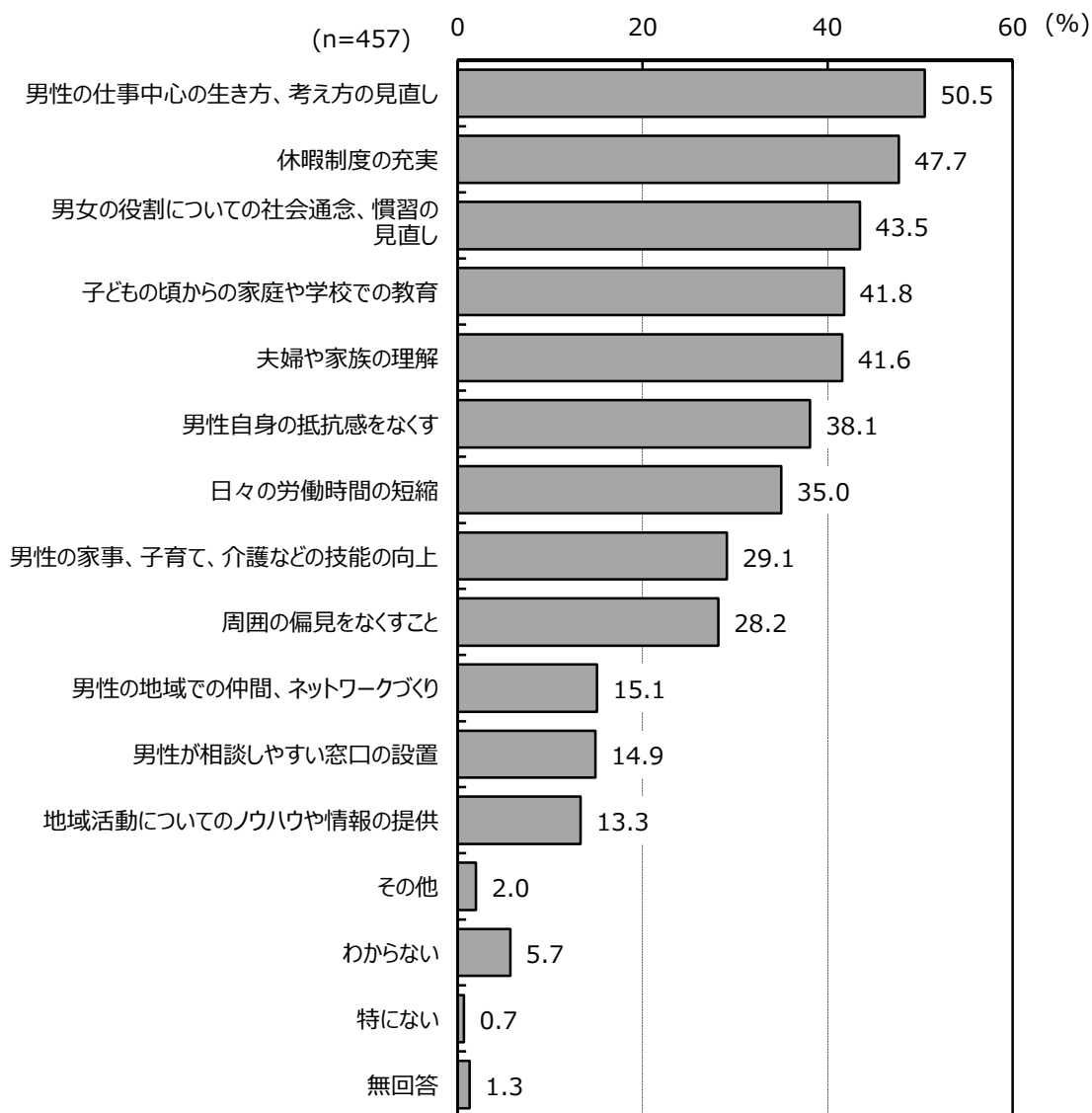
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「男性も行うのは当然」、「仕事と両立させることは現実として難しい」の順で高くなっています。



問 14 今後、男性が家事や子育て、介護、地域活動へ積極的に参加をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

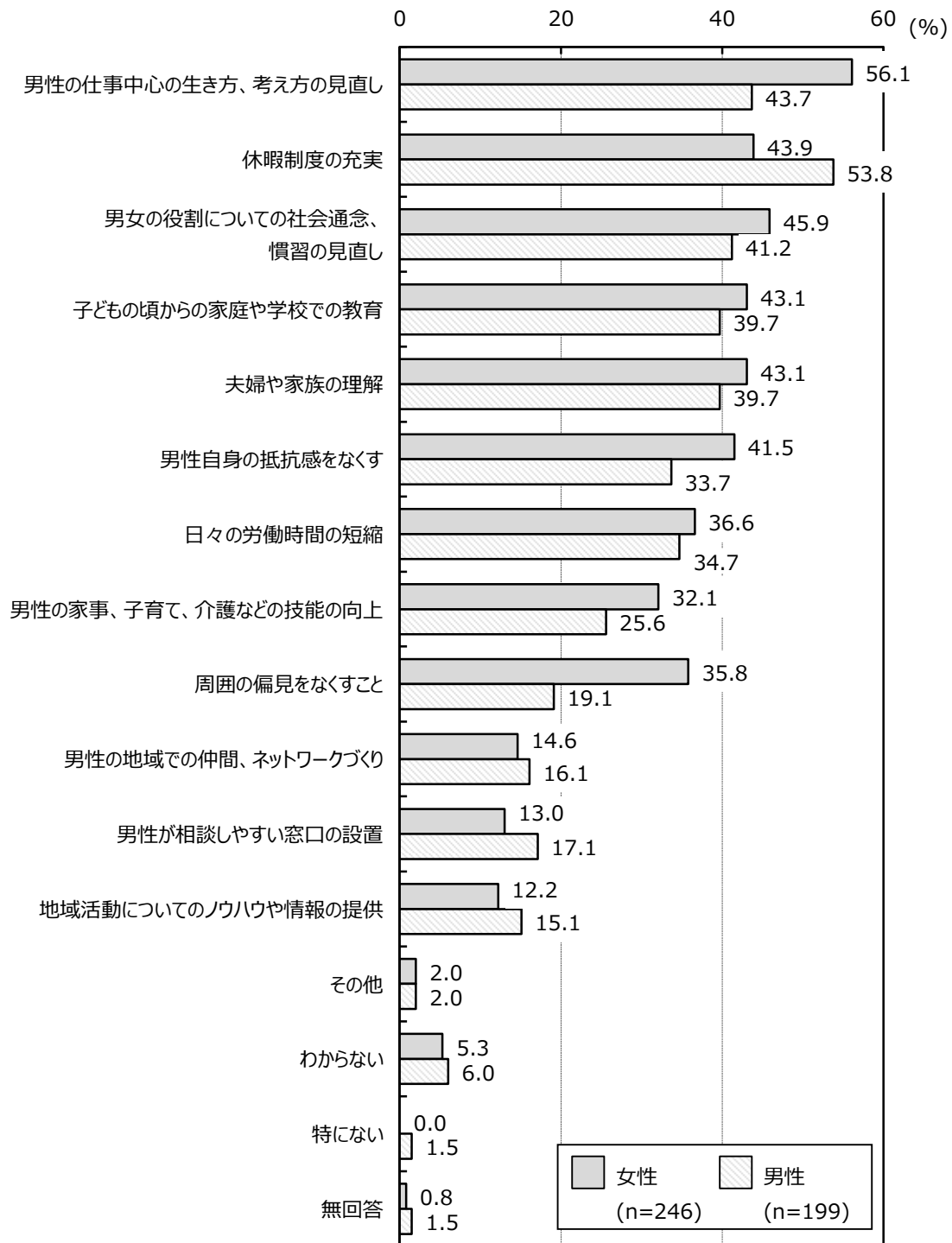
「男性の仕事中心の生き方、考え方の見直し」が 50.5%と最も高く、次いで、「休暇制度の充実」が 47.7%、「男女の役割についての社会通念、慣習の見直し」が 43.5%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

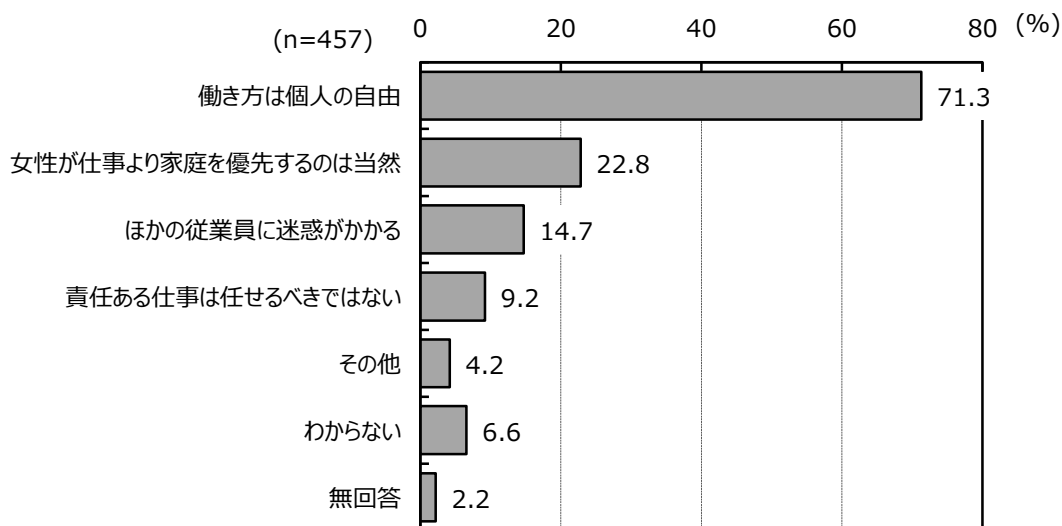
《女性》は「男性の仕事中心の生き方、考え方の見直し」が最も高いのに対し、《男性》は「休暇制度の充実」が最も高くなっています。「男性の仕事中心の生き方、考え方の見直し」については特に男女差が大きく、《女性》が《男性》を 12.4 ポイント上回っています。

また、《女性》では「周囲の偏見をなくすこと」の割合も比較的高くなっているのに対し、《男性》の割合は 20% 未満となっています。



問 15 女性が家庭を理由に短時間勤務をしたり、残業をしなかったりすることについてどう思いますか。
(複数回答)

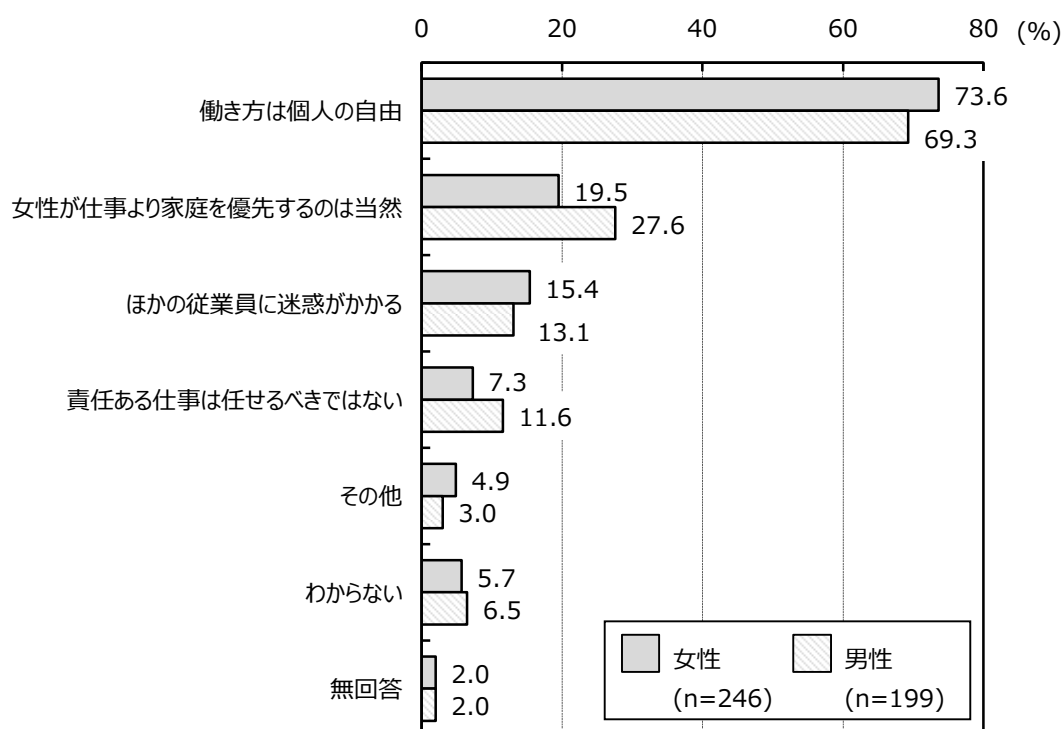
「働き方は個人の自由」が71.3%と最も高くなっています。その後は差が開き、「女性が仕事より家庭を優先するのは当然」が22.8%、「ほかの従業員に迷惑がかかる」が14.7%と続いています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「働き方は個人の自由」が最も高くなっています。

「女性が仕事より家庭を優先するのは当然」の割合については、《男性》の方が高くなっています。

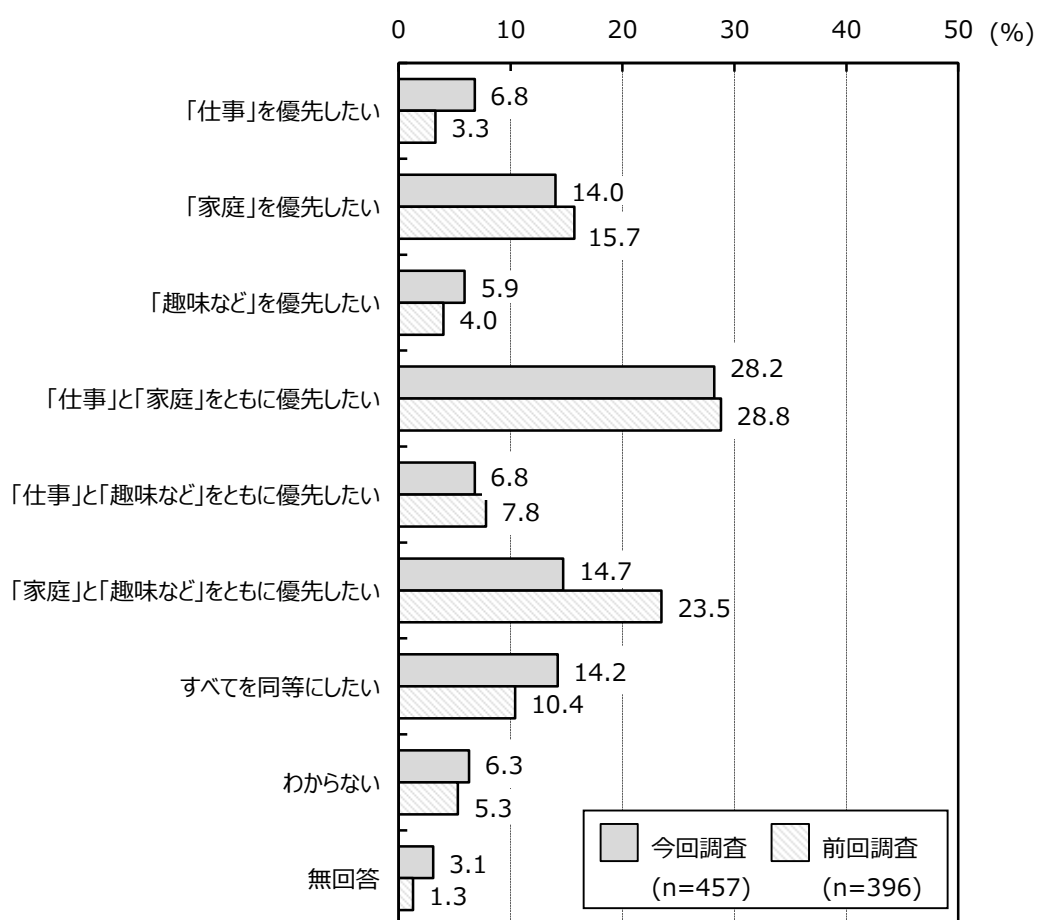


問 16 生活の中での「仕事」、「家庭」、「趣味など（地域活動・学習・趣味・付き合い）」についての優先度についてお答えください。（単数回答）

■ 希望の優先度

前回調査と同様に、「仕事」と「家庭」をともに優先したいが最も高く、28.2%となっています。次いで、「家庭」と「趣味など」をともに優先したいが14.7%、「すべてを同等にしたい」が14.2%、「家庭」を優先したいが14.0%となっています。

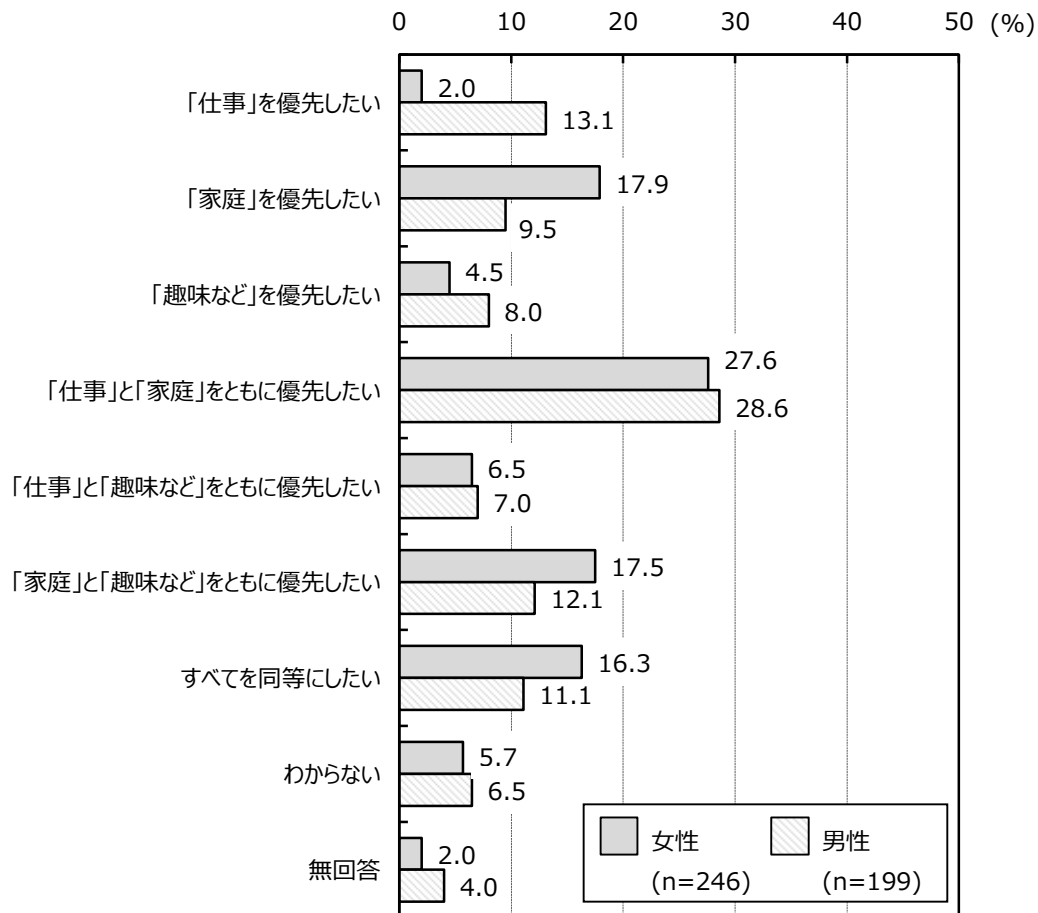
前回調査と比較すると、「仕事」と「家庭」をともに優先したいはわずかながら減少しており（前回調査：28.8%）、「すべてを同等にしたい」は前回調査から増加しています（前回調査：10.4%）。「家庭」と「趣味など」をともに優先したいについては前回調査より大きく減少しています（前回調査：23.5%）。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「仕事」と「家庭」をともに優先したいが最も高くなっています。

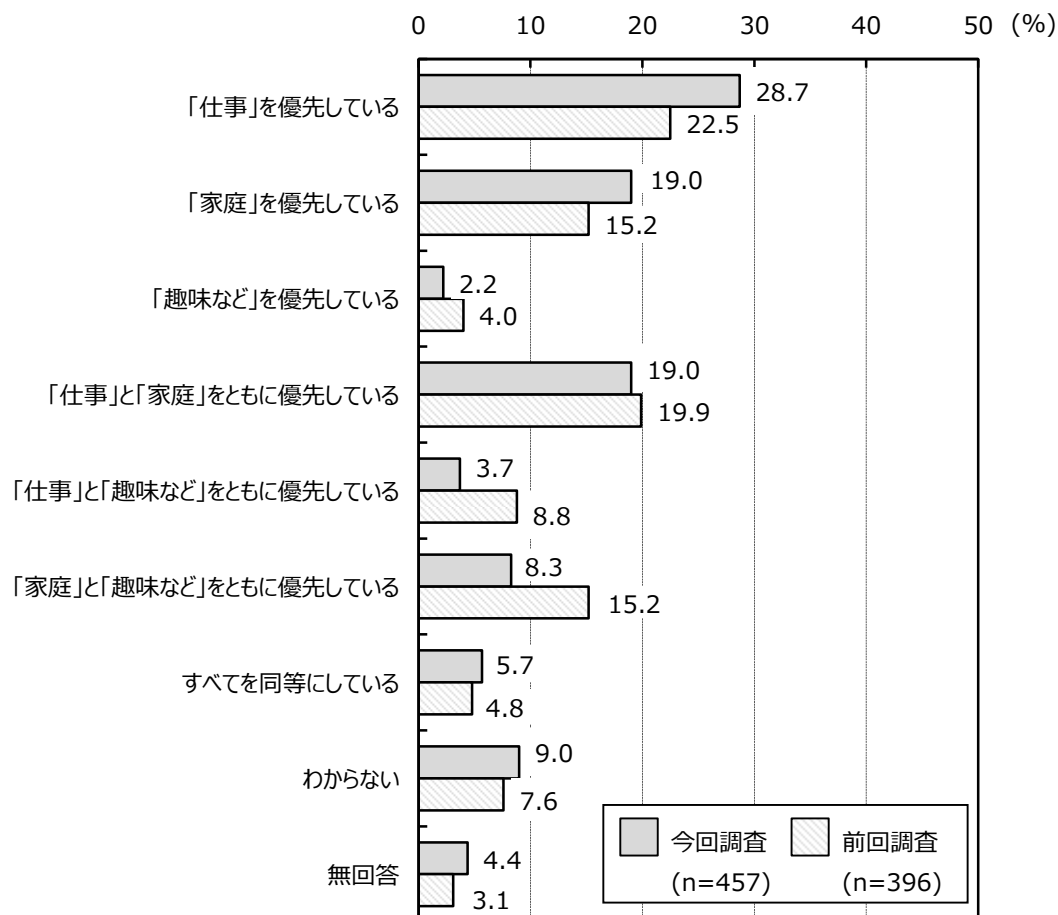
また、「仕事」を優先したいの割合については《男性》の方が高く、「家庭」を優先したいの割合については《女性》の方が高くなっています。



■ 実際の優先度

前回調査と同様に、「仕事」を優先している」が最も高く、28.7%となっています。次いで、「家庭」を優先している」、「仕事」と「家庭」をともに優先している」がともに 19.0%となっています。

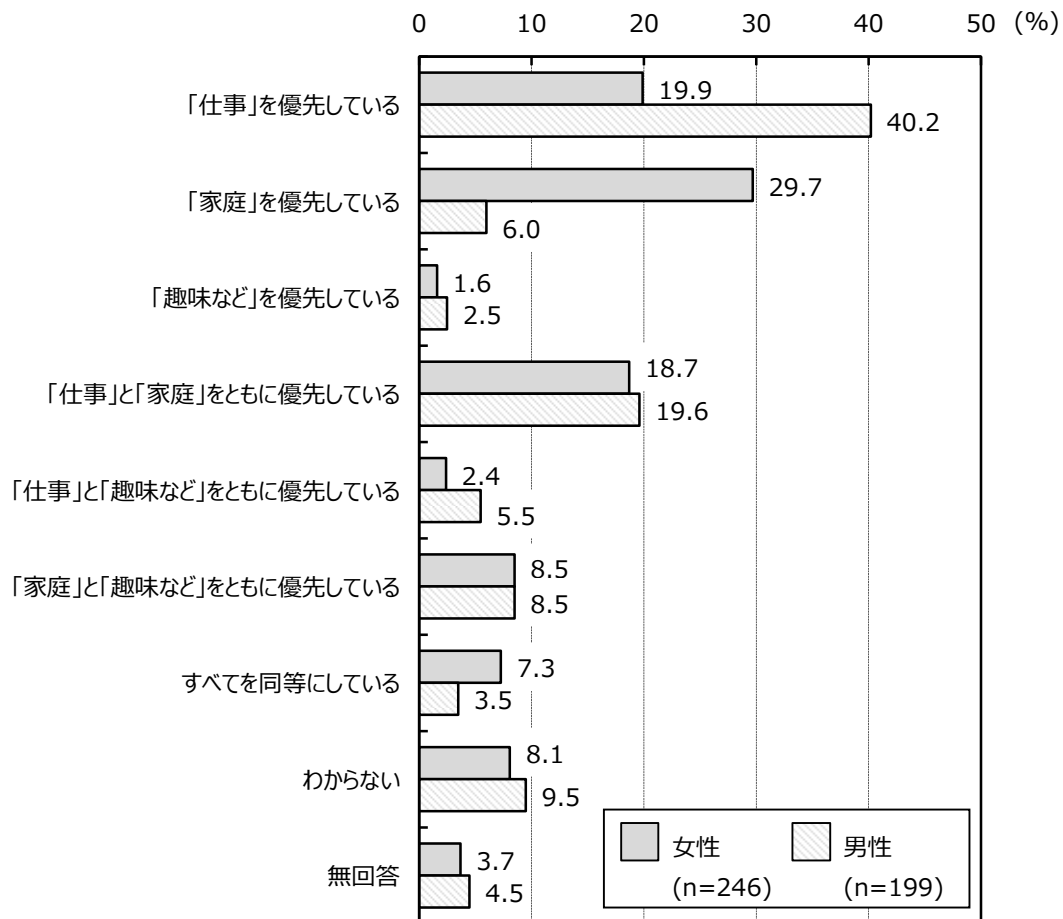
「仕事」を優先している」、「家庭」を優先している」の割合については前回調査より増加していますが（前回調査：順に 22.5%、15.2%）、「仕事」と「家庭」をともに優先している」はわずかながら減少しています（前回調査：19.9%）。



【クロス集計分析（性別）】

《女性》は「家庭」を優先している」が最も高いのに対し、《男性》は「仕事」を優先している」が最も高くなっています。

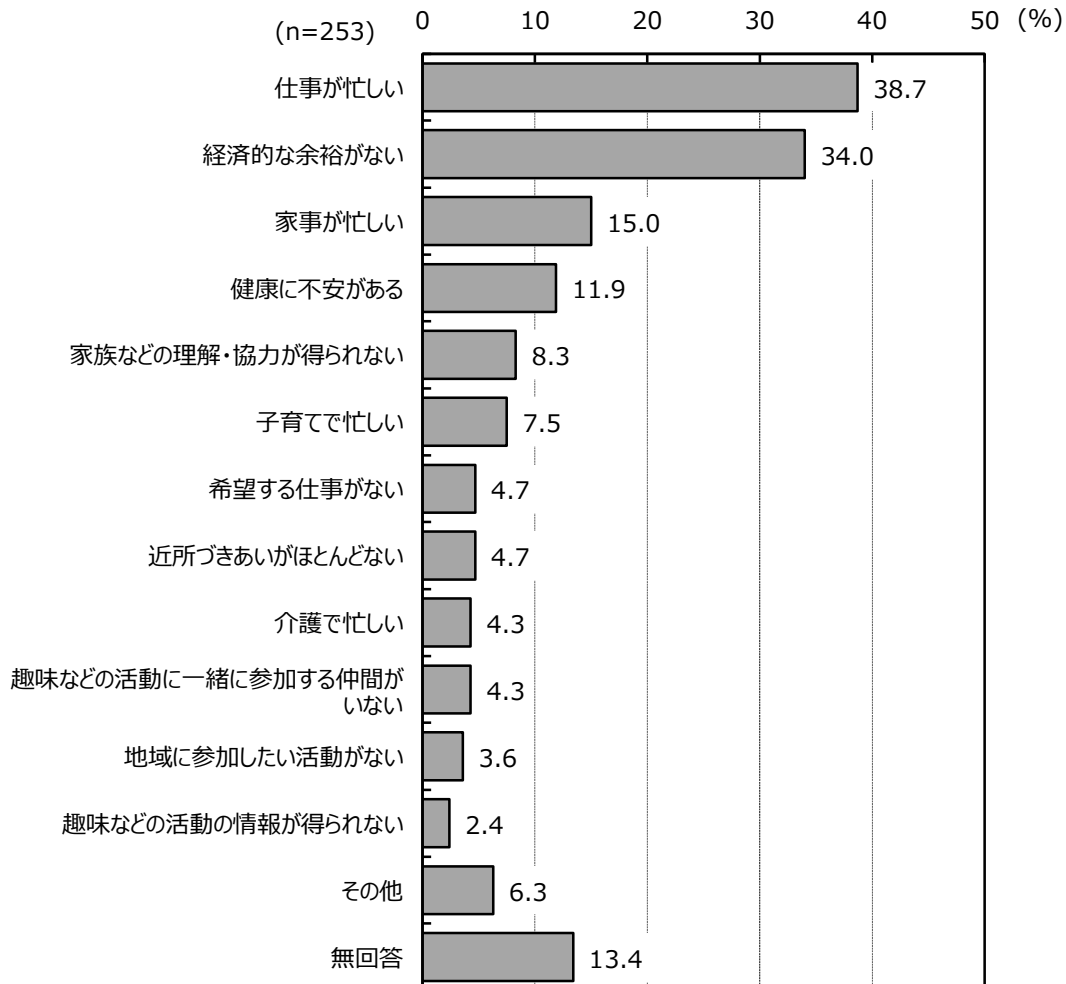
その割合を比較すると、ともに男女差が大きくなっており、「家庭」を優先している」については《女性》が《男性》を23.7ポイント上回り、「仕事」を優先している」については《男性》が《女性》を20.3ポイント上回っています。



問 16 の①希望と②現実が一致していない人にお聞きます

問 16-1 希望と現実が一致していない理由は何ですか。(複数回答)

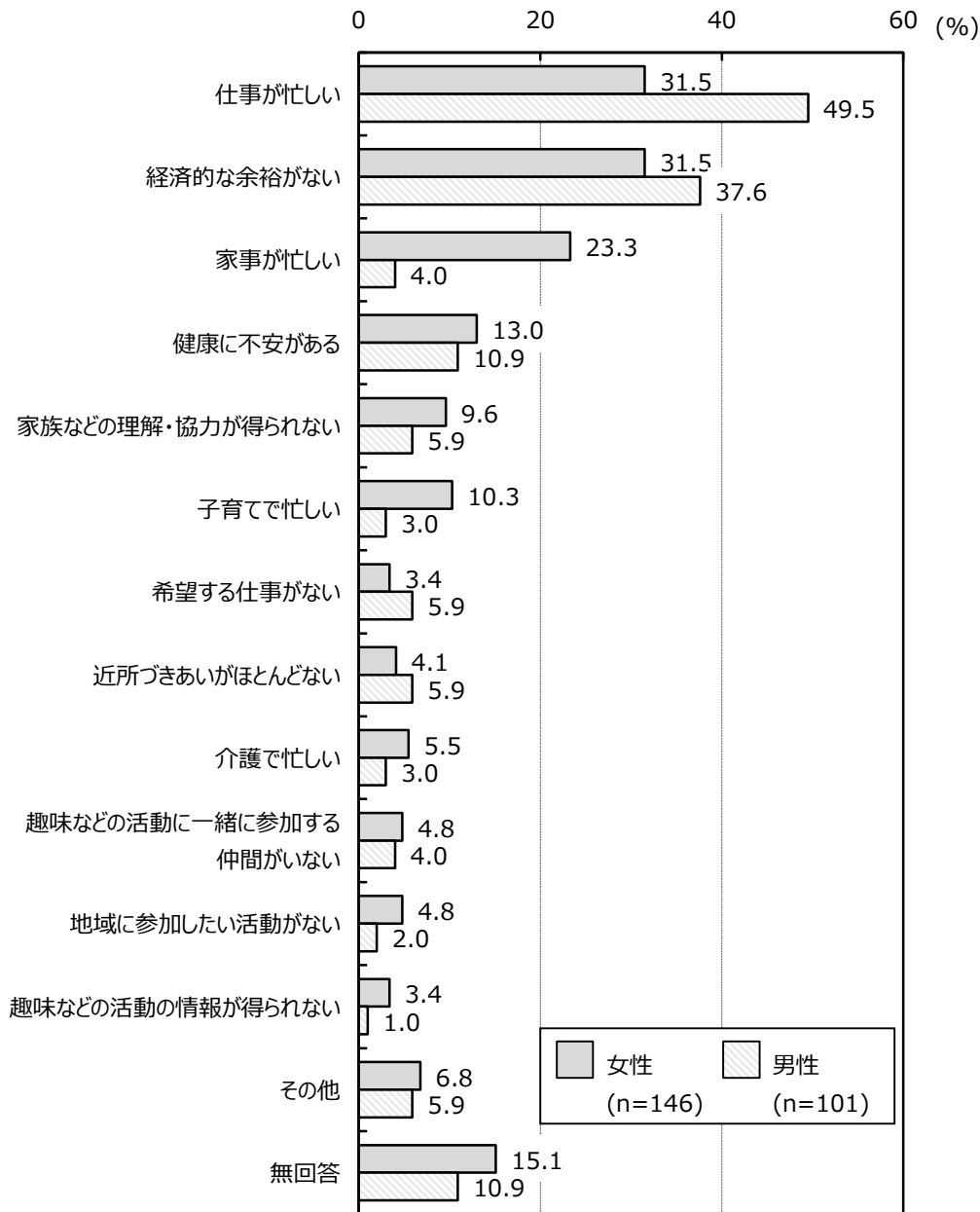
「仕事が忙しい」が 38.7%と最も高く、次いで、「経済的な余裕がない」が 34.0%、「家事が忙しい」が 15.0%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

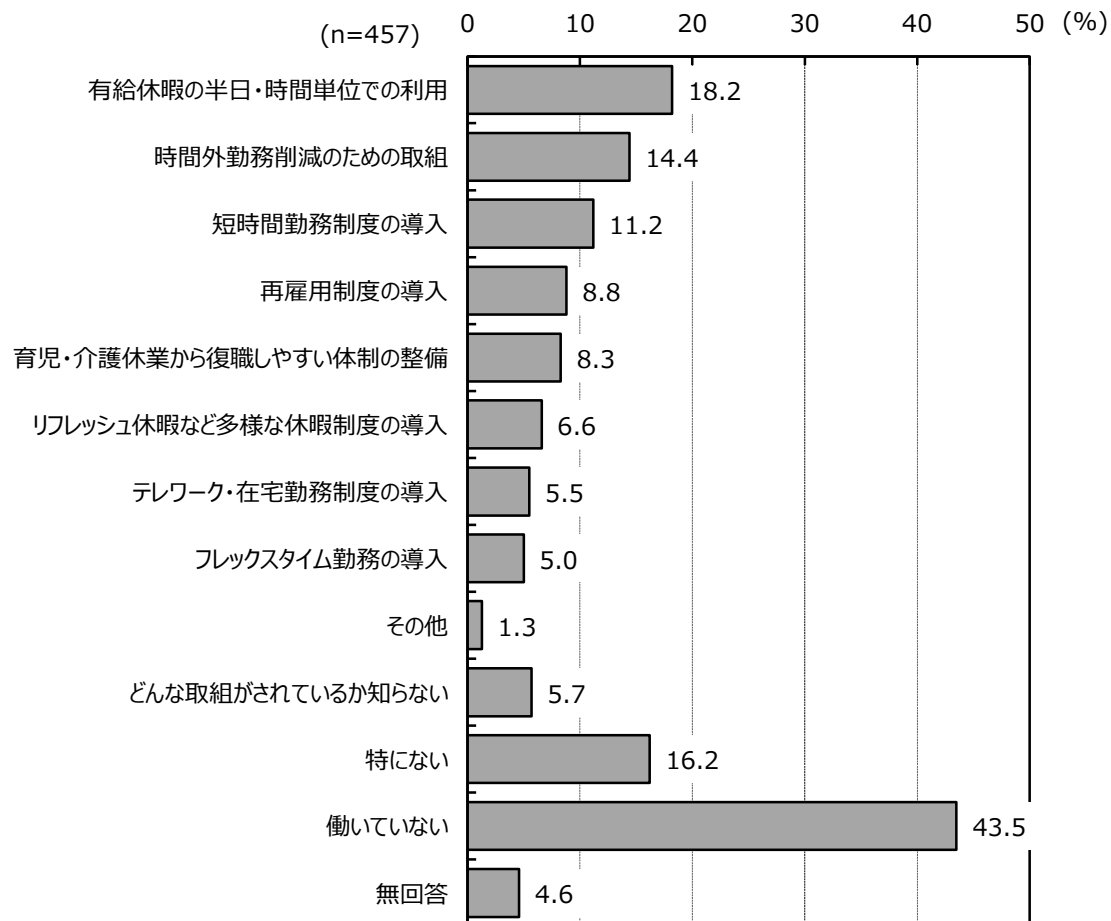
《女性》は「仕事が忙しい」、「経済的な余裕がない」が同率で最も高いのに対し、《男性》は「仕事が忙しい」が最も高くなっています。「仕事が忙しい」の割合については男女差が大きく、《男性》が《女性》を 18.0 ポイント上回っています。

また、「家事が忙しい」の割合については、《女性》は 23.3%であるのに対し、《男性》では 4.0%となっています。



問 17 あなたの職場においてワーク・ライフ・バランスの取組は行われていますか。行われている取組をお答えください。（複数回答）

「働いていない」が43.5%と最も高くなっていますが、それ以外でみると、「有給休暇の半日・時間単位での利用」が18.2%と最も高く、次いで、「時間外勤務削減のための取組」が14.4%、「短時間勤務制度の導入」が11.2%となっています。

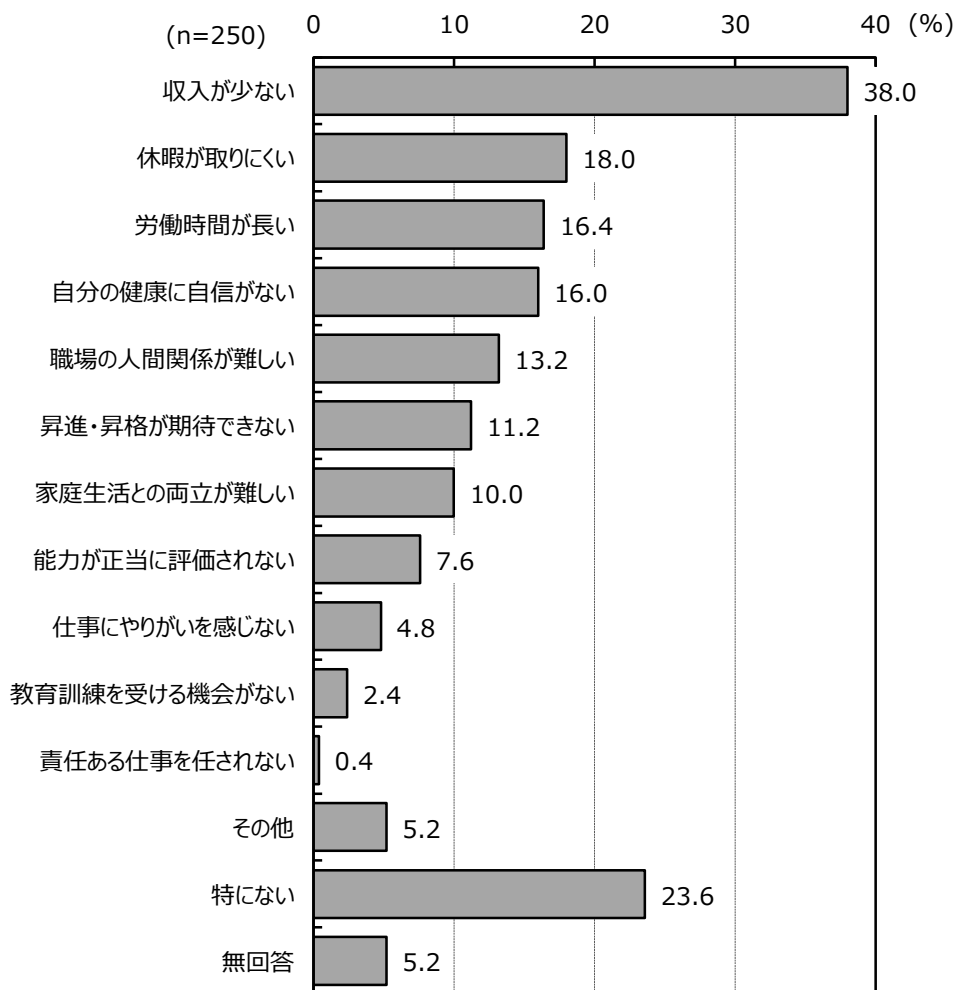


5. 仕事の状況や女性の活躍に関することについて

現在働いている方にお聞きます

問 18 仕事をする上での悩みは何ですか。(複数回答)

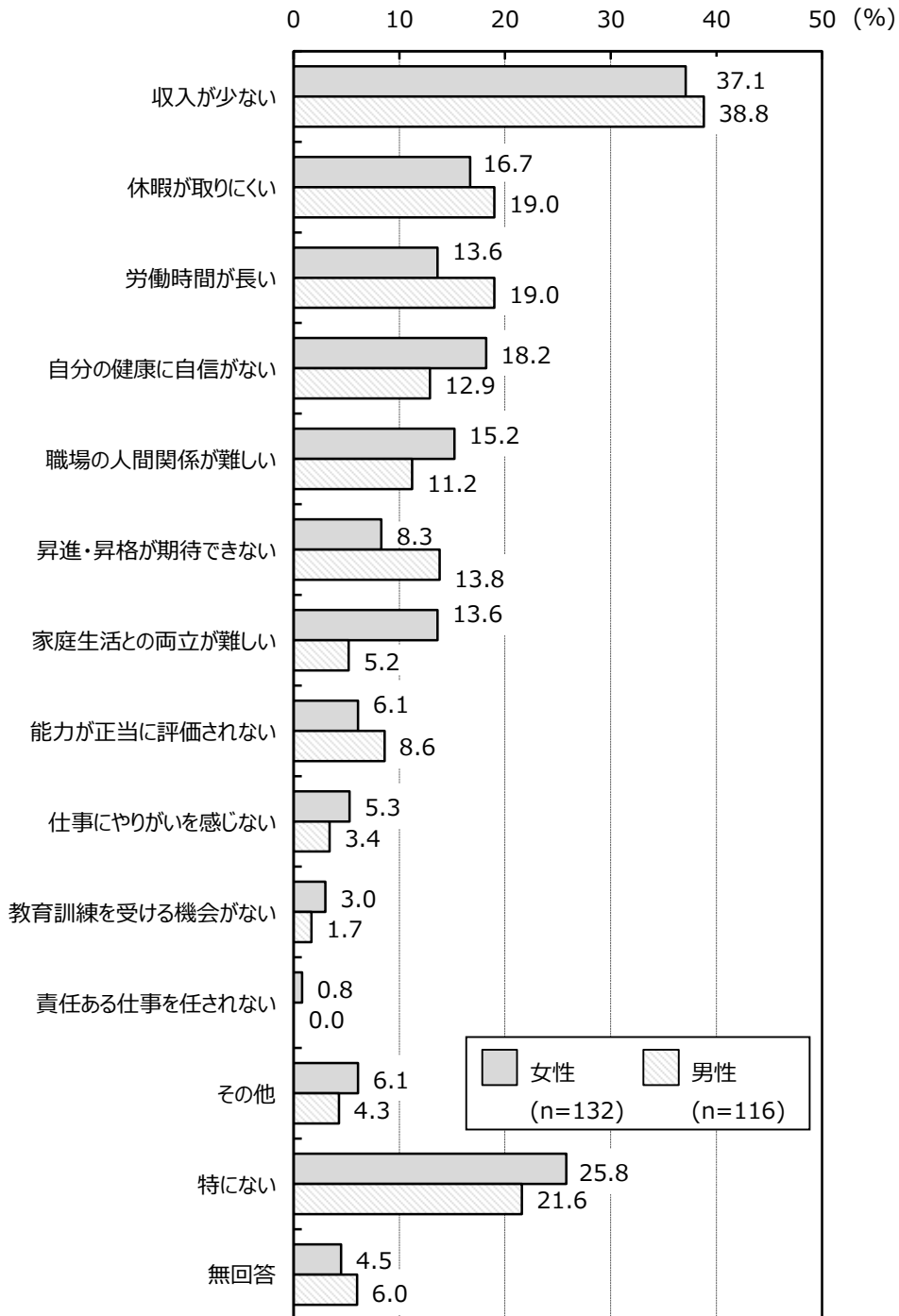
「収入が少ない」が38.0%と最も高くなっています。次いで、「特にない」が23.6%となっていますが、それ以外では「休暇が取りにくい」が18.0%、「労働時間が長い」が16.4%、「自分の健康に自信がない」が16.0%と続いています。



【クロス集計分析（性別）】

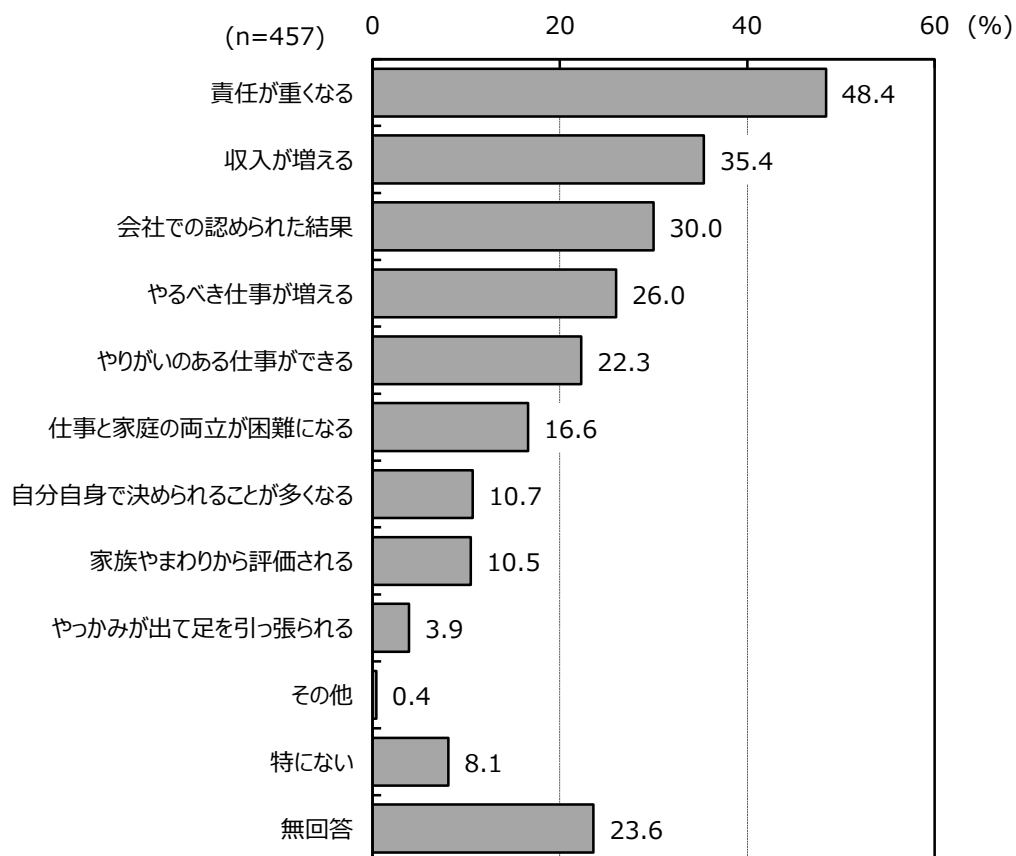
男女ともに「収入が少ない」が最も高くなっています。

また、「家庭生活との両立が難しい」の割合については《女性》の方が高くなっています。



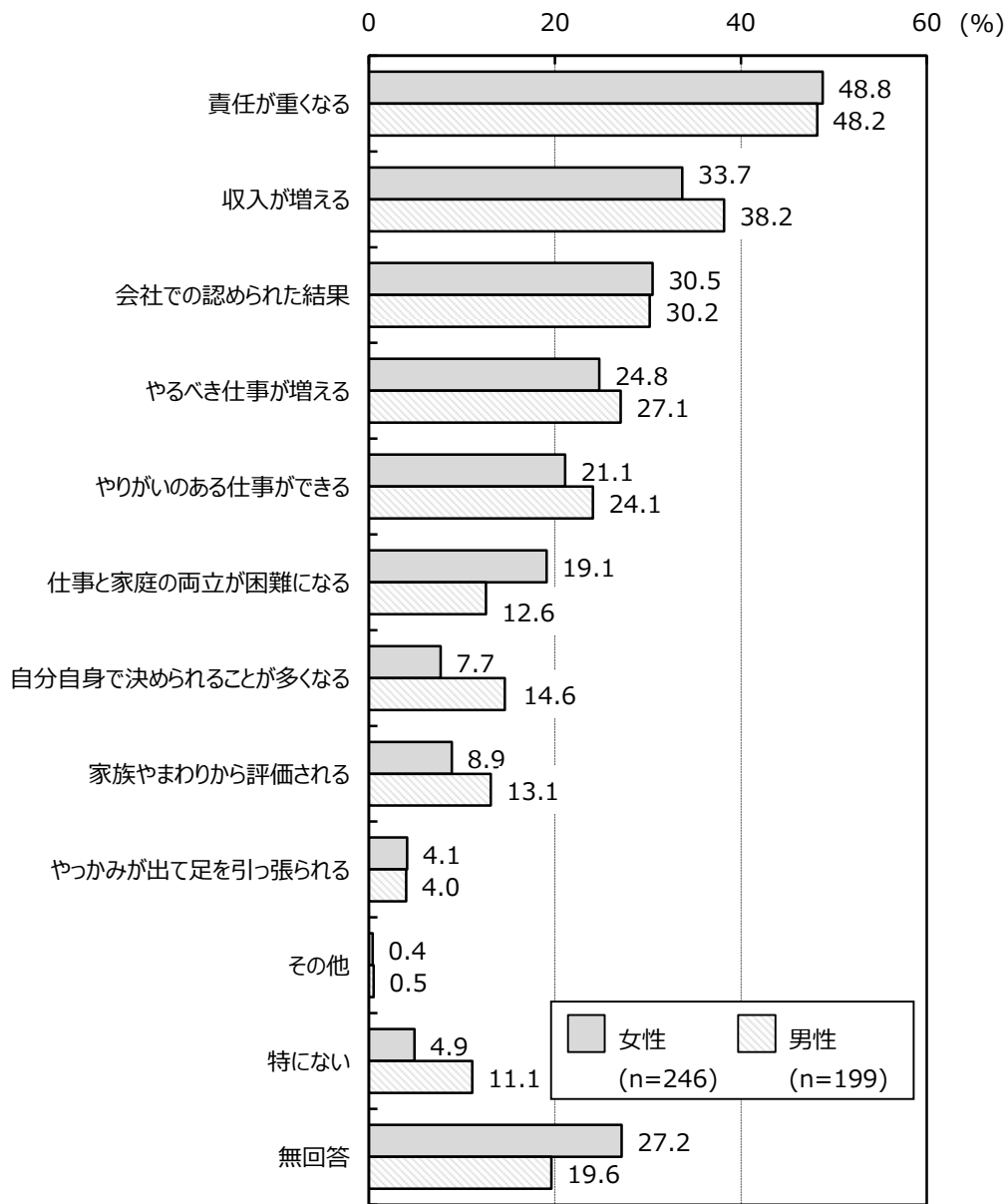
問 19 一般的に管理職以上の役職に昇進することについて、あなたはどのようなイメージをもっていますか。（複数回答）

「責任が重くなる」が48.4%と最も高く、次いで、「収入が増える」が35.4%、「会社での認められた結果」が30.0%となっています。



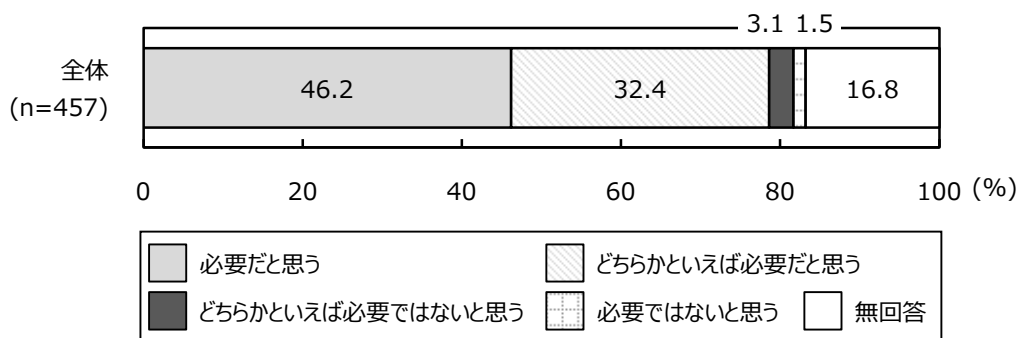
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「責任が重くなる」、「収入が増える」、「会社での認められた結果」の順で割合が高くなっています。



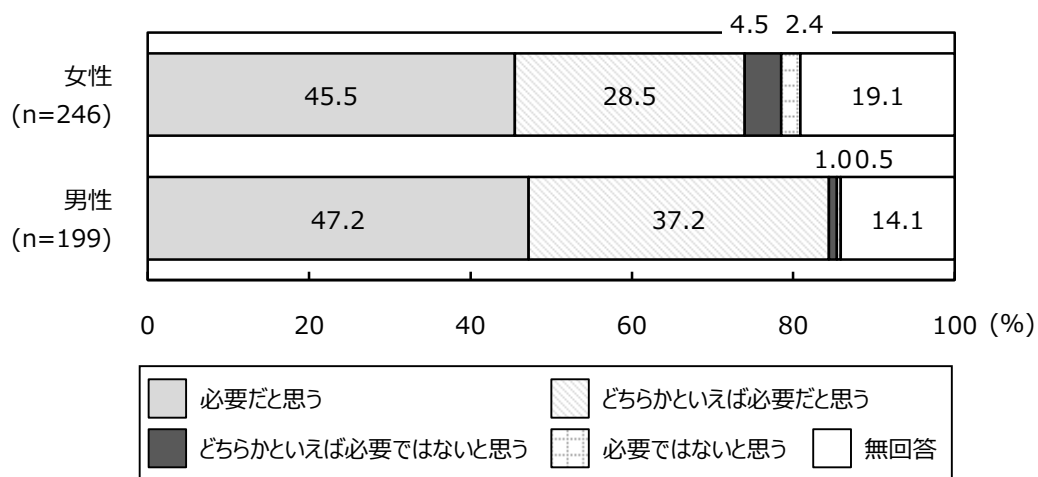
問 20 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについて、あなたはどのように思いますか。
(単数回答)

『必要である』(「必要だと思う」+「どちらかといえば必要だと思う」)と『必要でない』(「必要ではないと思う」+「どちらかといえば必要ではないと思う」)を比較すると、『必要である』が78.6%と、大半を占めています。



【クロス集計分析 (性別)】

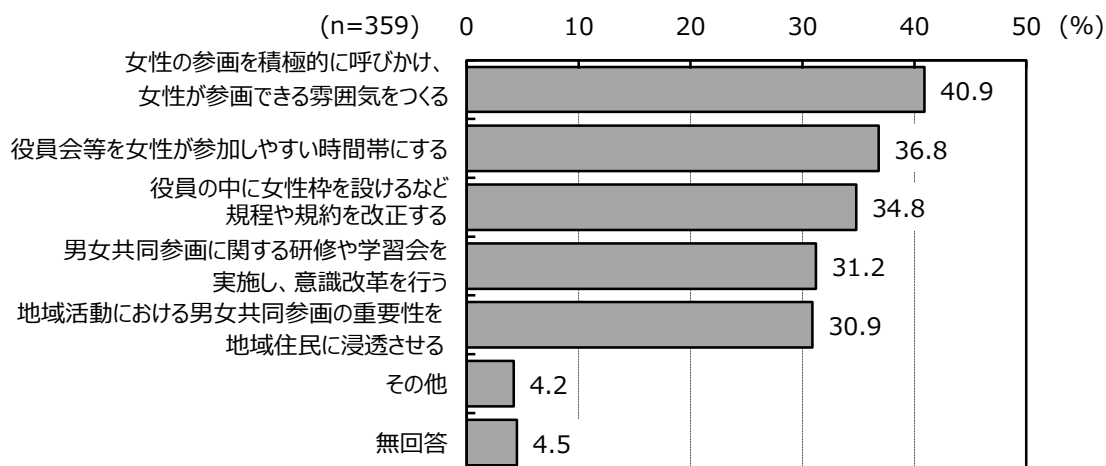
男女とも『必要である』が大半を占めていますが、《女性》は74.0%、《男性》は84.4%となっており、《男性》が《女性》を10.4ポイント上回っています。



問 20 で「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」と回答した人にお聞きます

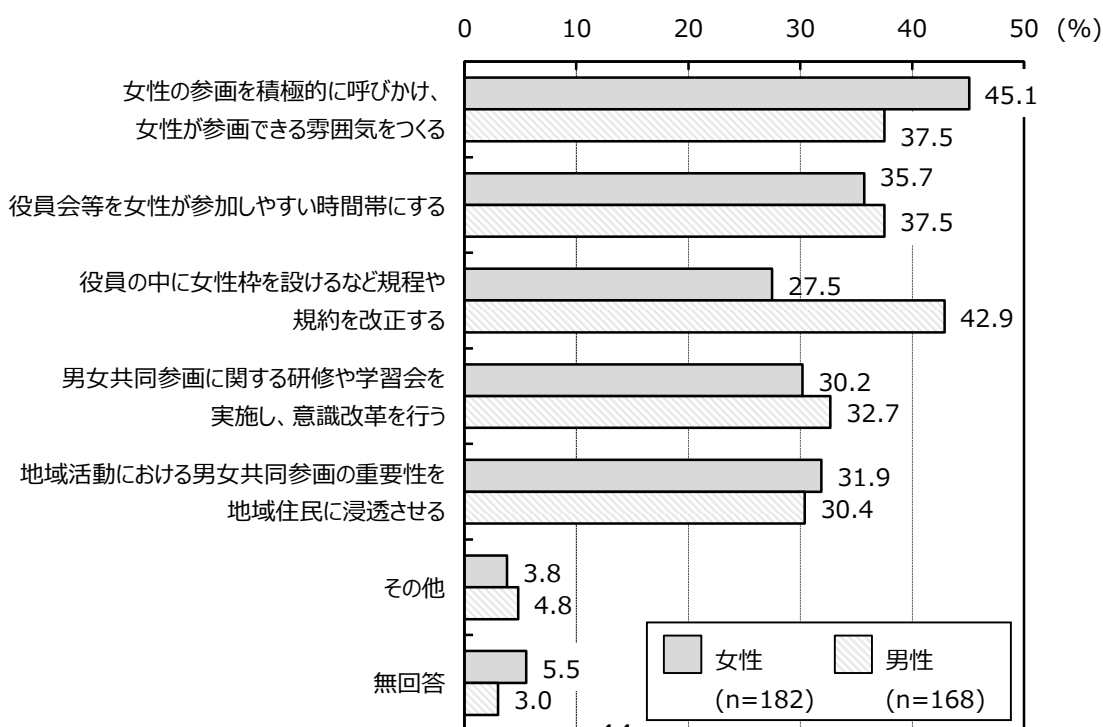
問 20-1 女性の参画を進めるためには何が重要だと思いますか。（複数回答）

「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が40.9%と最も高く、次いで、「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が36.8%、「役員の中に女性枠を設けるなど規程や規約を改正する」が34.8%となっています。



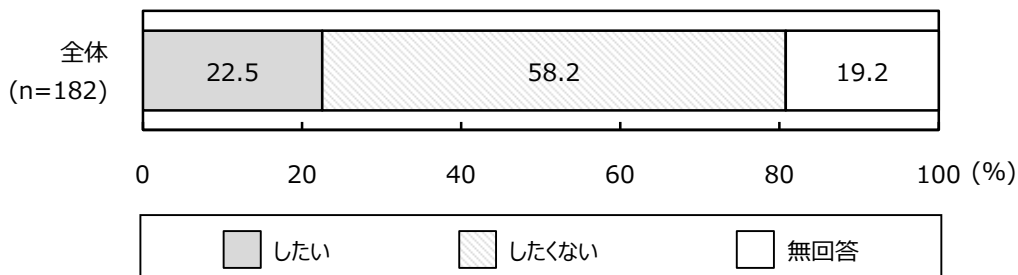
【クロス集計分析（性別）】

《女性》は「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が最も高いのに対し、《男性》は「役員の中に女性枠を設けるなど規程や規約を改正する」が最も高くなっています。「役員の中に女性枠を設けるなど規程や規約を改正する」の割合については男女差が大きく、《男性》が《女性》を15.4ポイント上回っています。



問 20 で「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」と回答した女性にお聞きします
 問 20-2 あなたは地域の意思決定の場へ参画したいと思いますか。（単数回答）

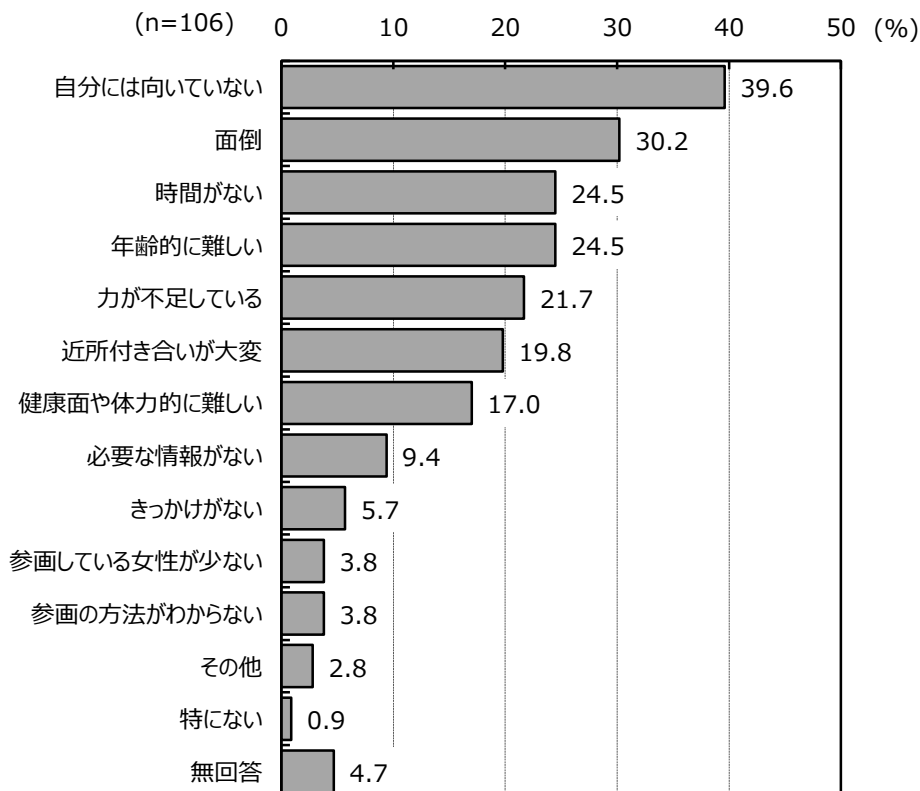
「したい」が 22.5%、「したくない」が 58.2%となっています。



問 20-2 で「したくない」と回答した女性にお聞きします

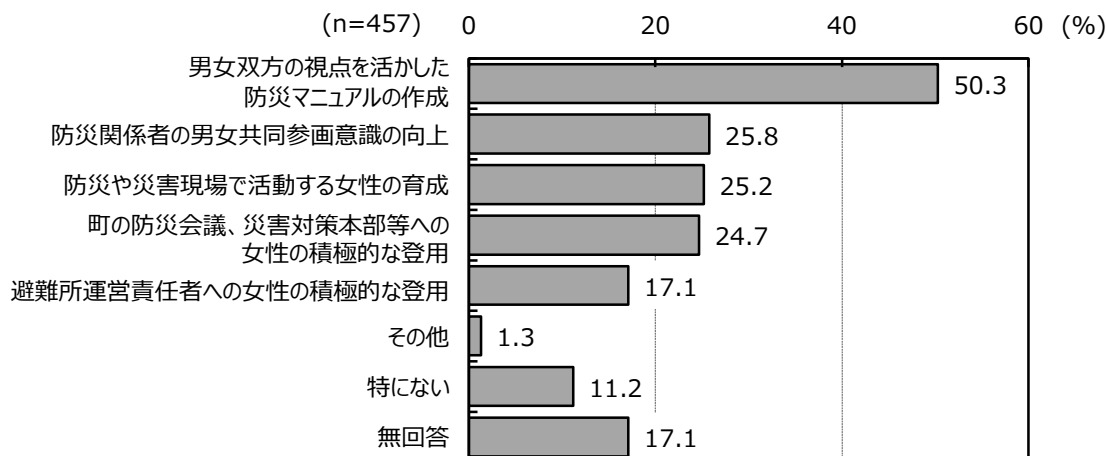
問 20-3 地域の意思決定の場へ参画したくないと思う理由は何ですか。（複数回答）

「自分には向いていない」が 39.6%と最も高く、次いで、「面倒」が 30.2%、「時間がない」、「年齢的に難しい」がともに 24.5%となっています。



問 21 地域において男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、何が必要だと思いますか。（単数回答）

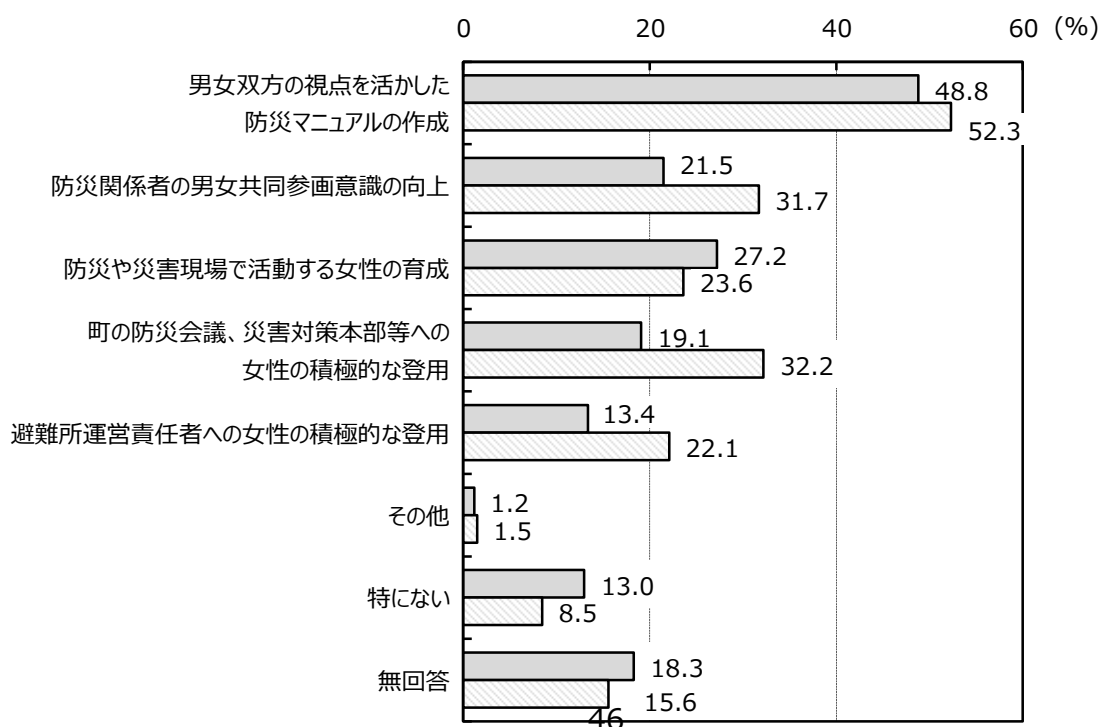
「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が50.3%と最も高く、次いで、「防災関係者の男女共同参画意識の向上」が25.8%、「防災や災害現場で活動する女性の育成」が25.2%、「町の防災会議、災害対策本部等への女性の積極的な登用」が24.7%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が最も高くなっています。

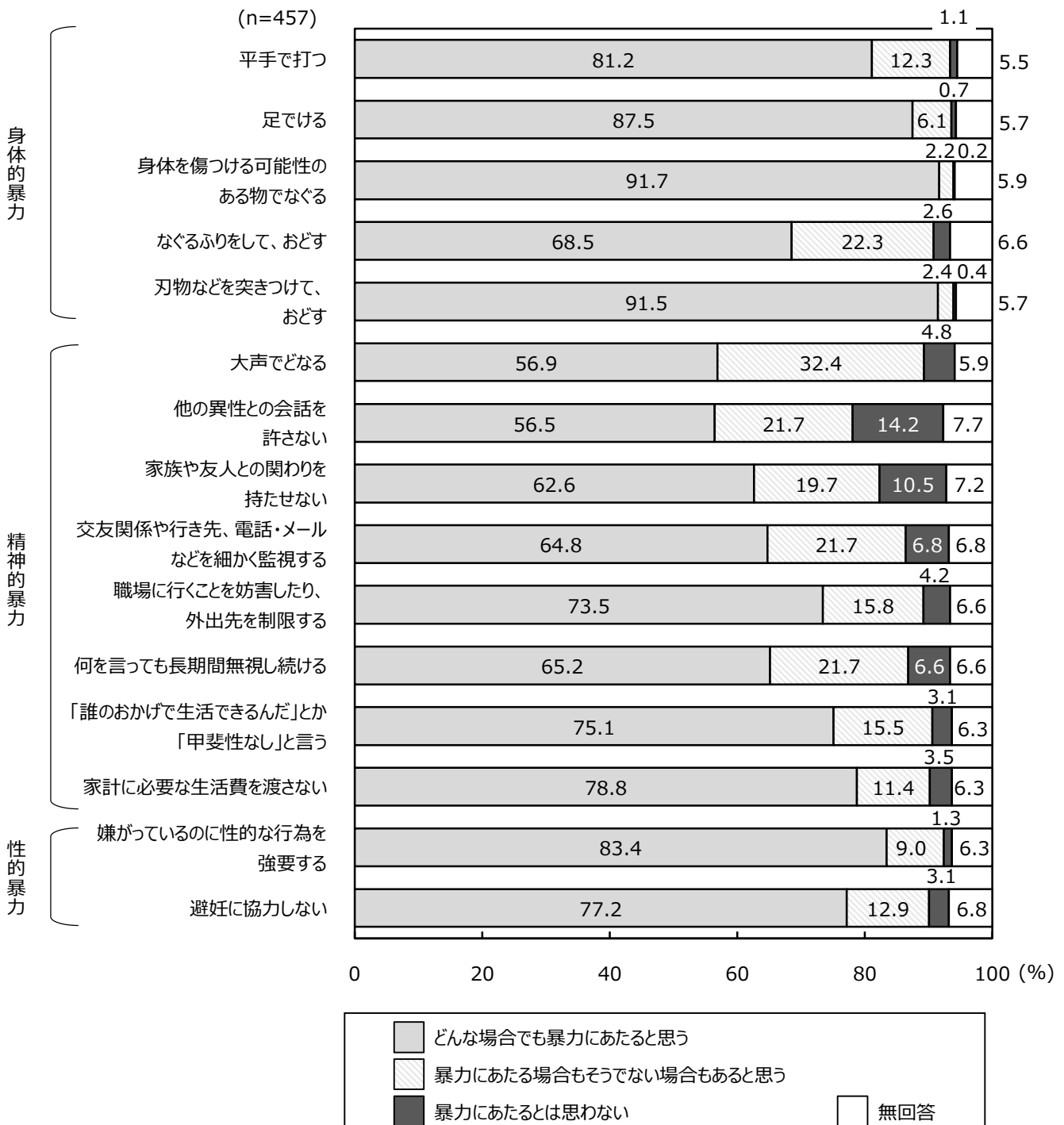
また、「防災関係者の男女共同参画意識の向上」、「町の防災会議、災害対策本部等への女性の積極的な登用」の割合については男女差が大きく、《男性》が《女性》を10ポイント以上上回っています（順に10.2ポイント、13.1ポイント）。



6. 男女の人権について

問 22 次のようなことが夫婦またはパートナー、交際相手の間で行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いませんか。（単数回答）

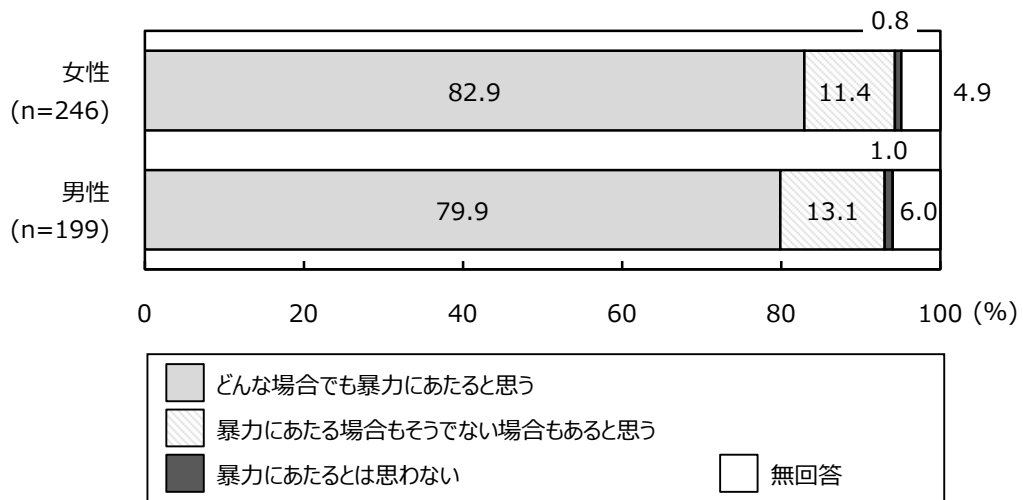
いずれの項目も「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《身体を傷つける可能性のある物でなぐる》、《刃物などを突きつけて、おどす》での割合が特に高くなっています。一方、《大声でどなる》、《他の異性との会話を許さない》での割合は低い傾向にあり、50%台となっています。



【クロス集計分析（性別）】

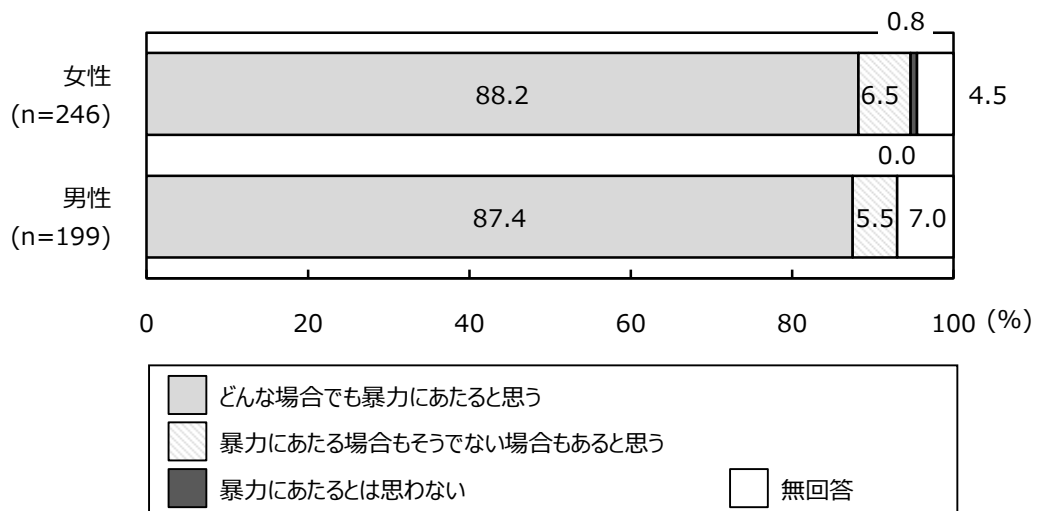
■ 平手で打つ

《平手で打つ》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が82.9%、《男性》が79.9%と、《女性》の方が高くなっています。



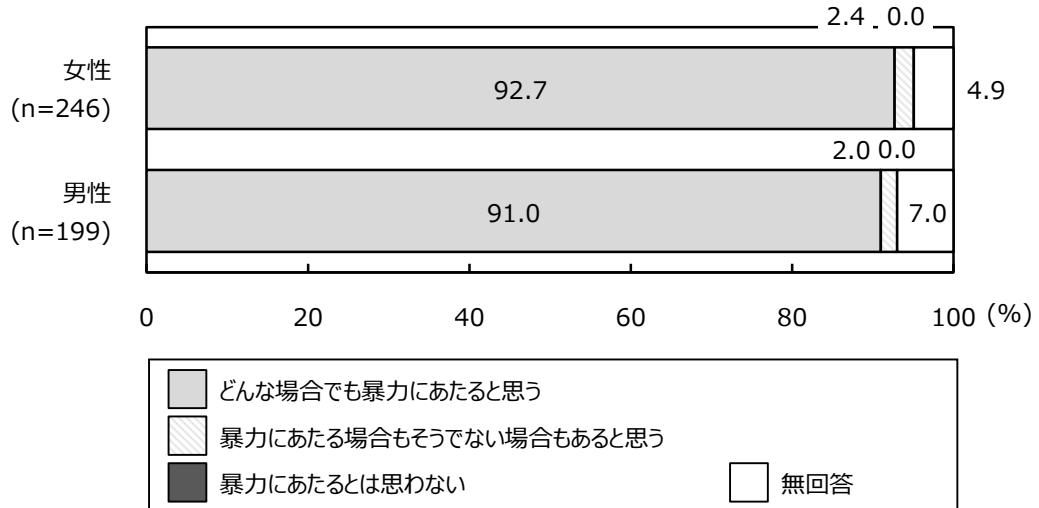
■ 足でける

《足でける》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、《女性》が88.2%、《男性》が87.4%となっています。



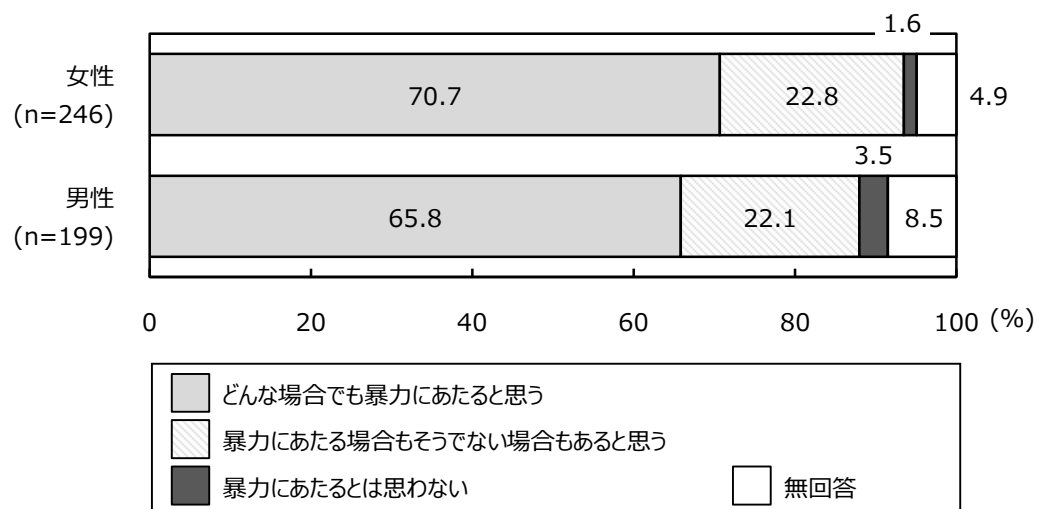
■ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

《身体を傷つける可能性のある物でなぐる》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が92.7%、《男性》が91.0%と、《女性》の方が高くなっています。



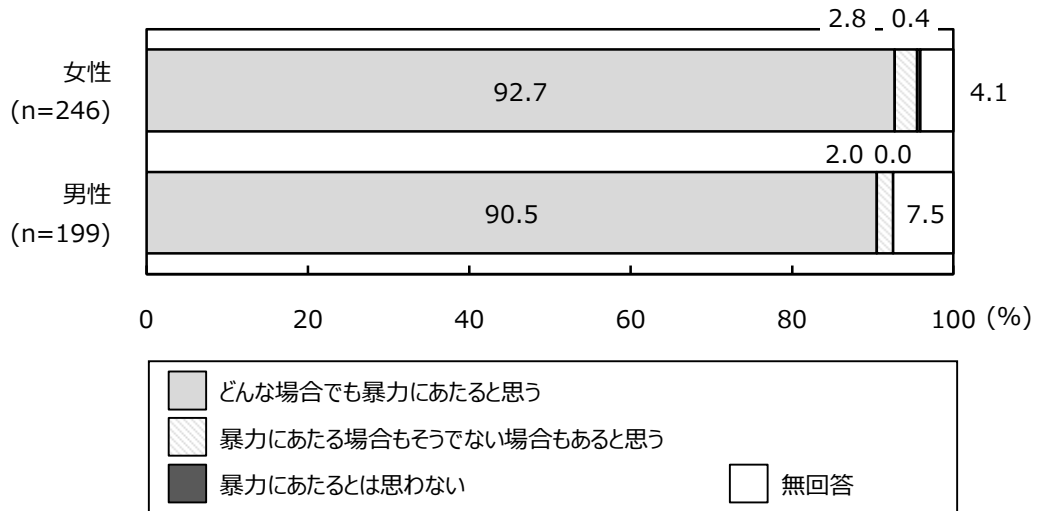
■ なぐるふりをして、おどす

《なぐるふりをして、おどす》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が70.7%、《男性》が65.8%と、《女性》の方が高くなっています。



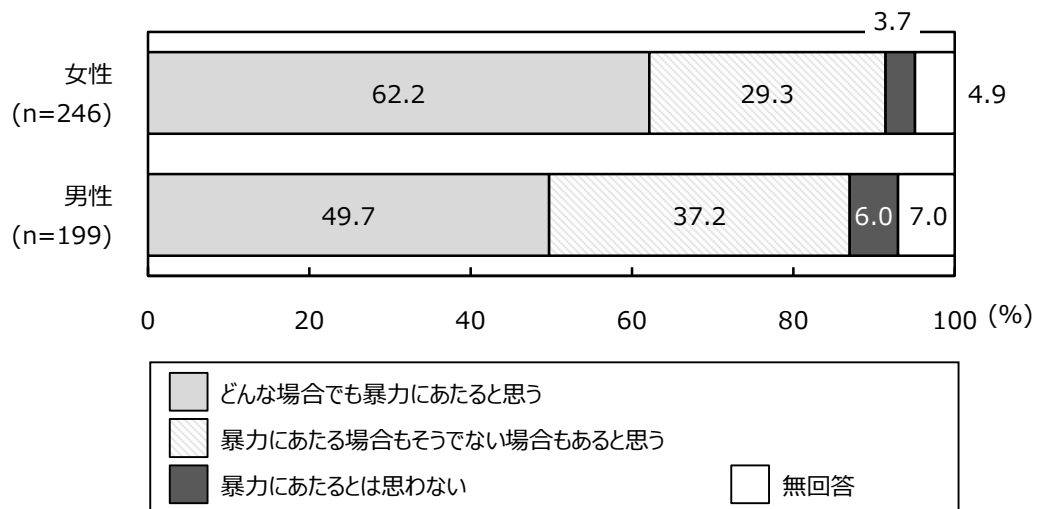
■ 刃物などを突きつけて、おどす

《刃物などを突きつけて、おどす》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が92.7%、《男性》が90.5%と、《女性》の方が高くなっています。



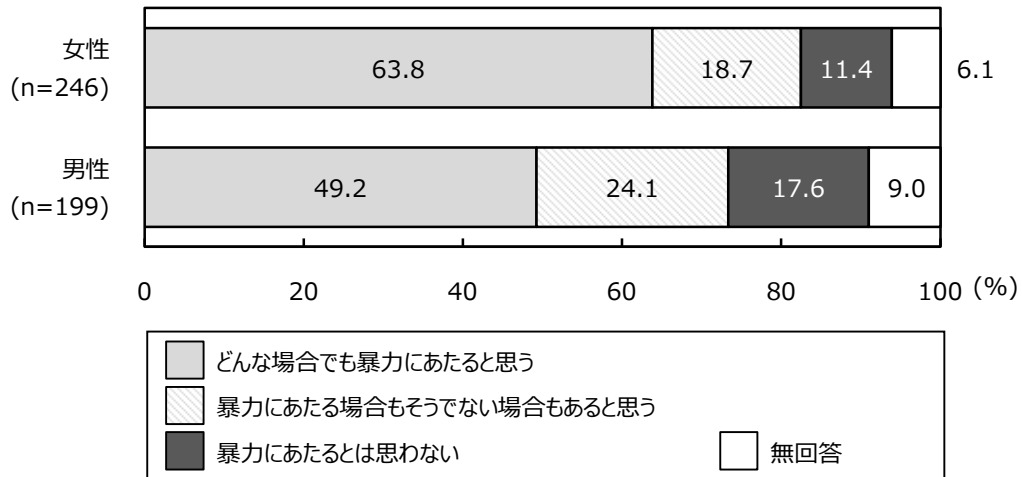
■ 大声でどなる

《大声でどなる》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が62.2%、《男性》が49.7%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を12.5ポイント上回っています。



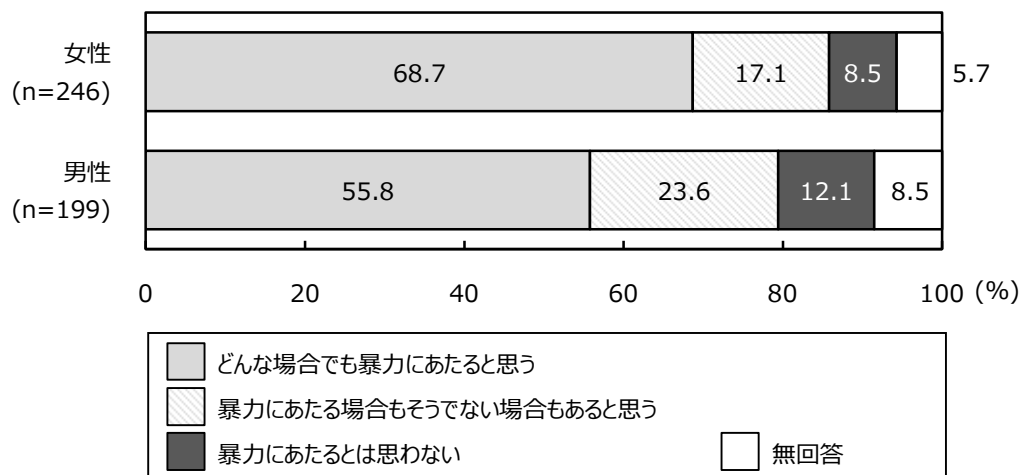
■ 他の異性との会話を許さない

《他の異性との会話を許さない》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が63.8%、《男性》が49.2%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を14.6ポイント上回っています。



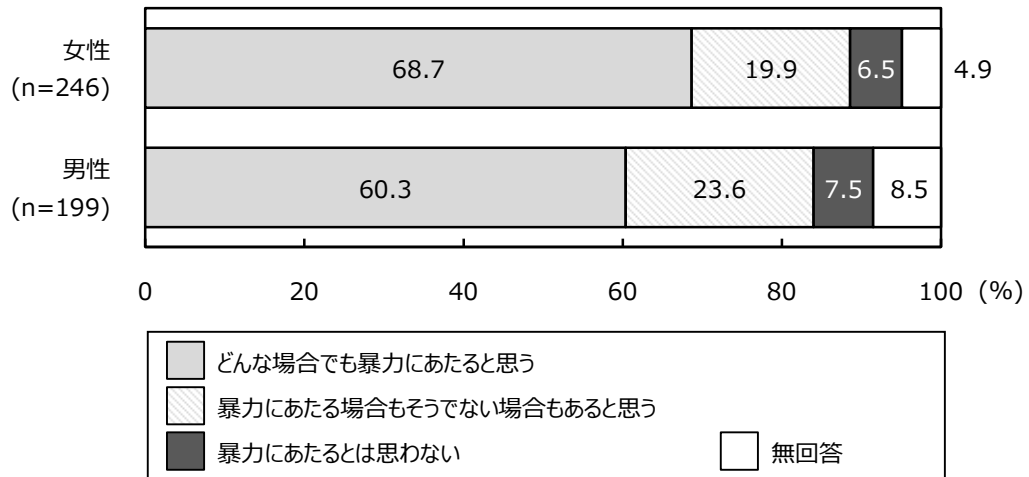
■ 家族や友人との関わりを持たせない

《家族や友人との関わりを持たせない》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が68.7%、《男性》が55.8%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を12.9ポイント上回っています。



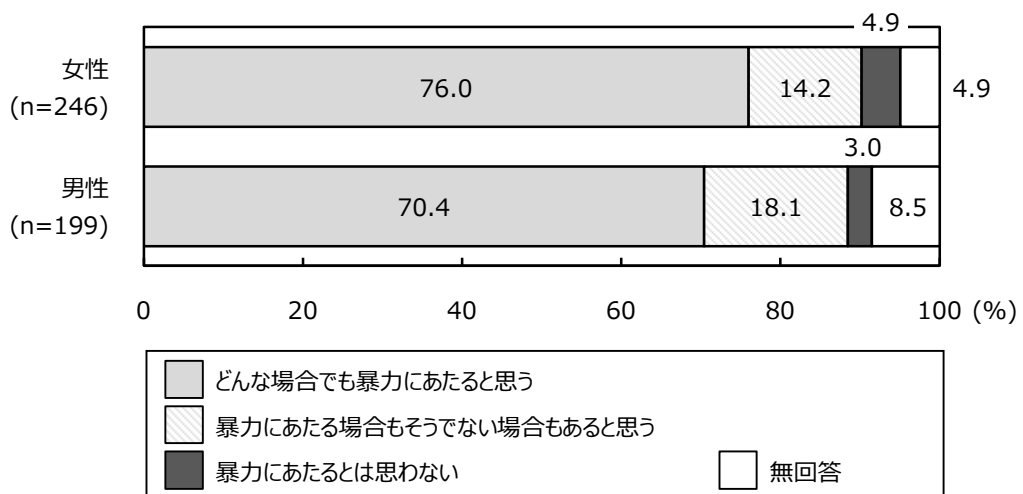
■ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

《交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が68.7%、《男性》が60.3%と、《女性》の方が高くなっています。



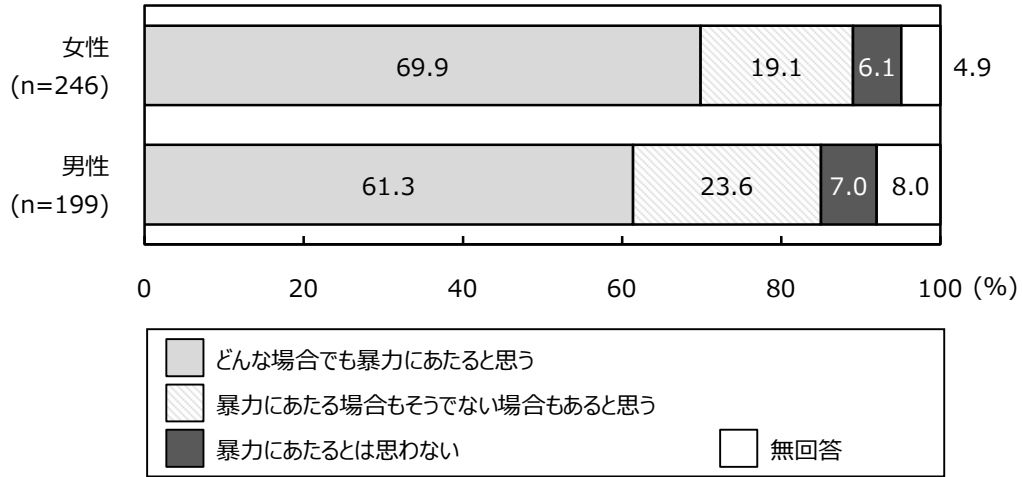
■ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

《職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が76.0%、《男性》が70.4%と、《女性》の方が高くなっています。



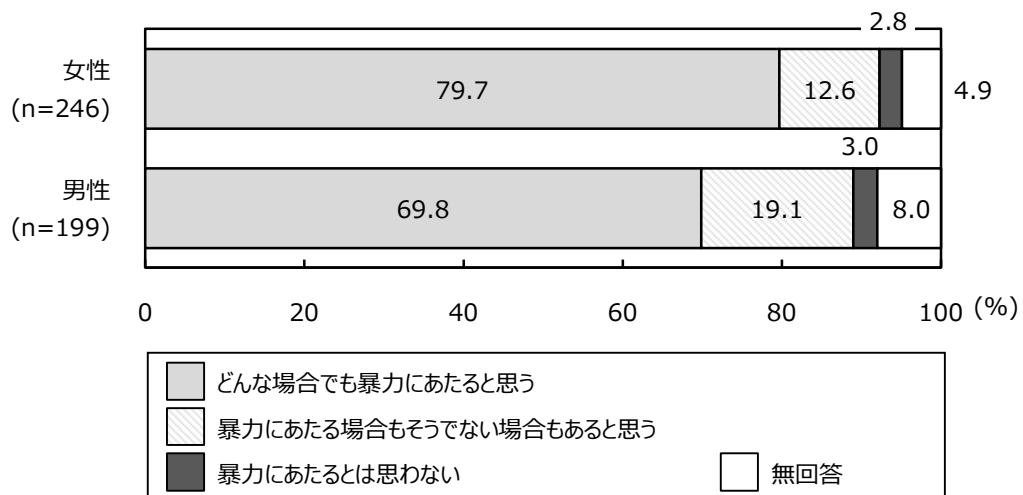
■ 何を言っても長期間無視し続ける

《何を言っても長期間無視し続ける》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が69.9%、《男性》が61.3%と、《女性》の方が高くなっています。



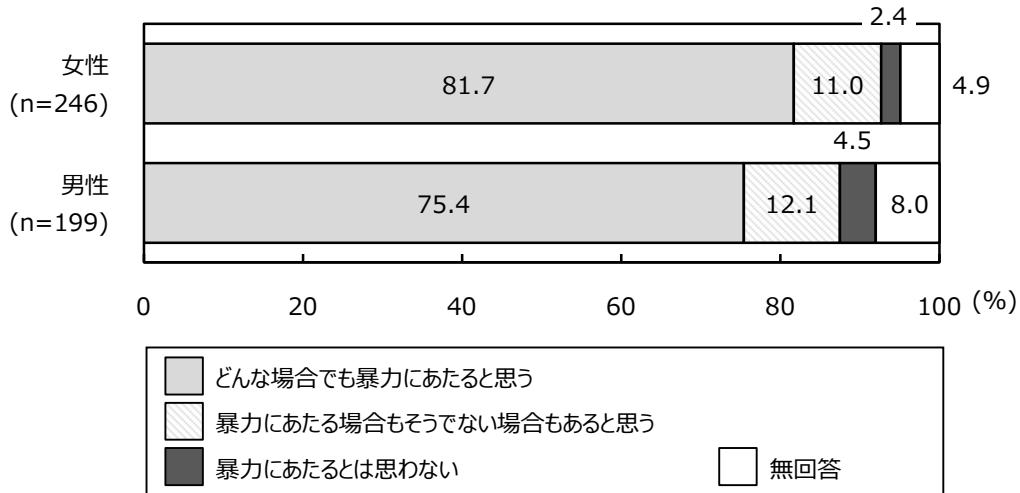
■ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う

《「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が79.7%、《男性》が69.8%と、《女性》の方が高くなっています。



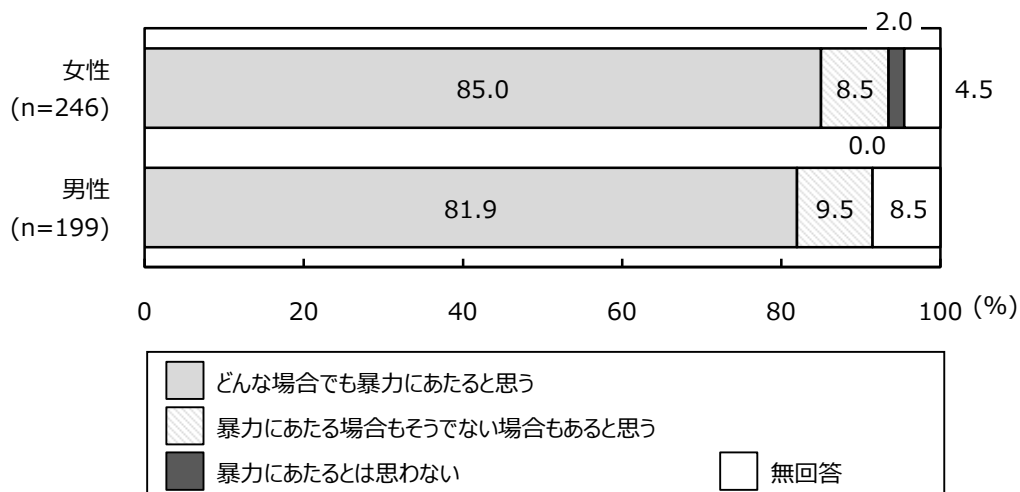
■ 家計に必要な生活費を渡さない

《家計に必要な生活費を渡さない》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が81.7%、《男性》が75.4%と、《女性》の方が高くなっています。



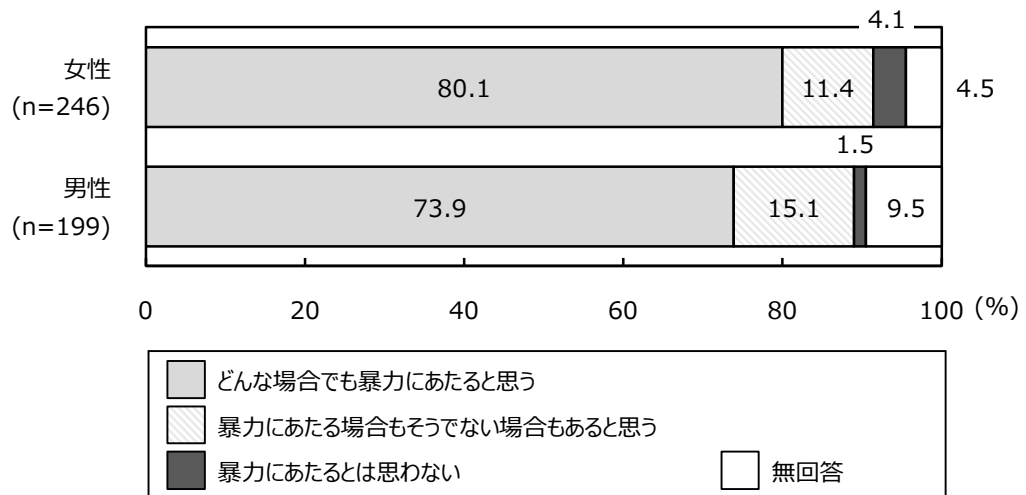
■ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

《嫌がっているのに性的な行為を強要する》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が85.0%、《男性》が81.9%と、《女性》の方が高くなっています。



■ 避妊に協力しない

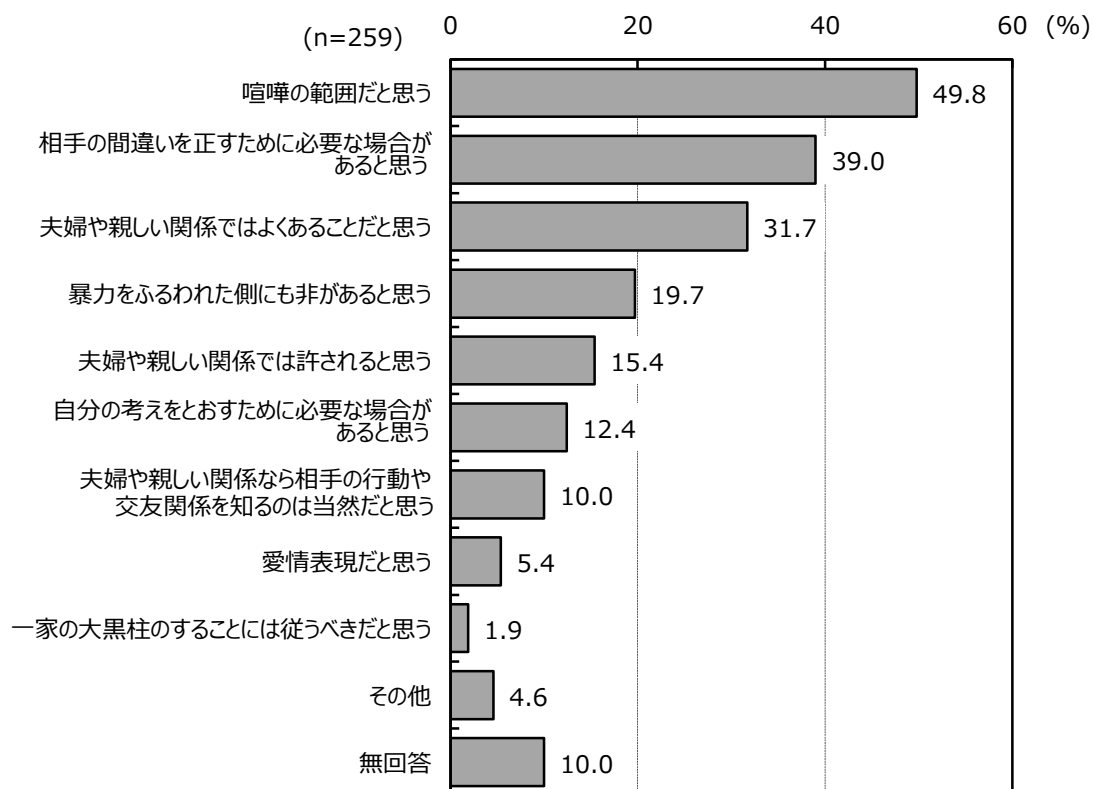
《避妊に協力しない》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が80.1%、《男性》が73.9%と、《女性》の方が高くなっています。



問 22 で 1 つでも「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人にお聞きします

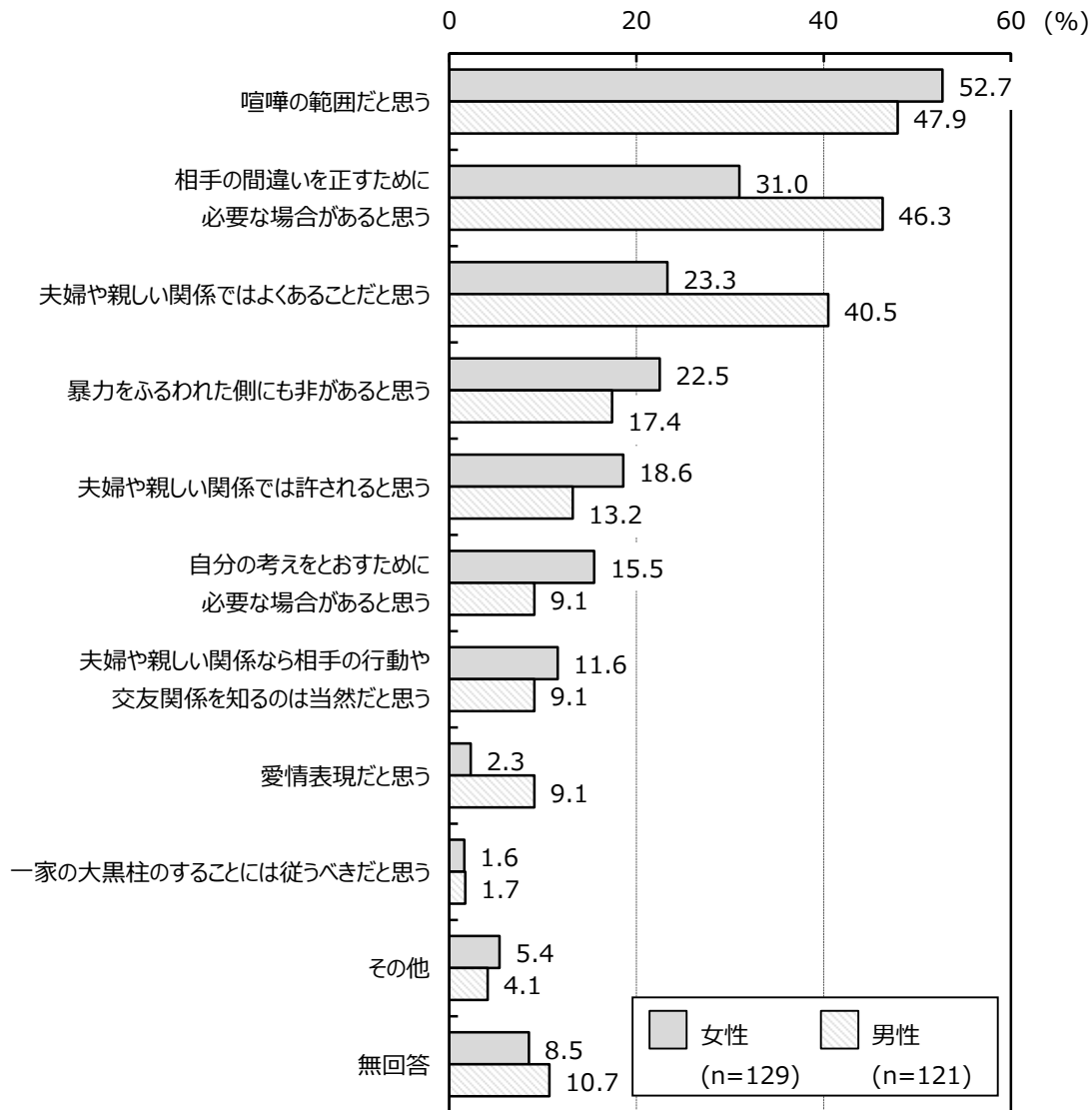
問 22-1 「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。（複数回答）

「喧嘩の範囲だと思う」が 49.8%と最も高く、次いで、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」が 39.0%、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」が 31.7%となっています。



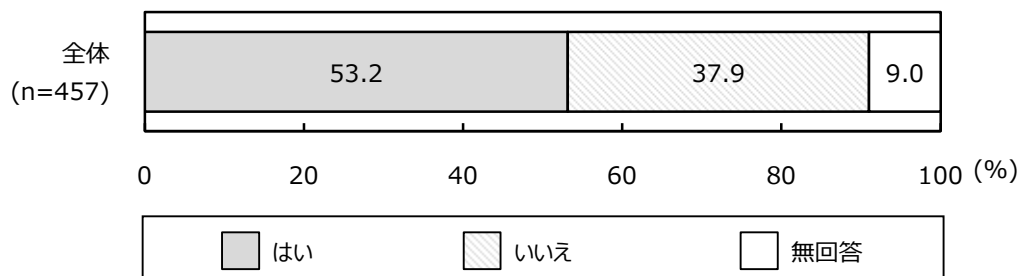
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「喧嘩の範囲だと思う」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」の順で割合が高くなっていますが、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」、「夫婦や親しい関係ではよくあることだと思う」の割合については男女差が大きく、《男性》が《女性》を10ポイント以上上回っています（順に15.3ポイント、17.2ポイント）。



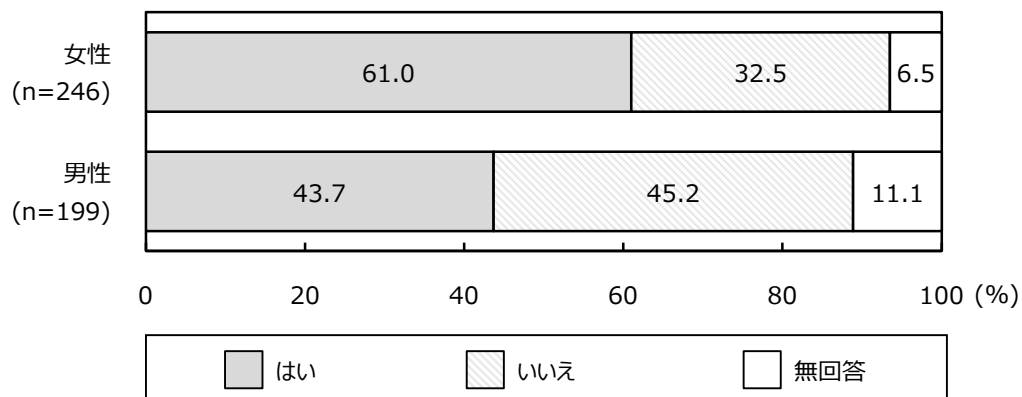
問 23 配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について相談できる窓口があることを、あなたは知っていますか。(単数回答)

「はい」が 53.2%、「いいえ」が 37.9%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

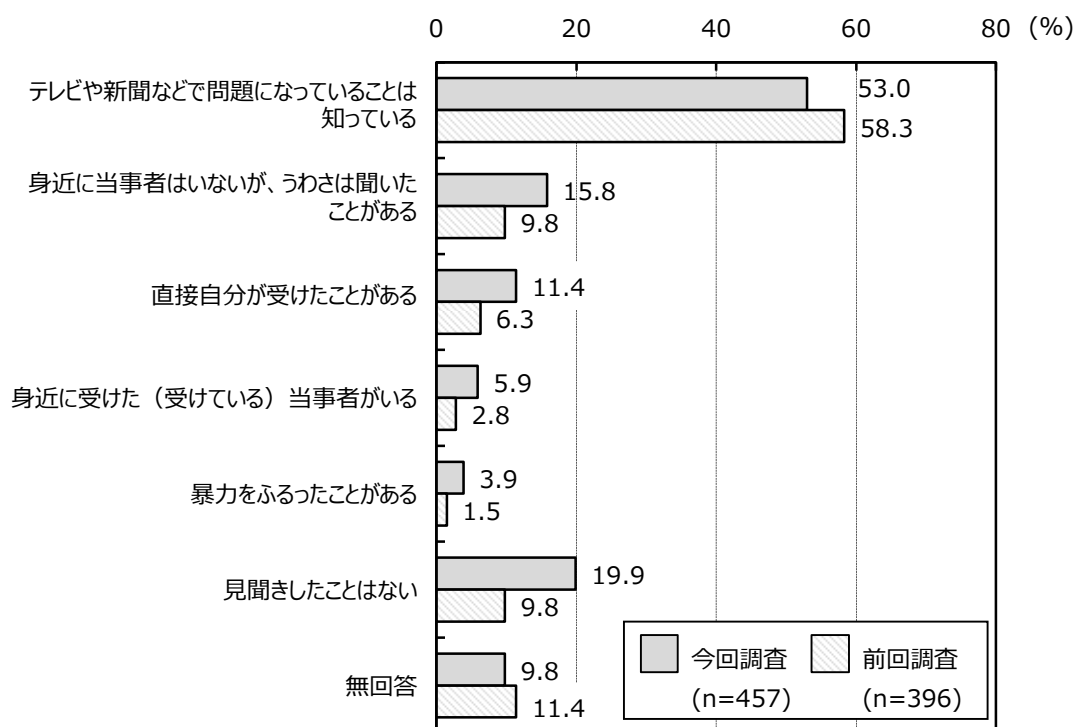
《女性》は「はい」の割合の方が高いのに対し、《男性》は「いいえ」の割合の方が高くなっています。



問 24 あなた自身は配偶者やパートナー、交際相手間での暴力の被害者・加害者になった経験はありますか。また、見聞きしたことがありますか。（複数回答）

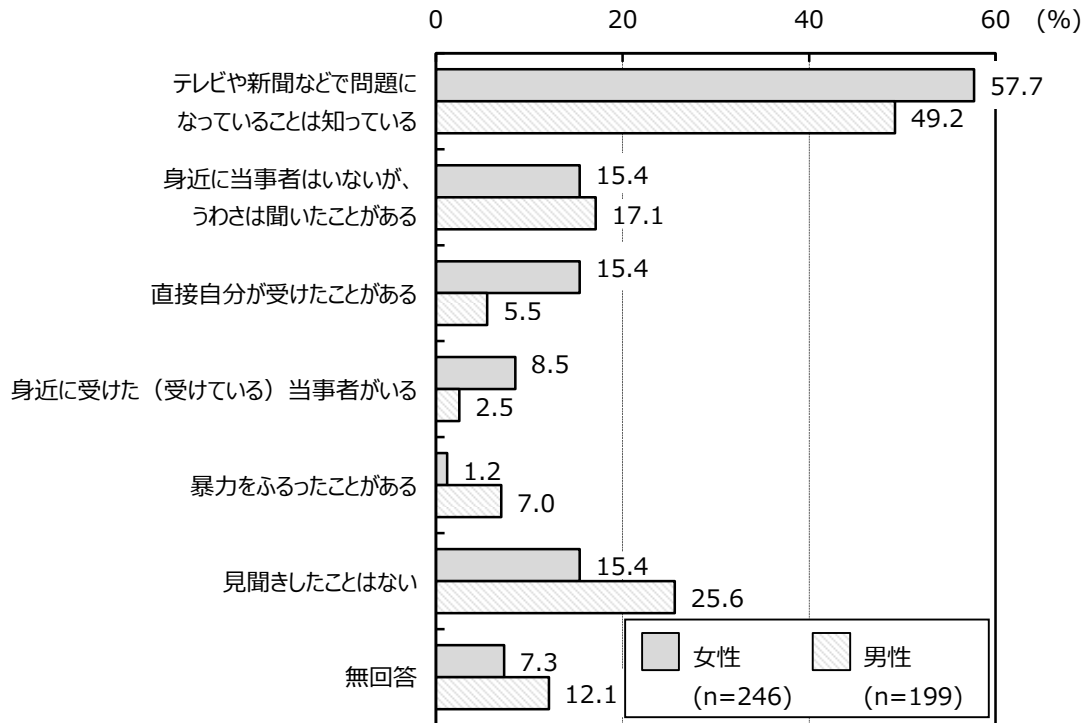
前回調査と同様に、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高く、53.0%となっています。その後は差が開いて、「見聞きしたことはない」が19.9%、「身近に当事者はいないが、うわさは聞いたことがある」が15.8%と続いています。

前回調査と比較すると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は減少していますが（前回調査：58.3%）、「見聞きしたことはない」、「身近に当事者はいないが、うわさは聞いたことがある」は増加しています（前回調査：ともに9.8%）。



【クロス集計分析（性別）】

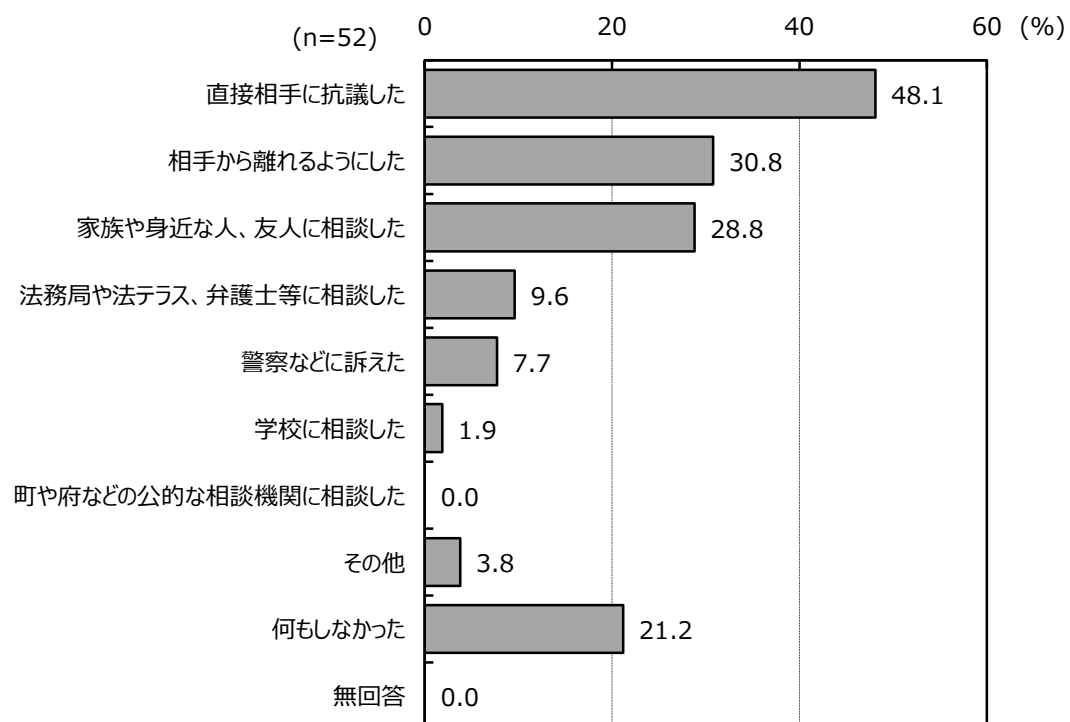
男女ともに「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高くなっています。
「直接自分が受けたことがある」の割合については、《女性》の方が高くなっています。



問 24 で「直接自分が受けたことがある」と回答した人にお聞きます

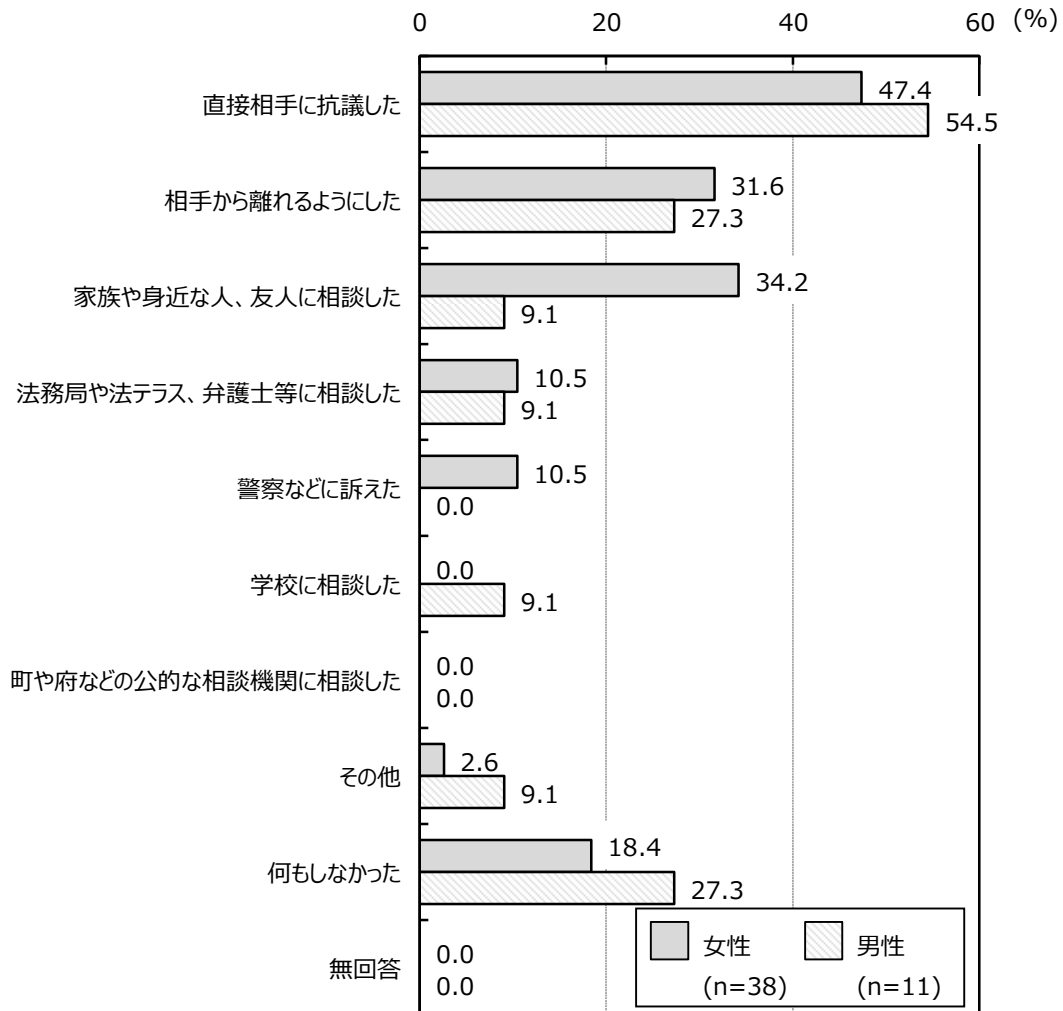
問 24-1 暴力を受けたとき、どのように対処しましたか。(複数回答)

「直接相手に抗議した」が 48.1%と最も高く、次いで、「相手から離れるようにした」が 30.8%、「家族や身近な人、友人に相談した」が 28.8%となっています。



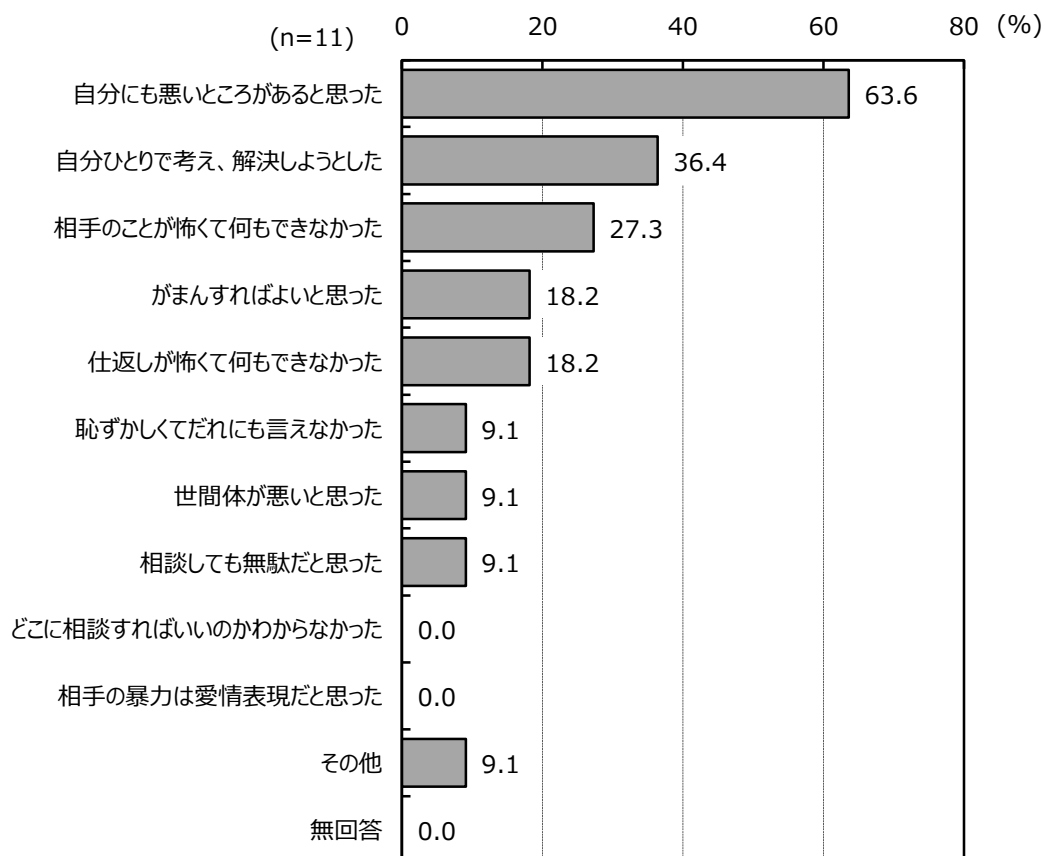
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「直接相手に抗議した」が最も高くなっています。
 「何もしなかった」の割合については、《男性》の方が高くなっています。



問 24-1 で「何もしなかった」と回答した人にお聞きします
問 24-2 何もしなかった理由は何ですか。（複数回答）

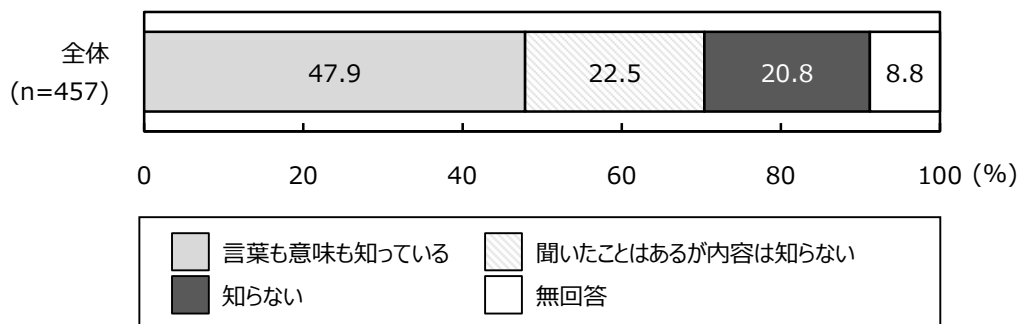
「自分にも悪いところがあると思った」が 63.6%と最も高く、次いで、「自分ひとりで考え、解決しようとした」が 36.4%、「相手のことが怖くて何もできなかった」が 27.3%となっています。



問 25 あなたは以下の言葉について知っていましたか。(単数回答)

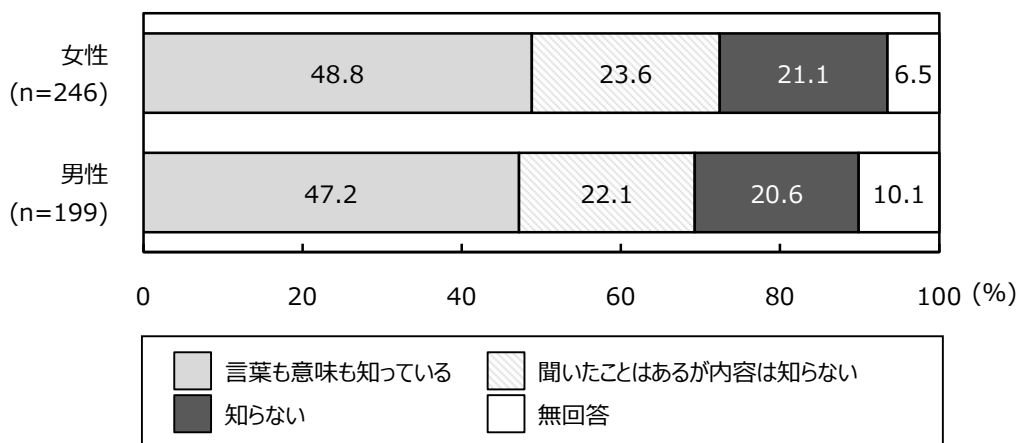
■ LGBT (性的マイノリティ)

「言葉も意味も知っている」が 47.9%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 22.5%、「知らない」が 20.8%となっています。



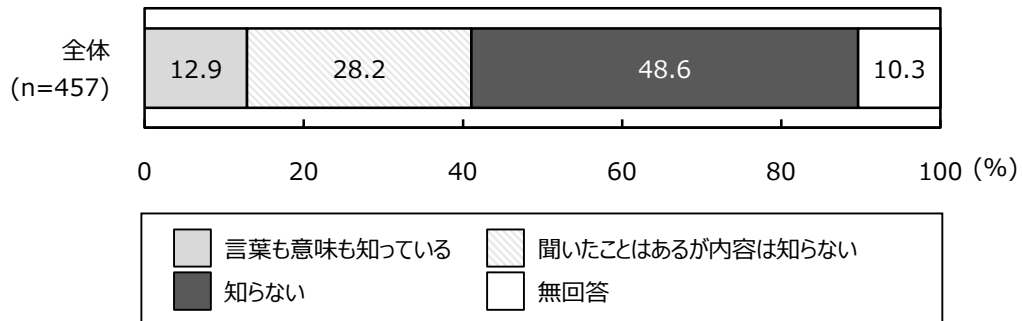
【クロス集計分析 (性別)】

男女ともに「言葉も意味も知っている」が最も高くなっています。



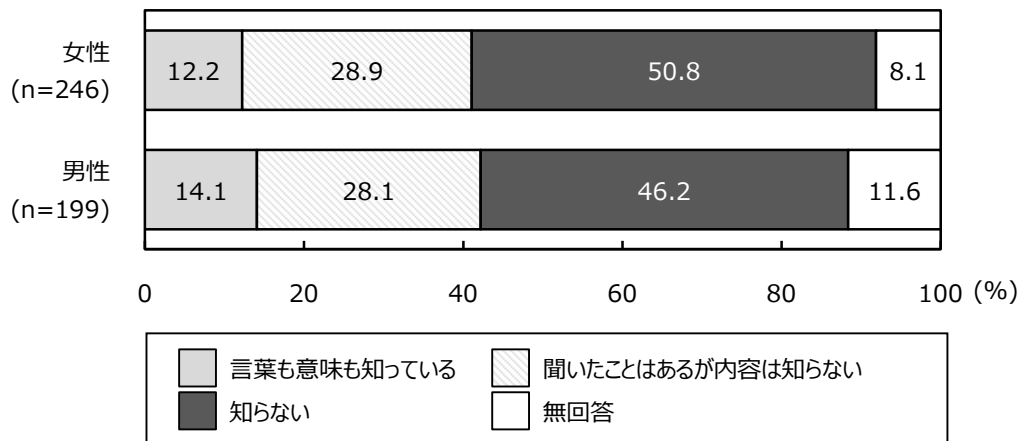
■ SOGI（性的指向と性自認）

「言葉も意味も知っている」が 12.9%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 28.2%、「知らない」が 48.6%となっています。



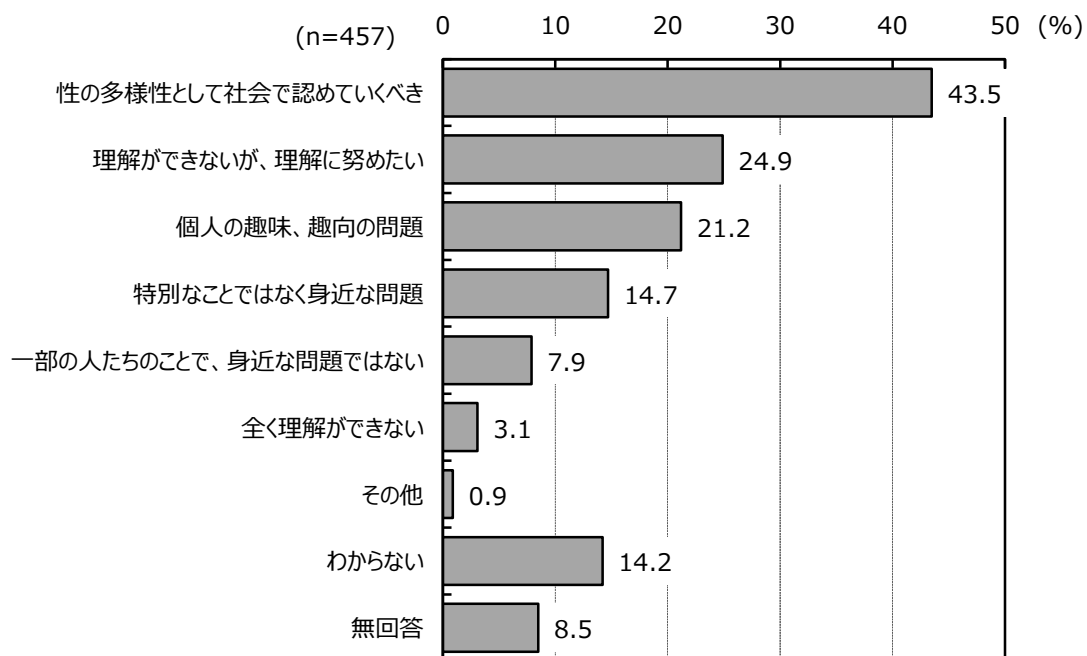
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「知らない」が最も高くなっています。



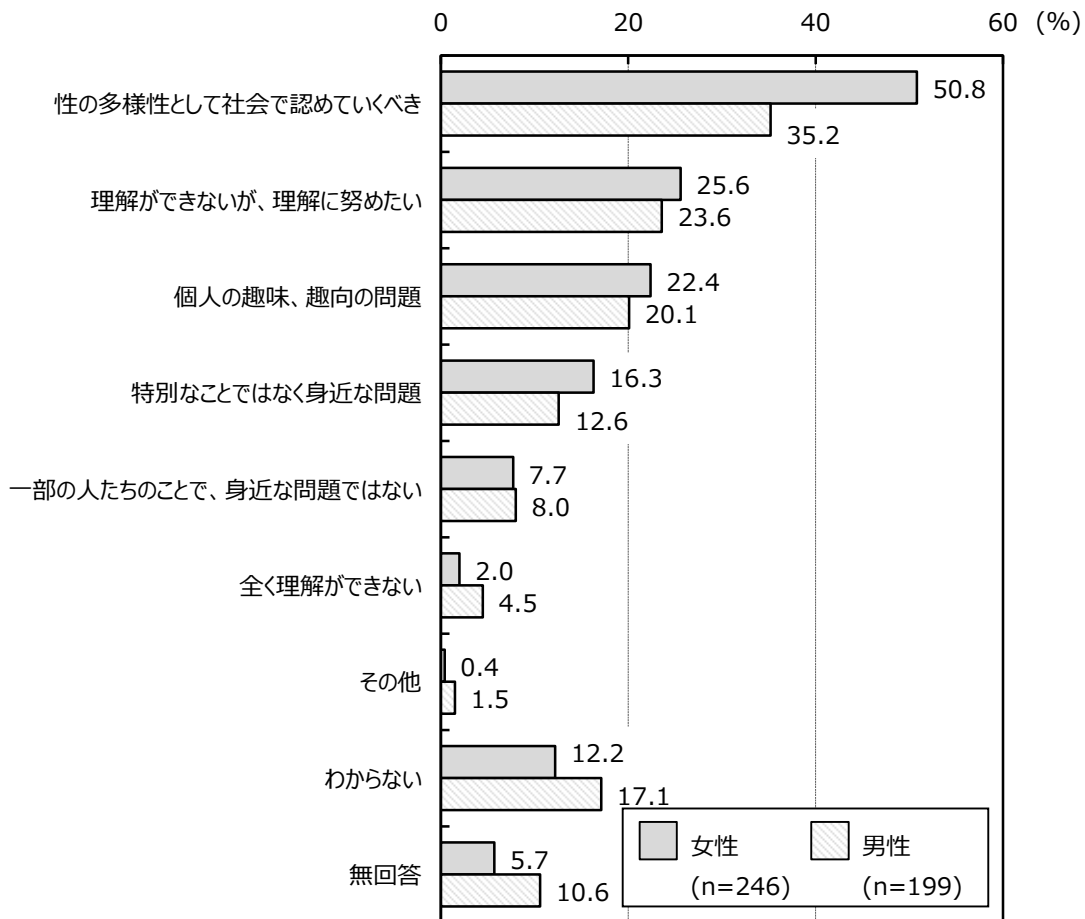
問 26 LGBT や SOGI といった性の多様性について、どのような考えやイメージを持っていますか。
(複数回答)

「性の多様性として社会で認めていくべき」が 43.5%と最も高く、次いで、「理解ができないが、理解に努めたい」が 24.9%、「個人の趣味、趣向の問題」が 21.2%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに、「性の多様性として社会で認めていくべき」、「理解ができないが、理解に努めたい」、「個人の趣味、趣向の問題」の順で高くなっていますが、「性の多様性として社会で認めていくべき」の割合については男女差が大きく、《女性》が《男性》を 15.6 ポイント上回っています。

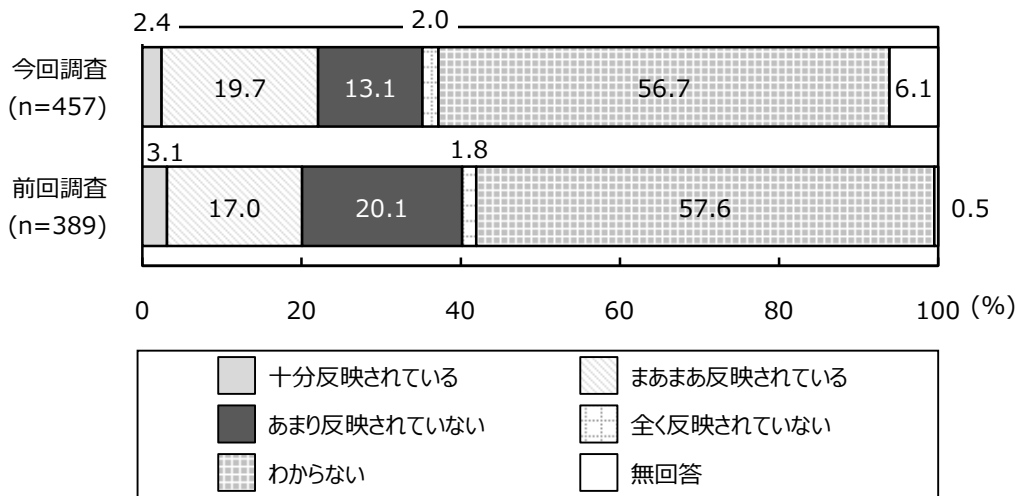


7. 町の男女共同参画に対する取組について

問 27 あなたは、現在、町の政策に女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。
(単数回答)

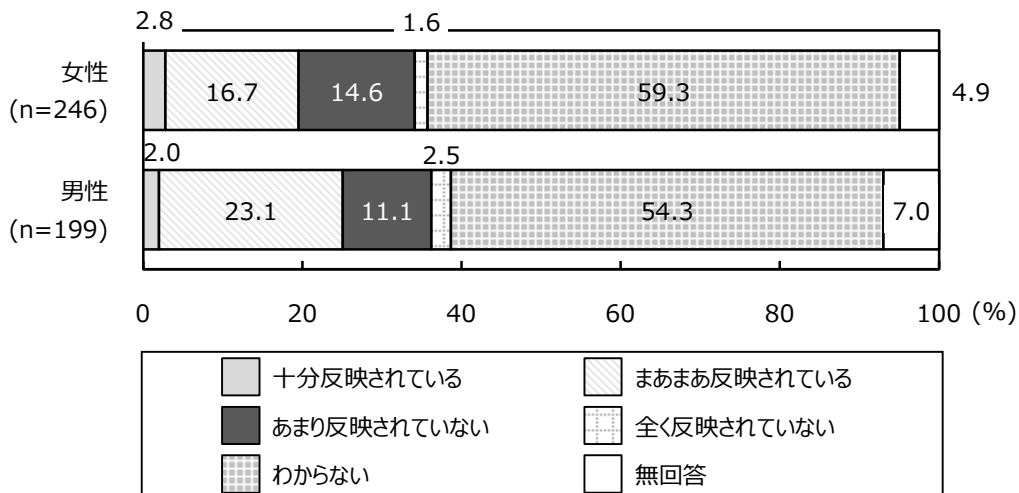
前回調査と同様に、「わからない」が50%以上を占めていますが、『反映されている』（「十分反映されている」+「まあまあ反映されている」）と『反映されていない』（「全く反映されていない」+「あまり反映されていない」）で比較すると、『反映されている』は22.1%、『反映されていない』は15.1%となっています。

『反映されている』の割合は前回調査から2.0ポイント増加しています（前回調査：20.1%）。



【クロス集計分析（性別）】

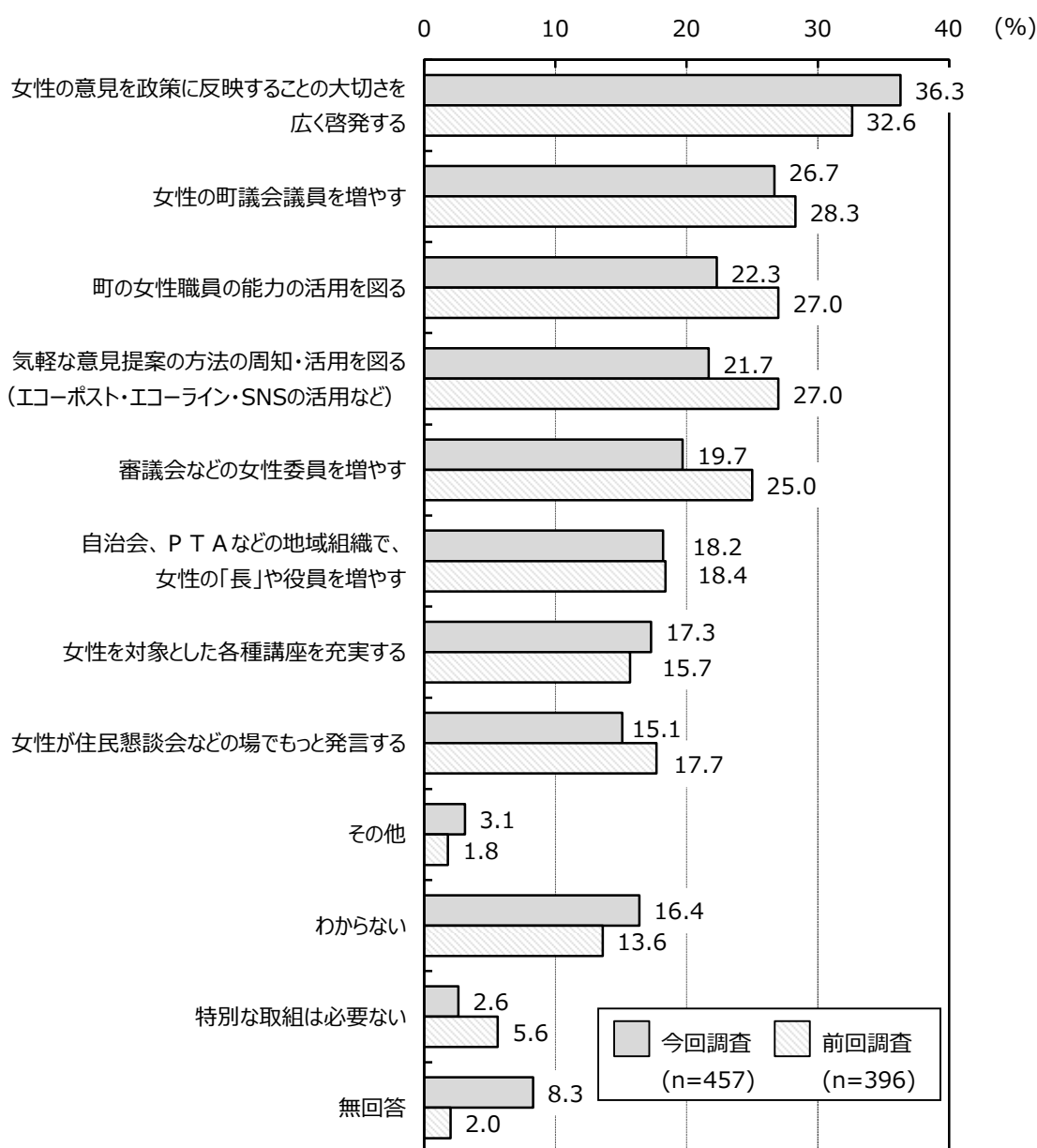
男女ともに「わからない」が最も高くなっていますが、『反映されている』の割合についてみると、「女性」が19.5%、「男性」が25.1%と、「男性」の方が高くなっています。



問 28 町の政策に女性の意見を反映するためにどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

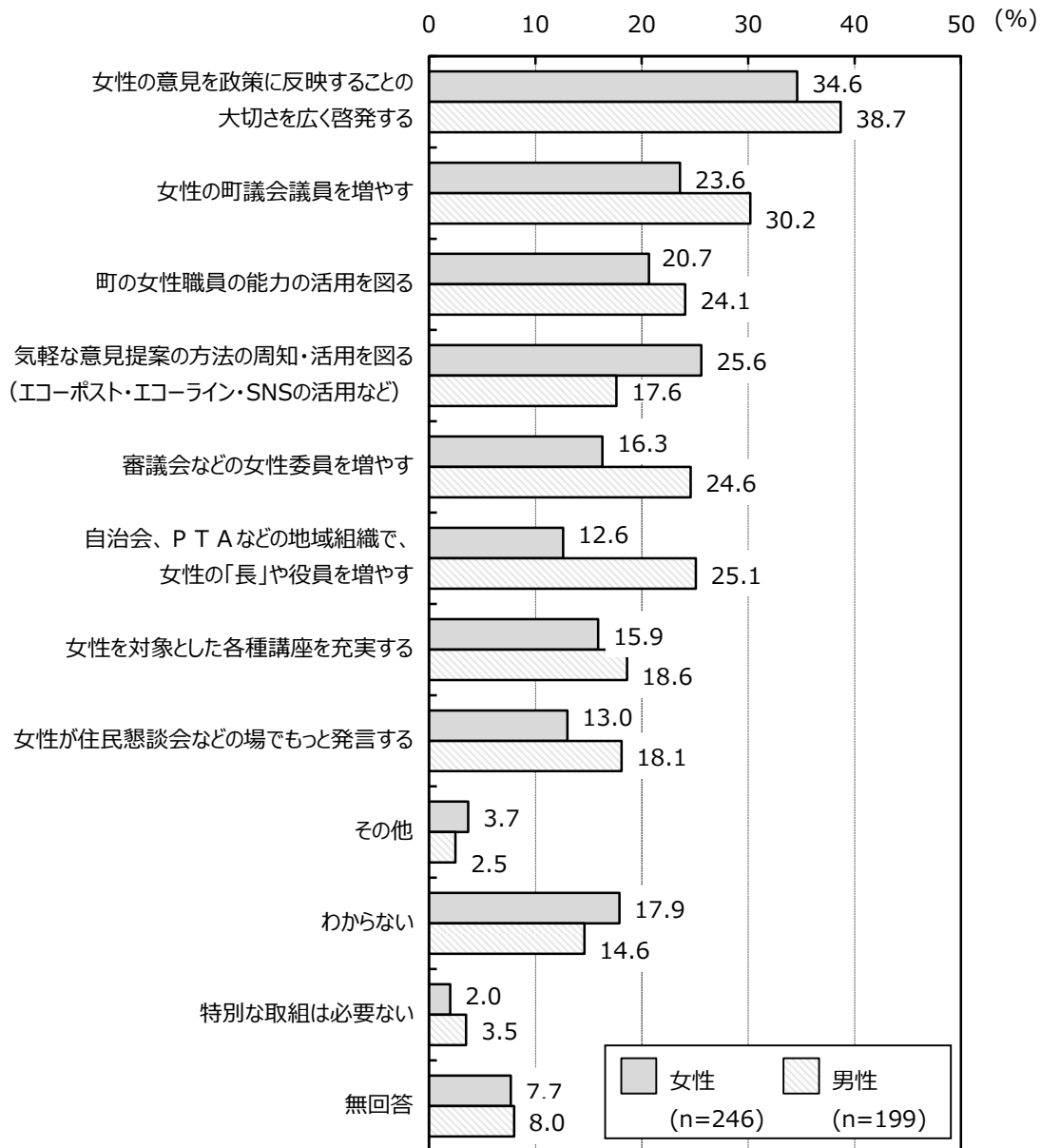
前回調査と同様に、「女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発する」が最も高く、36.3%となっています。次いで、「女性の町議会議員を増やす」が26.7%、「町の女性職員の能力の活用を図る」が22.3%、「気軽な意見提案の方法の周知・活用を図る（エコポスト・エコライン・SNSの活用など）」が21.7%となっています。

前回調査と比較すると、「女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発する」は増加しています（前回調査 32.6%）、「女性の町議会議員を増やす」、「町の女性職員の能力の活用を図る」、「気軽な意見提案の方法の周知・活用を図る（エコポスト・エコライン・SNSの活用など）」は減少しています（前回調査：順に 28.3%、27.0%、27.0%）。



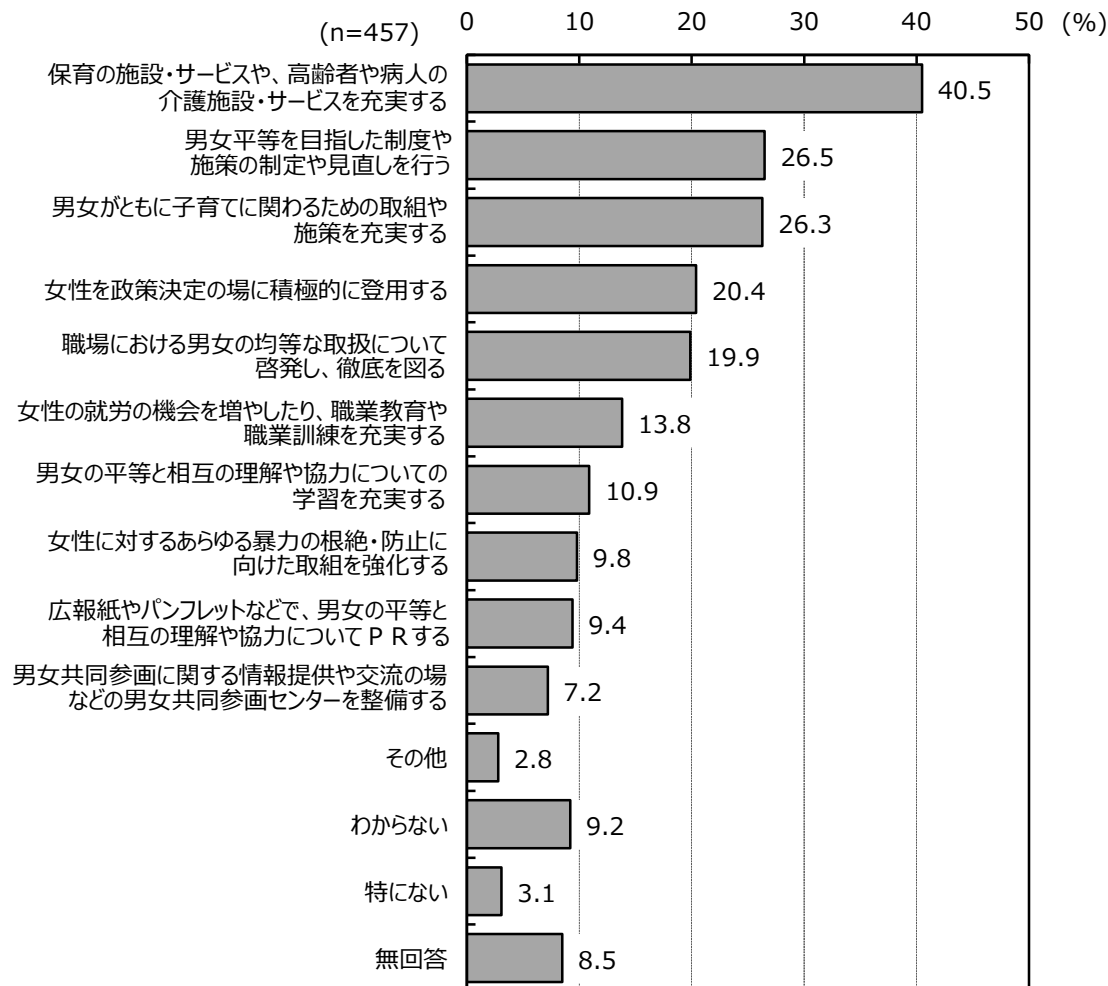
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発する」が最も高くなっていますが、2番目に割合が高いものについてみると、《女性》は「気軽な意見提案の方法の周知・活用を図る（エコポスト・エコライン・SNSの活用など）」、《男性》は「女性の町議会議員を増やす」となっています。



問 29 男女共同参画社会づくりをさらに推進していくために、今後、町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで回答）

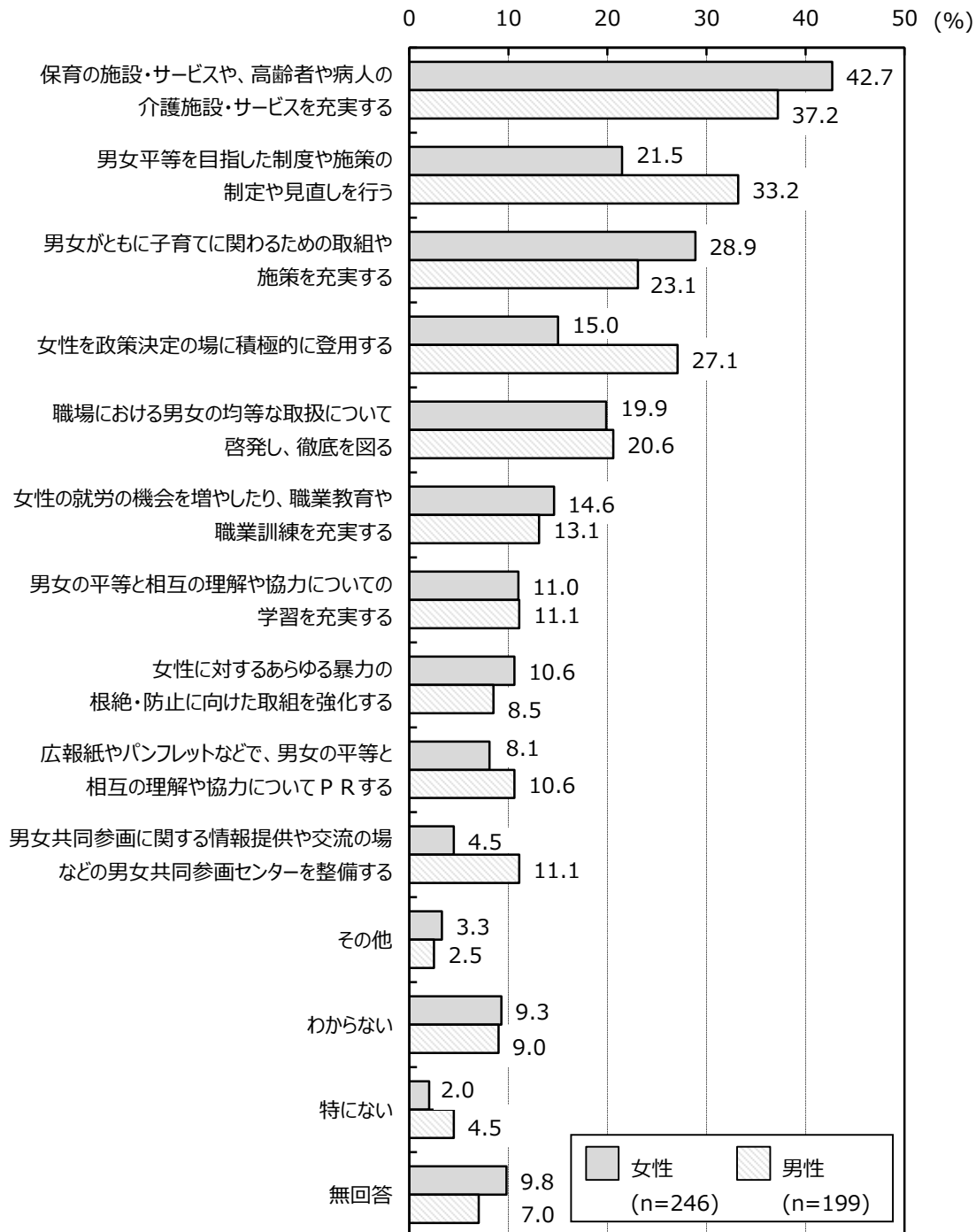
「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が40.5%と最も高く、次いで、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」が26.5%、「男女がともに子育てに関わるための取組や施策を充実する」が26.3%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

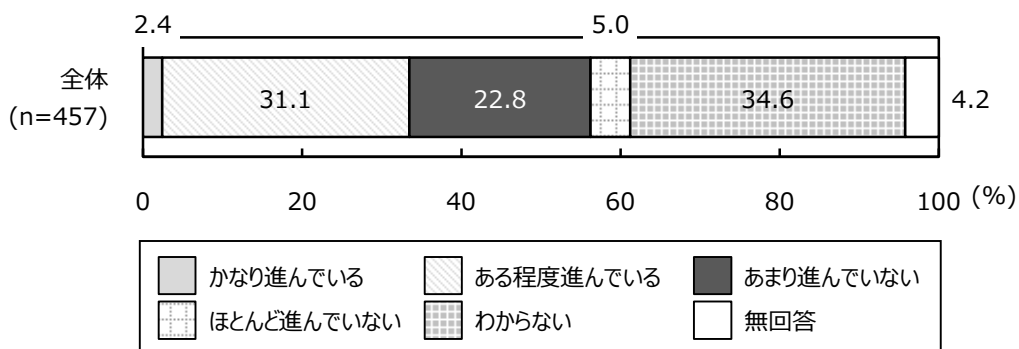
男女ともに「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が最も高くなっていますが、2番目に割合が高いものについてみると、《女性》は「男女がともに子育てに関わるための取組や施策を充実する」、《男性》は「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」となっています。

「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」については男女差が大きく、《男性》が《女性》を11.7ポイント上回っています。また、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合についても男女差が大きく、《男性》が《女性》を12.1ポイント上回っています。



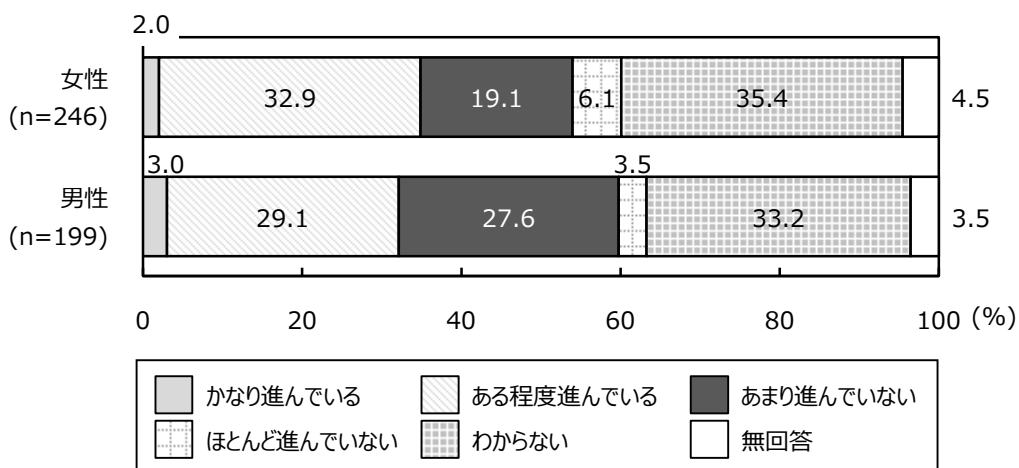
問 30 あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、ここ 10 年の間で、男女共同参画はどの程度進んでいると思いますか。(単数回答)

「わからない」が 34.6%と最も高くなっていますが、『進んでいる』（「かなり進んでいる」+「ある程度進んでいる」）と『進んでいない』（「ほとんど進んでいない」+「あまり進んでいない」）を比較すると、『進んでいる』が 33.5%、『進んでいない』が 27.8%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「わからない」が最も高くなっています。『進んでいる』については《女性》が 34.9%、《男性》が 32.1%、『進んでいない』については《女性》が 25.2%、《男性》が 31.1%となっています。



問 30-1 ここ 10 年間で男女共同参画が進んだと思う理由、または進んでいないと思う理由をお書きください。(自由記述)

① 進んだと思う理由

《意識》

- 「男性だから」「女性だから」というような言葉は聞かない。(女性・30 歳代)
- 男女共同の理念を理解している人が多くなった。(女性・70 歳以上)
- 男性の意識を変える教育が進んでいる。(女性・70 歳以上)
- 男女平等の意識が以前より浸透してきた。(女性・10 歳代)

《家庭での状況》

- 両親の時代に比べ、子育てに対する男性の協力が多いように感じる。(男性・40 歳代)
- 我が子世代の共働き家庭をみると、私が共働きしていた頃より夫の家事負担が増え、自然にこなしている。(女性・60 歳代)
- 育児に男性が仕事を休んで参加できるようになった。(女性・60 歳代)
- 若い男性も妻と協力し、子どもの送迎やゴミ出し、買い物や洗濯などを見かける。(男性・70 歳以上)
- スーパーで多くの男性が買い物、ゴミ出しも男性がしている。(女性・70 歳以上)
- 子育てや生活全般は変わりつつある。(女性・60 歳代)
- 家事を手伝う男性の話を聞くことが多くなった。(女性・40 歳代)

《地域での状況》

- 町内会議参加が多くなった。(男性・70 歳以上)
- 地域役員も女性が多い。男性も進んで参加している。(女性・70 歳以上)
- 自治会役員も女性が多数出ている。老人会の取り組みでは、麻雀クラブ等も女性が参加している。(女性・70 歳以上)

《ワーク・ライフ・バランス》

- 経営者が子育て女性に理解を示すことが増えた。(女性・70 歳以上)
- 我が家においては男性の働く時間が少なくなり、家庭での男女共同ですることが多くなった。(女性・70 歳以上)
- 週休二日制が進み、両親揃うことが多い。(女性・40 歳代)
- 男性の育児休業制度 (男性・60 歳代)
- 夫の育児休暇取得状況は年々上がっている点について、政府が企業への浸透を進めていることで前進している。(男性・70 歳以上)
- 幼稚園や学校行事に父親も出席し変化を感じる。教育に関心を持ち、積極的に子どもの教育に関わる父親が増えている。(女性・60 歳代)

《女性の活躍》

- 女性の社会進出する機会が増えてきた。(男性・60 歳代)
- 働く女性が増えた。(男性・20 歳代)
- 女性が働きやすくなってきている。(女性・60 歳代)
- いろいろな場面で女性の参加が増えている。(女性・70 歳以上)
- サービス業で働いているが、男性も女性も同じ仕事をしてる。(女性・70 歳以上)
- 女性が社会の第一線で働く環境が進んだ。(女性・60 歳代)
- 種々のスポーツに女性が実施し出している。IT 関連企業を女性が起こしている。(男性・70 歳以上)
- 教育長が女性になった。(女性・30 歳代)
- 勤務先での管理職登用が活発になっている。再雇用に女性が目立つ傾向である。(男性・50 歳代)
- 自治会役員など女性の進出が進んできた。(男性・70 歳以上)
- 最近テレビ等で「女性議員を増やさないと駄目だ」と言っていた。(男性・70 歳以上)
- 役員や女性社長が女性ならではの着眼点を活かしたビジネス・政策を行っている。男性の育児休業制度を利用した人いる。(男性・30 歳代)
- 女性も社会に出て働いている人は増えている。逆に男性も家庭の仕事をしている人も増えている。(男性・70 歳以上)

《社会全体》

- 10 年前は男女共同参画について考えもしなかった。(女性・50 歳代)
- 今まで触れられなかったことが明るみになり、少しずつ進んできていると感じる。(女性・50 歳代)
- 世の中がその方向に向け努力しているとは感じる。(男性・70 歳以上)
- いろんなところで議論されていることが進んでいることをものがたっている。(男性・30 歳代)
- 高齢の私の時代とは何もかも変わりました。(女性・70 歳以上)

《その他》

- 男女関係なく、どこでも意見が言えるようになった。(女性・70 歳以上)
- 男性同士・女性同士の恋愛を扱うテレビが多くなった。(女性・40 歳代)

② 進んでいないと思う理由

《意識》

- 男は仕事、女は家事という考えがまだある。(女性・60 歳代)
- 社会全体の意識改革が進んでおらず、古い習慣への風潮が残っている。
- 男尊女卑の慣習が続いていると思うから(男性・60 歳代)
- 女性が発言できる機会が増えてきているが、まだまだ男女平等の意識が浸透していない。(女性・60 歳代)
- 男女共同参画は年齢層により考え方の違いがあると思う。(女性・60 歳代)
- 年配男性の理解が少ない。男女身体能力の差があり、それを踏まえた上での平等であることを忘れがちな女性もいる。(女性・50 歳代)
- 高齢者はまだまだ封建的な考え方が残っている。(女性・70 歳以上)

- 久御山の人が「長男だから～」と発しているのをよく聞く。(女性・30 歳代)
- 男性の意識改革が最も進んでいない。(女性・70 歳以上)
- 女性自身の意識が少ないのではないか。(男性・70 歳以上)

《家庭での状況》

- 子育ては女性が多い家庭が多く、男女共同参画は進んでいない。(男性・70 歳以上)
- まだ女性は家庭を一番に考えなければいけない生活リズムになってる。(男性・30 歳代)
- まだまだ女性は家事や育児から解放されていないから。(女性・60 歳代)
- 夫は家事は私がして当たり前と思っているので、進んでいないと思う。(女性・60 歳代)
- 女性はどうしても家庭や育児優先が理由になってしまい仕事が思うようにできていない。(女性・30 歳代)

《職場・地域での状況》

- 職場での男女差別がある。(女性・40 歳代)
- 実際の職場での施策・制度は何も変わっていない。(男性・70 歳以上)
- 町の委員会や団体役員は圧倒的に男性が多く、PTA 役員は母親がほとんど。政治と家庭とで無意識に役割分担されていると思う。(女性・30 歳代)

《ワーク・ライフ・バランス》

- 産休育児休業制度については、上司の理解が得られず利用できない。(女性・20 歳代)
- 女性が産後に職場復帰した際、仕事がやりづらい雰囲気がある。(男性・50 歳代)
- 男性の育児休暇が認められるようになったが、仕事内容や代わりのできない業務など、改善すべきところがある。(女性・50 歳代)
- 今の世の中、女性が働くのは大変。子どもを育てながら責任を持つ仕事をするのは難しい。(女性・40 歳代)

《女性の活躍》

- 女性管理職が増えてない。(男性・60 歳代)
- 本町の町議会議員のうち女性の顔ぶれは 10 年以上変わっていない。(男性・40 歳代)
- 政治の女性進出が圧倒的に少ない。(男性・70 歳以上)
- 男性がどうしても前に出ることが多い。(男性・40 歳代)

《社会全体》

- 世界に目を向けると、日本の男女平等は遅れている。(男性・60 歳代)
- まだまだ男性優位のことが多い。(女性・70 歳以上)
- 「男性も女性も意欲的に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」になっていない。(男性・60 歳代)
- 物事を決めていく人達が「女性はこうであろう」と決めつけている世代の方が多い。(女性・30 歳代)
- 日本人の生活習慣を変えない限り、男女共同参画社会の実現は難しい。

《その他》

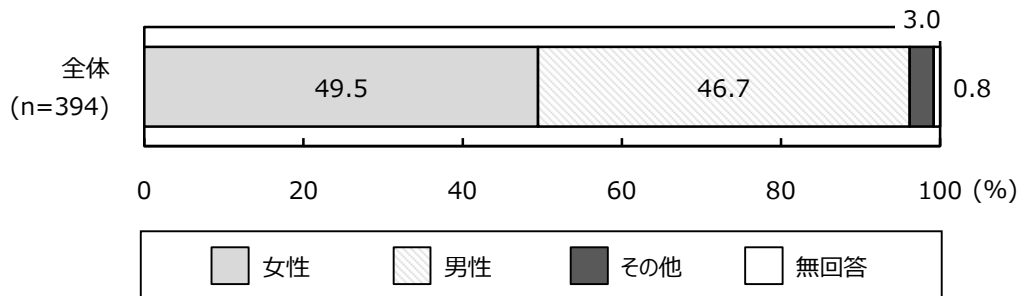
- 行政だけが動いていて、現場が動いていないことが多い。(女性・40 歳代)
- 無理に女性を表舞台に出さなくても考えている人はいる。(男性・50 歳代)
- 少しずつ変わってきているが、まだまだ。(男性・60 歳代)
- 進んでいることが目に見えないので実感がない。(女性・40 歳代)
- 女性が外で働いたら遇税制、男性が送迎を行う家庭は保育料が安くなるなど、わかりやすい処置を行わないと国は変わらない。(男性・50 歳代)
- 女性の意見は軽く見られる。(女性・70 歳以上)
- 女性が女性がと言われると女尊男卑で差別的な発言に聞こえる。(女性・40 歳代)

Ⅲ. 中学生調査の結果

1. 回答者属性

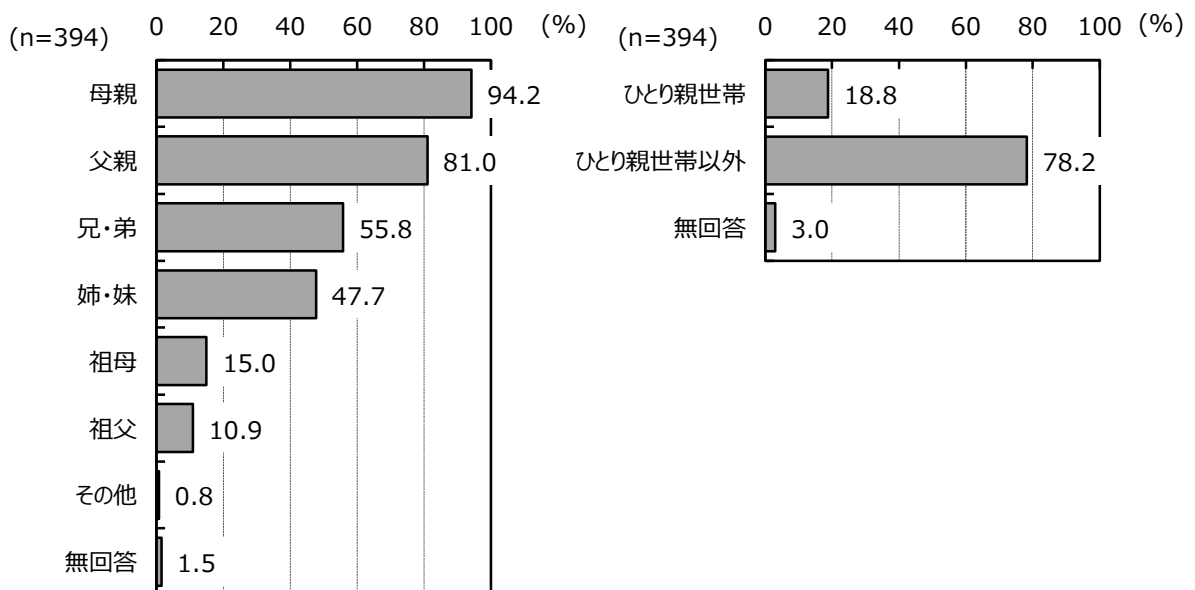
問 1 あなたの性別を教えてください。(単数回答)

「女性」が 49.5%、「男性」が 46.7%、「その他」が 3.0%となっています。



問 2 現在あなたが一緒に暮らしている人はどなたですか。(複数回答)

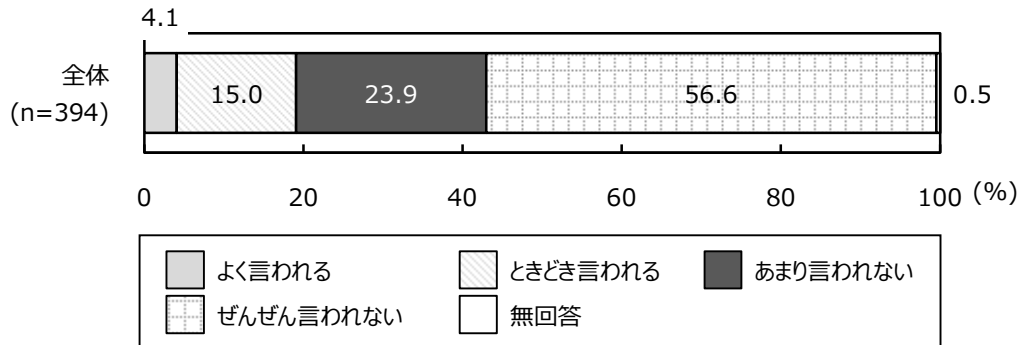
同居人については「母親」が 94.2%、「父親」が 81.0%、「兄・弟」が 55.8%となっており、「ひとり親世帯」が 18.8%、「ひとり親世帯以外」が 78.2%となっています。



2. 男女共同参画について

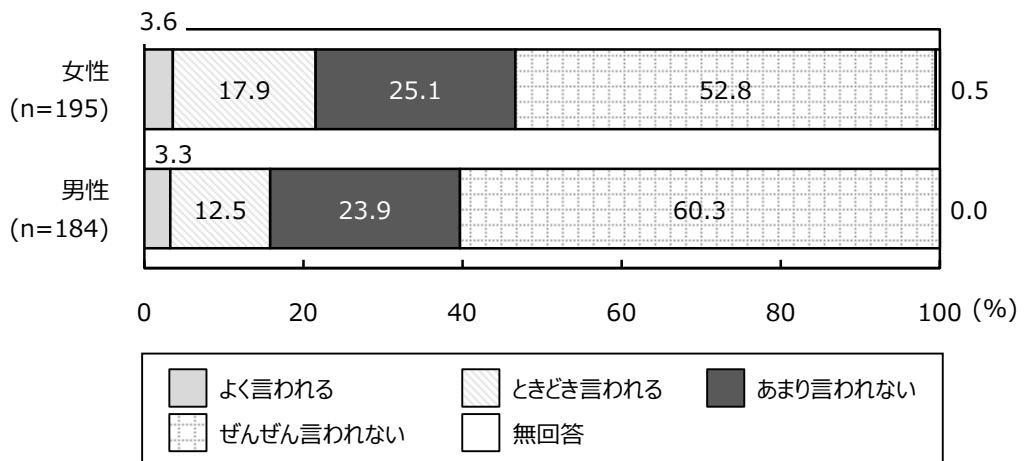
問3 あなたの趣味や好みなどに対して、親や大人の人から「男らしく（女らしく）きなさい」、「男だから（女だから）○○きなさい」と言われたことがありますか。（単数回答）

『言われる』（「よく言われる」+「ときどき言われる」）が19.1%、『言われぬ』（「ぜんぜん言われぬ」+「あまり言われぬ」）が80.5%となっています。



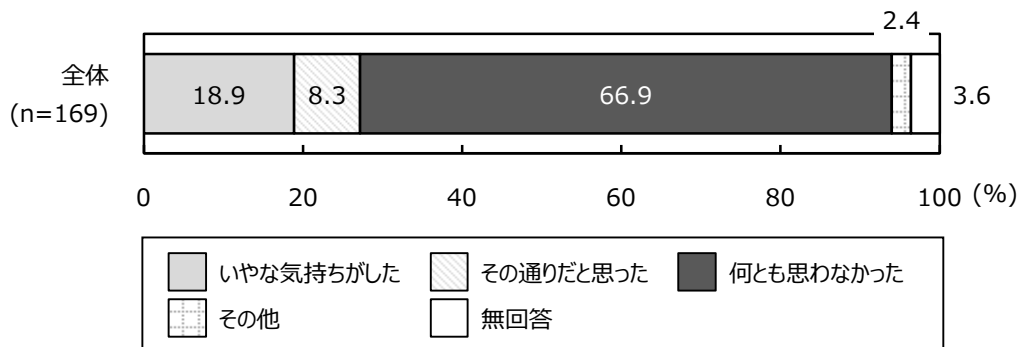
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに『言われぬ』の方が高くなっていますが、《女性》が77.9%、《男性》が84.2%と、《男性》の方が高くなっています。



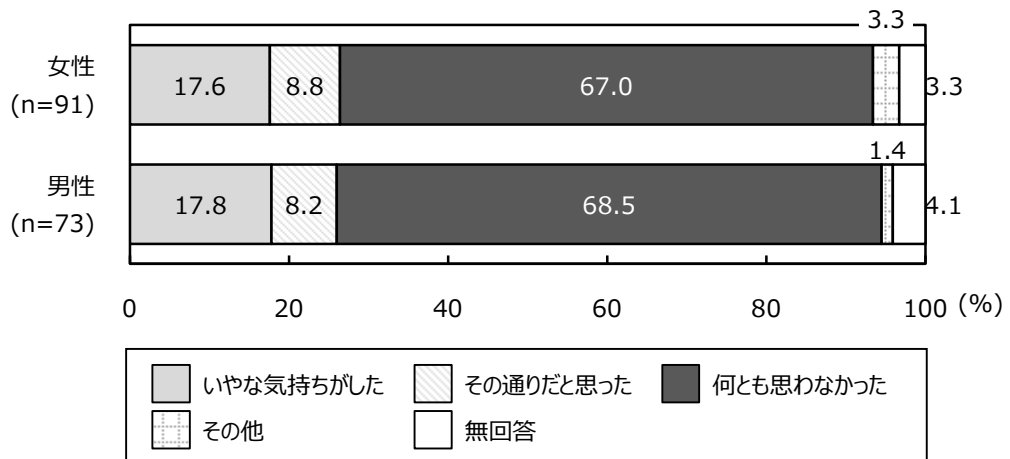
問 3 で「よく言われる」、「ときどき言われる」、「あまり言われたい」と回答された方にお聞きます
 問 3-1 あなたはその時どんな気持ちがありましたか。(単数回答)

「何とも思わなかった」が 66.9%と最も高く、次いで、「いやな気持ちでした」が 18.9%、「その通りだと思った」が 8.3%となっています。



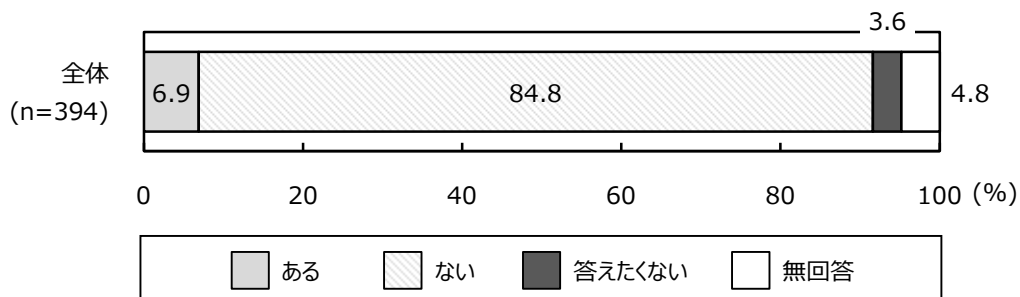
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「何とも思わなかった」が最も高くなっています。



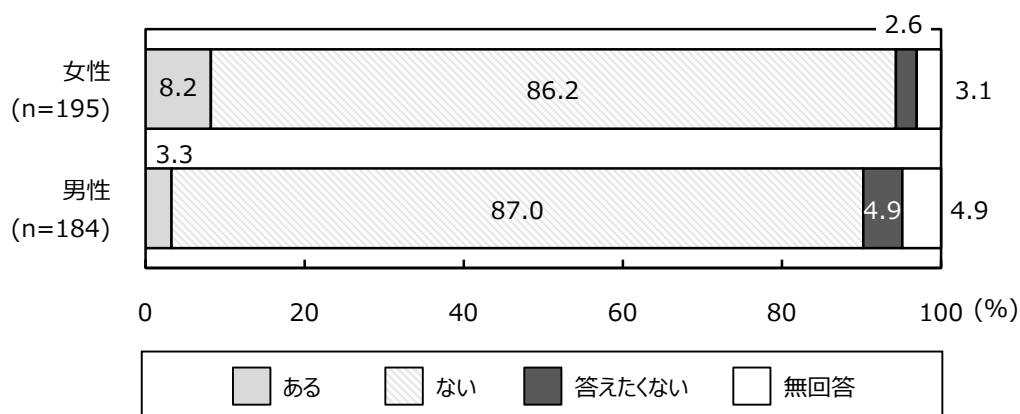
問 4 あなたは男女の違いや男女に対する考え方が原因で自分の性に悩んだ経験はありますか。
(単数回答)

「ある」が 6.9%、「ない」が 84.8%、「答えたくない」が 3.6%となっています。



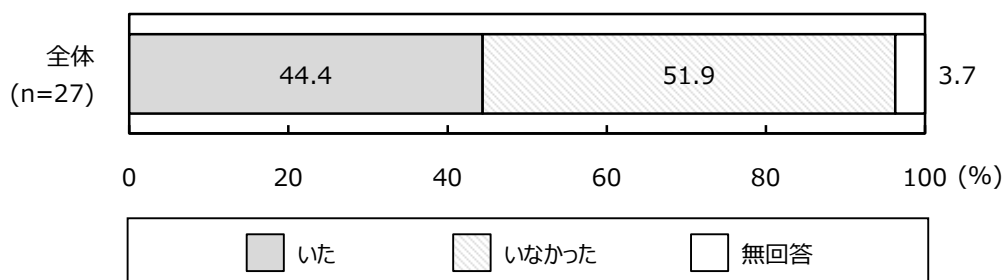
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「ない」が最も高くなっています。



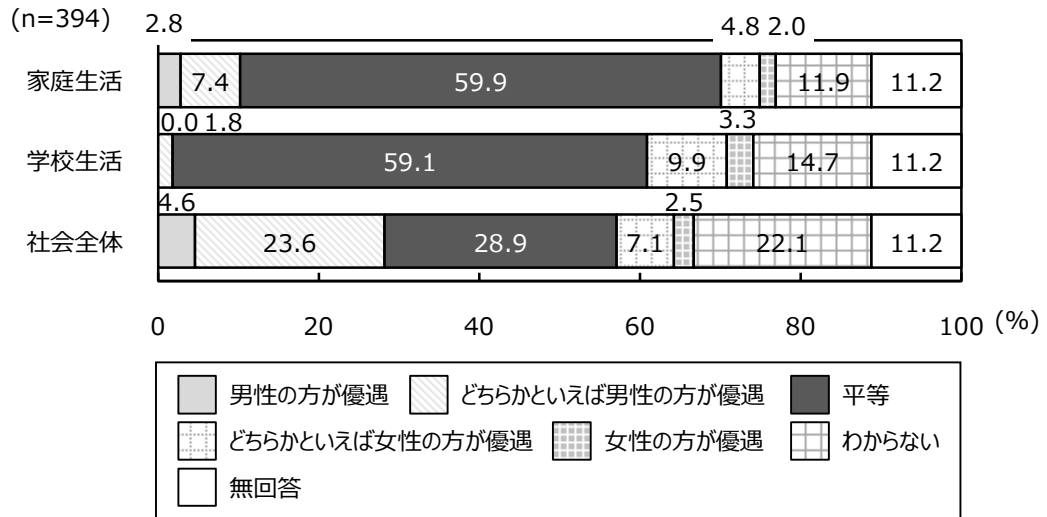
問 4 で「ある」と回答された方にお聞きます
問 4-1 その時、相談できる人がいましたか。(単数回答)

「いた」が 44.4%、「いなかった」が 51.9%となっています。



問 5 あなたは、次のような場面で男女は平等だと思いますか。(単数回答)

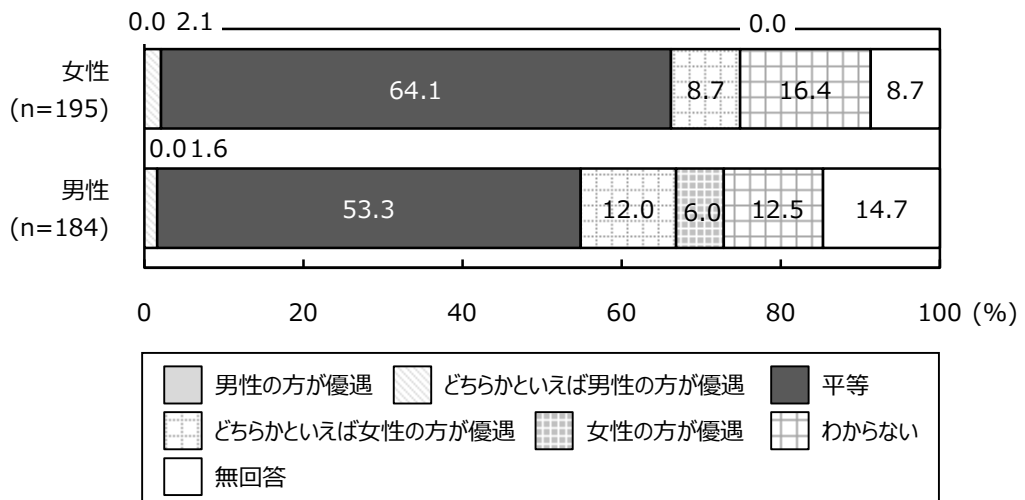
『男性が優遇』(「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」)、「平等」、『女性が優遇』(「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」)で割合を比較すると、いずれの分野も「平等」が最も高くなっていますが、その割合は《家庭生活》が 59.9%、《学校生活》が 59.1%、《社会全体》が 28.9%と、《社会全体》での割合が低い傾向にあります。



【クロス集計分析（性別）】

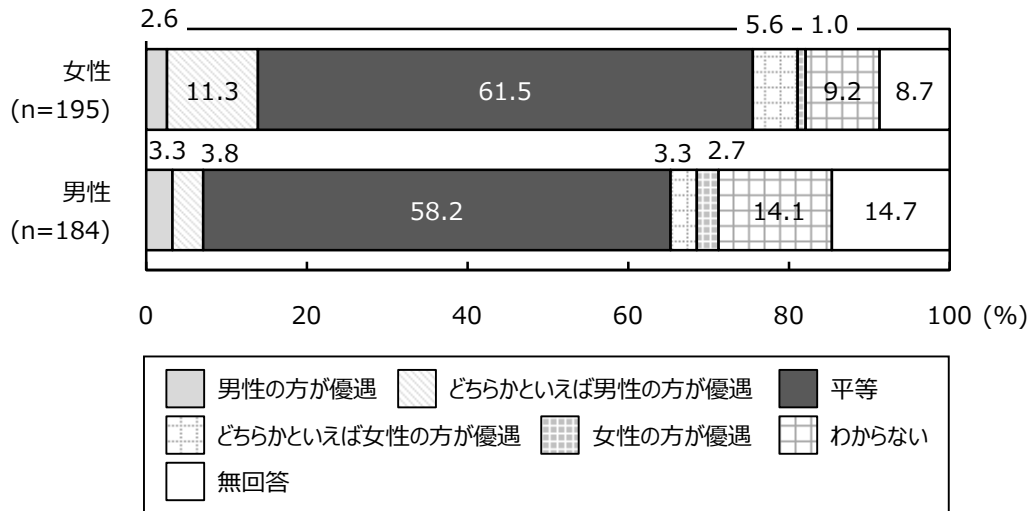
■ 家庭生活

《家庭生活》についてみると、男女ともに「平等」が最も高くなっていますが、《女性》が 64.1%、《男性》が 53.3%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を 10.8 ポイント上回っています。



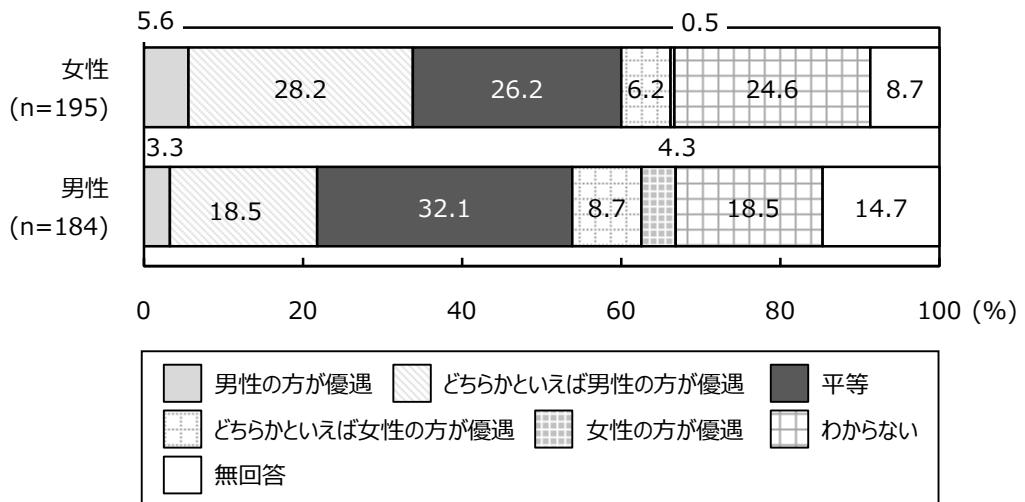
■ 学校生活

《学校生活》についてみると、男女ともに「平等」が最も高くなっていますが、《女性》が61.5%、《男性》が58.2%と、《女性》の方が高くなっています。



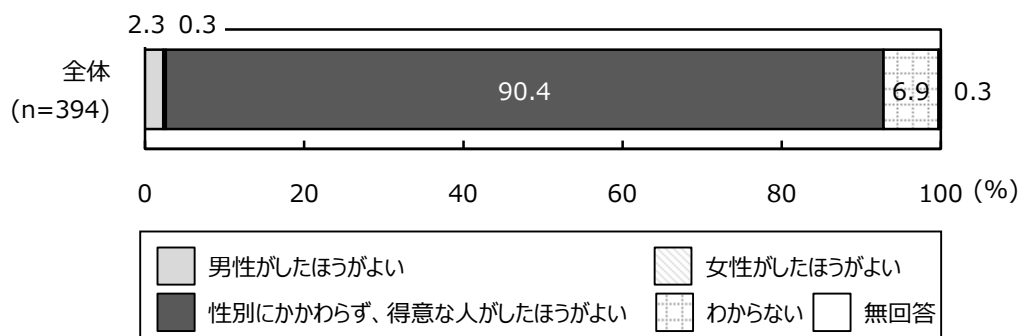
■ 社会全体

《社会全体》についてみると、《女性》は『男性が優遇』が最も高いのに対し、《男性》は「平等」が最も高くなっています。「平等」の割合は《女性》が26.2%、《男性》が32.1%となっています。



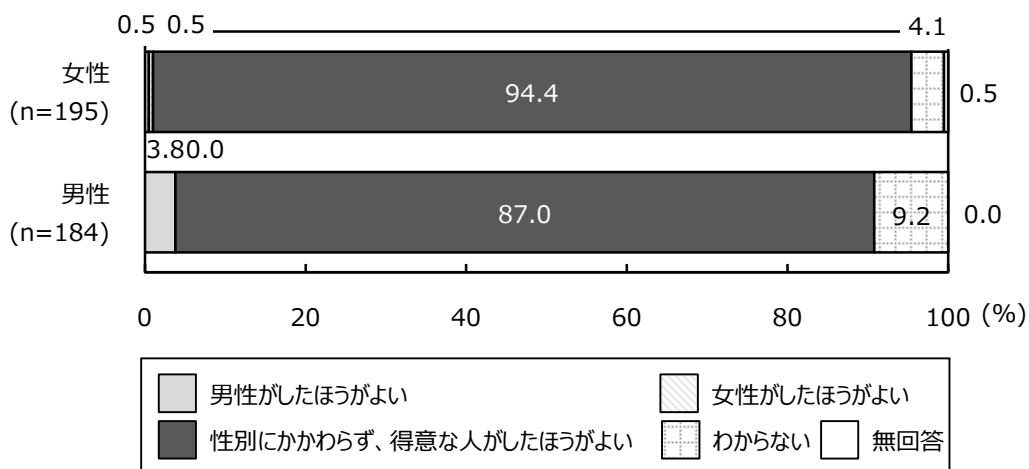
問 6 生徒会長や学校行事のリーダーは誰がするのがよいと思いますか。単数回答)

「性別にかかわらず、得意な人がしたほうがよい」が 90.4%と、大半を占めています。



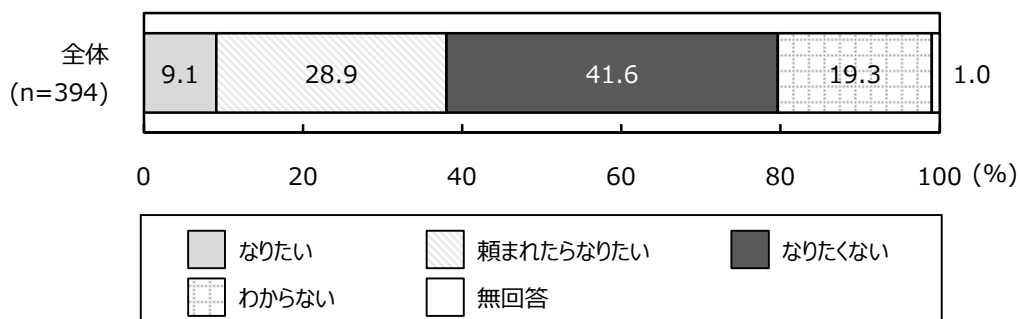
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「性別にかかわらず、得意な人がしたほうがよい」が最も高くなっていますが、《女性》が 94.4%、《男性》が 87.0%と、《女性》の方が高くなっています。



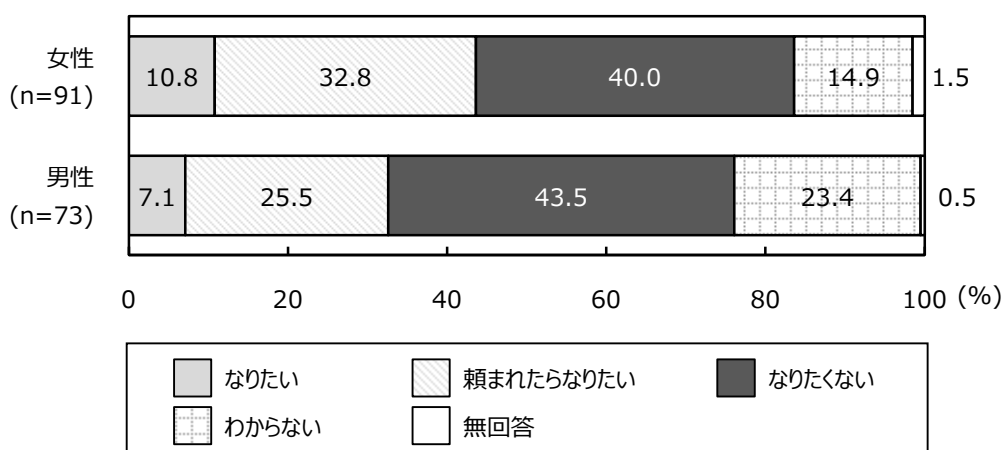
問 6-1 自分自身はリーダーになりたいと思いますか。(単数回答)

「なりたくない」が 41.6%と最も高く、次いで、「頼まれたらなりたい」が 28.9%となっています。



【クロス集計分析 (性別)】

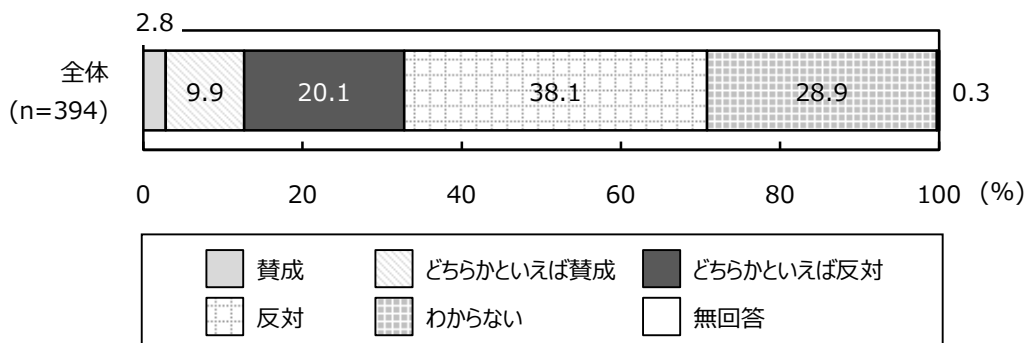
男女ともに「なりたくない」が最も高くなっています。「なりたい」、「頼まれたらなりたい」の割合についてみると、どちらとも《女性》の方が高くなっています (順に、女性：10.8%、男性：7.1%、女性：32.8%、男性：25.5%)。



3. 固定的な役割分担意識について

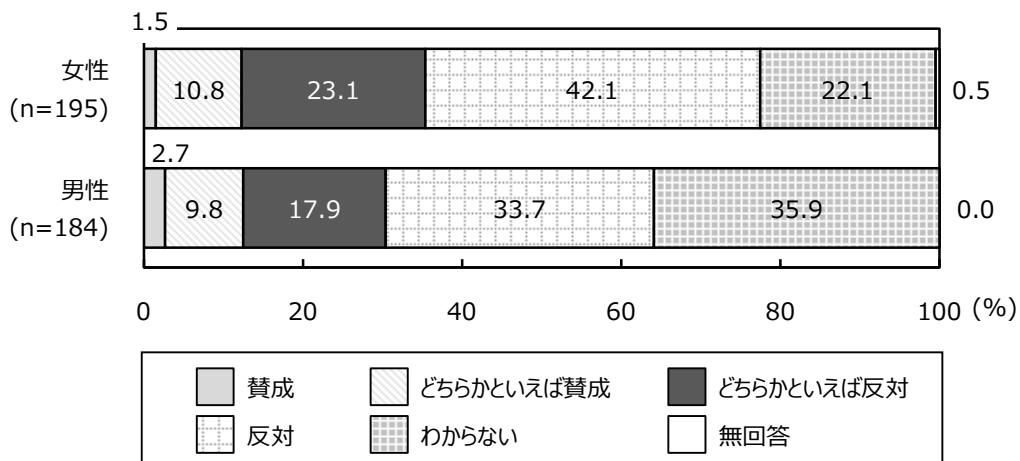
問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（単数回答）

『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）と『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）の割合を比較すると、『賛成』は12.7%、『反対』は58.2%と、『反対』の割合の方が高くなっています。



【クロス集計分析（性別）】

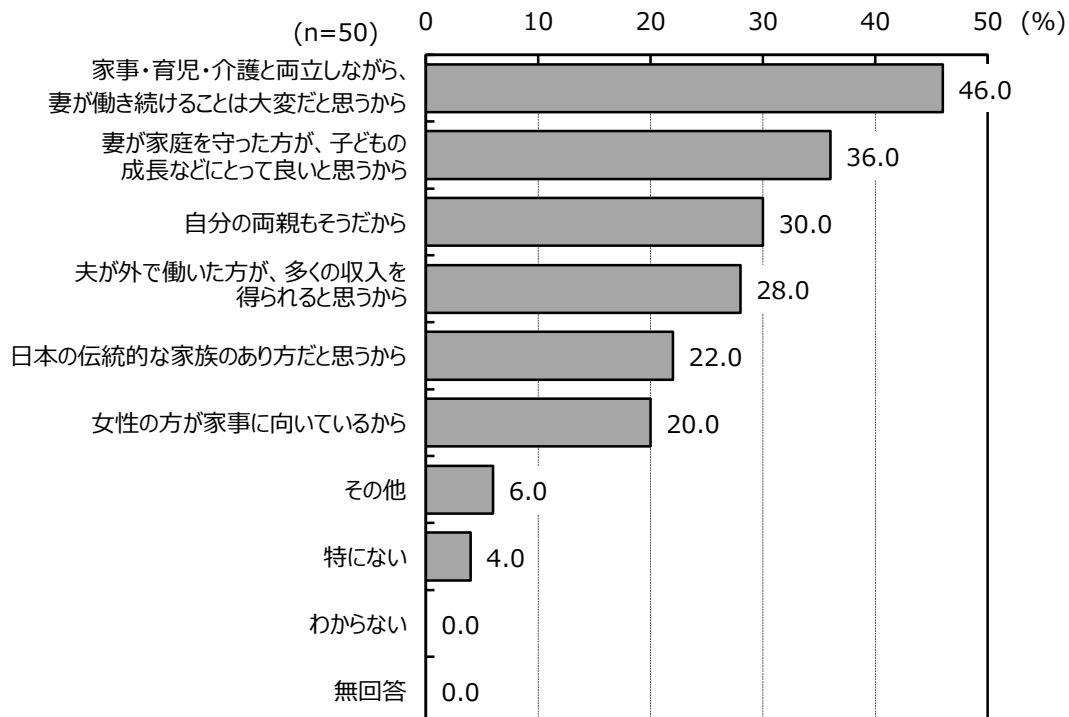
男女ともに『反対』の割合の方が高くなっていますが、その割合は《女性》が65.2%、《男性》が51.6%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を13.6ポイント上回っています。



問 7 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方にお聞きます

問 7-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成の理由は何ですか。（複数回答）

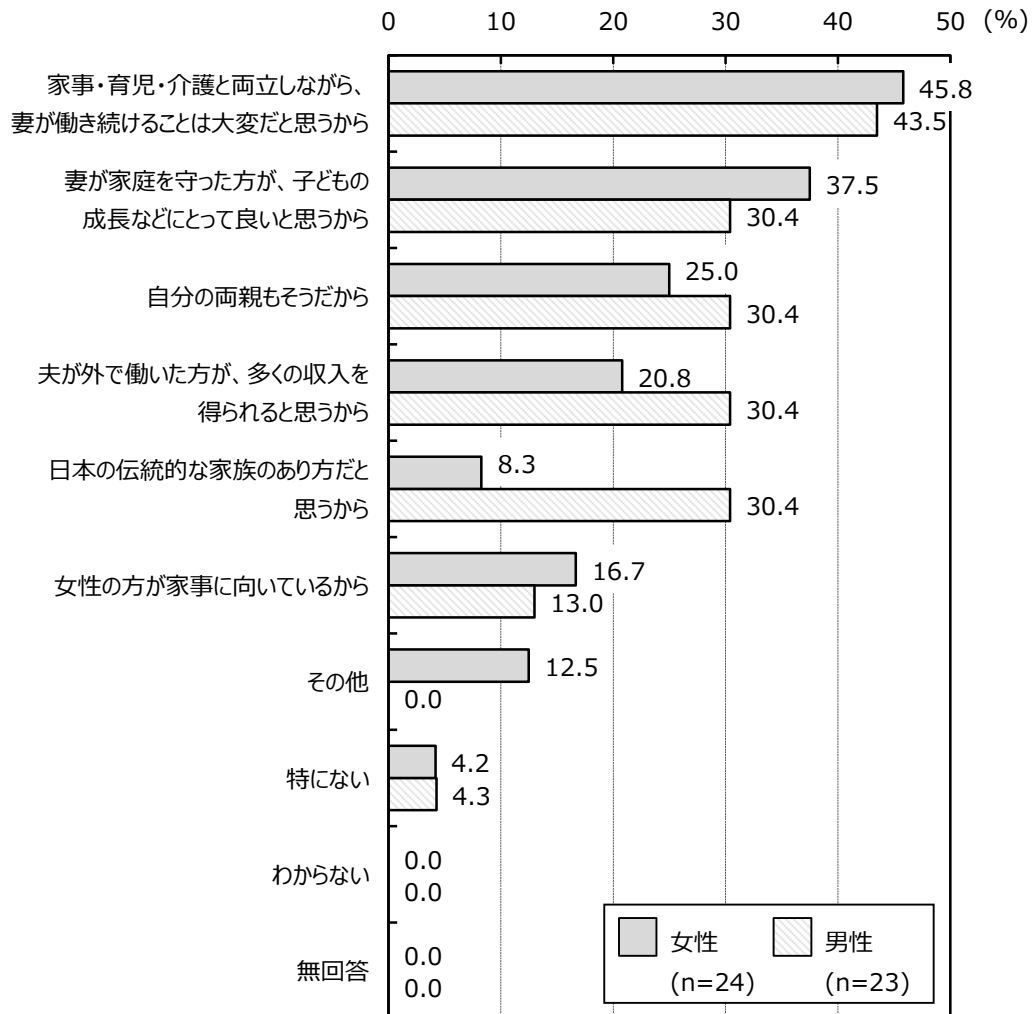
「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 46.0%と最も高く、次いで、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 36.0%、「自分の両親もそうだから」が 30.0%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も高くなっています。次いで、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が高くなっています（男性については「自分の両親もそうだから」、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」と同率）。

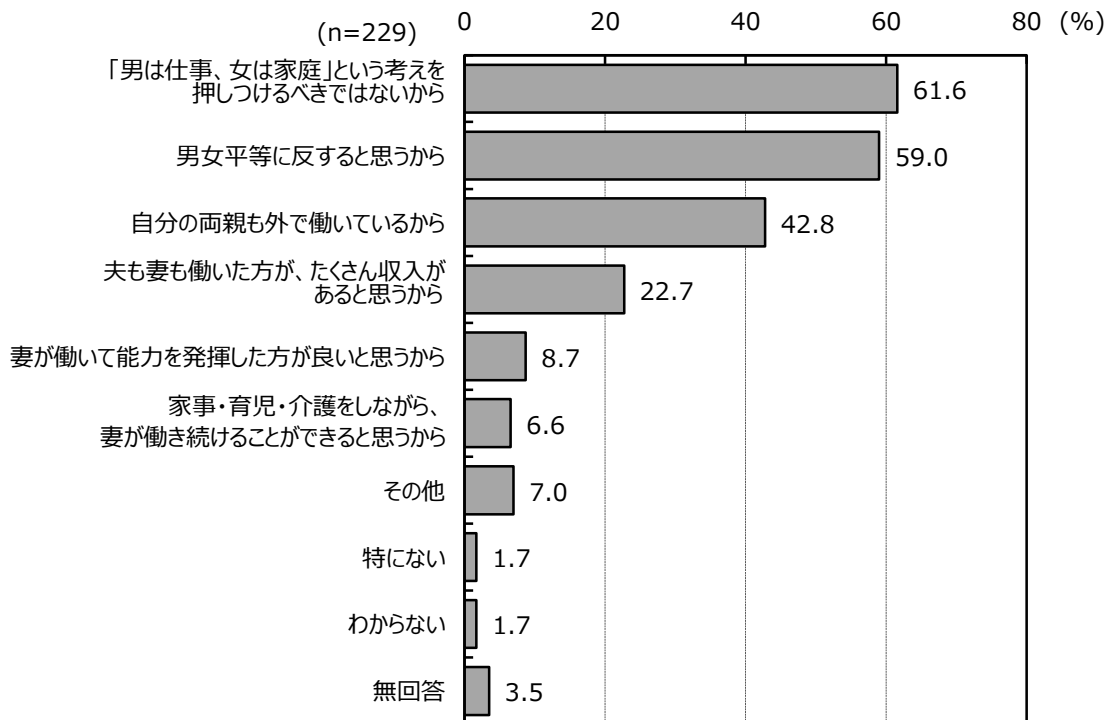
また、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」の割合については男女差が大きく、《女性》は 8.3%であるのに対し、《男性》は 30.4%と、《男性》が 22.1 ポイント上回っています。



問7で「どちらかといえば反対」、「反対」と回答された方にお聞きします

問7-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対の理由は何ですか。（複数回答）

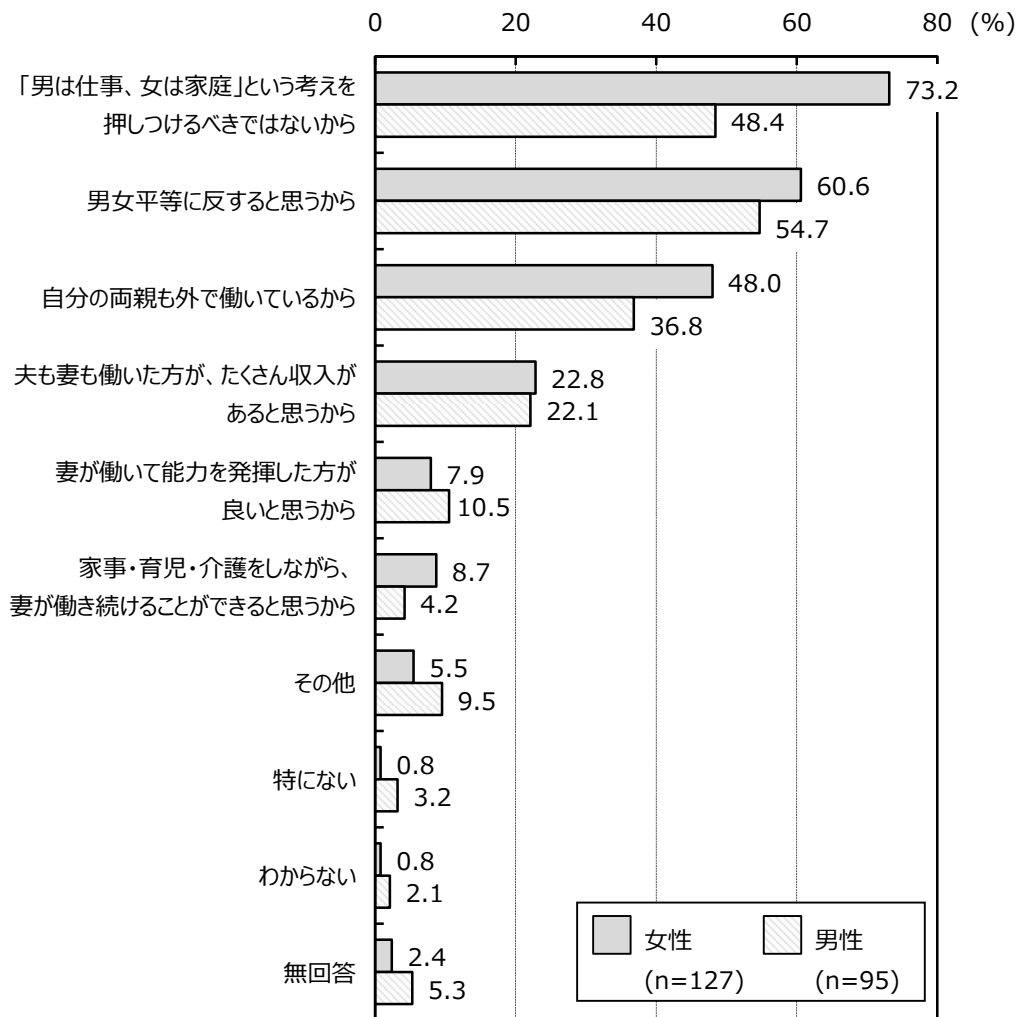
「男は仕事、女は家庭」という考えを押しつけるべきではないから」が61.6%と最も高く、次いで、「男女平等に反すると思うから」が59.0%、「自分の両親も外で働いているから」が42.8%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

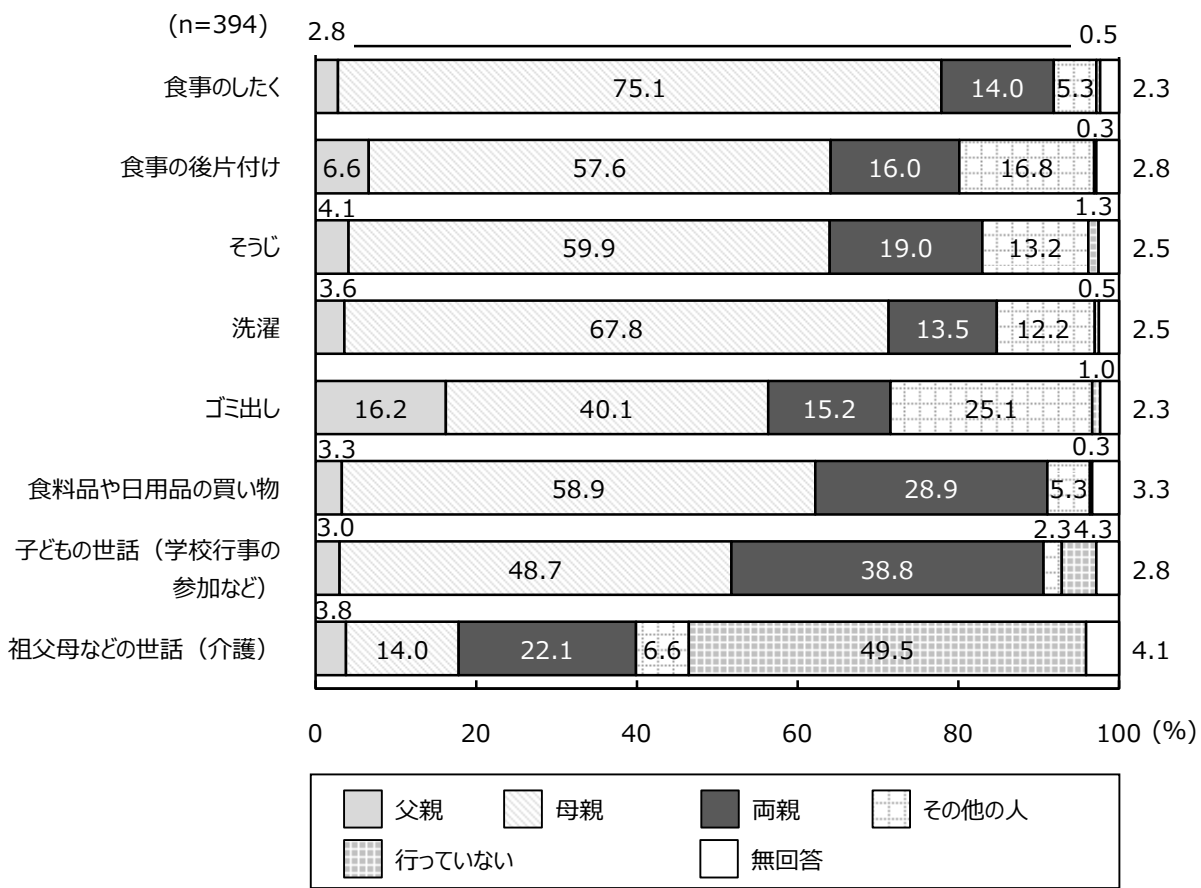
男女ともに「男は仕事、女は家庭」という考えを押しつけるべきではないから、「男女平等に反すると思うから」が上位2位となっていますが、《女性》は「男は仕事、女は家庭」という考えを押しつけるべきではないから」が最も高いのに対し、《男性》は「男女平等に反すると思うから」が最も高くなっています。

「男は仕事、女は家庭」という考えを押しつけるべきではないから」については男女差が大きく、《女性》が《男性》を24.8ポイント上回っています。



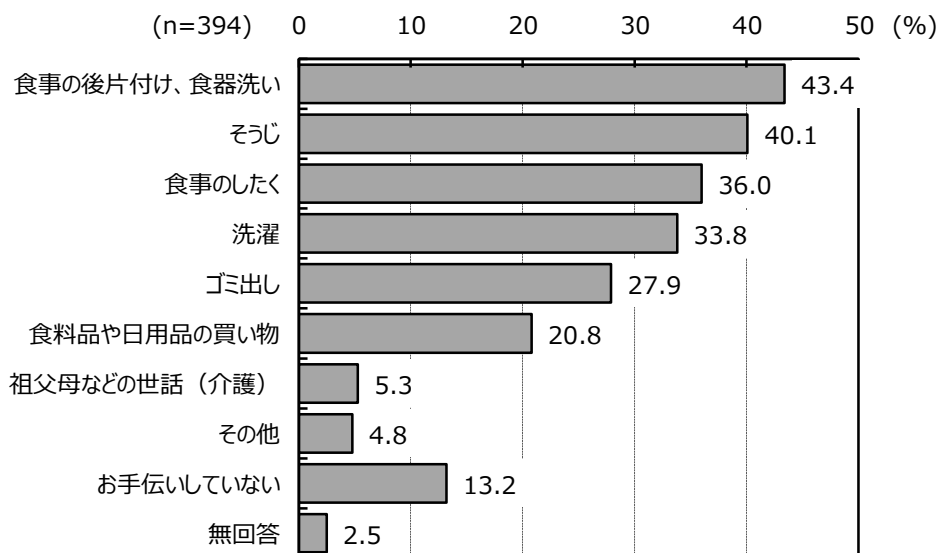
問 8 あなたの家庭では、次のことは主にどなたが行っていますか。(単数回答)

《祖父母などの世話（介護）》では「行っていない」が最も高くなっていますが、それ以外の分野においては「母親」が最も高く、特に《食事のしたく》、《洗濯》での割合が高い傾向にあります。



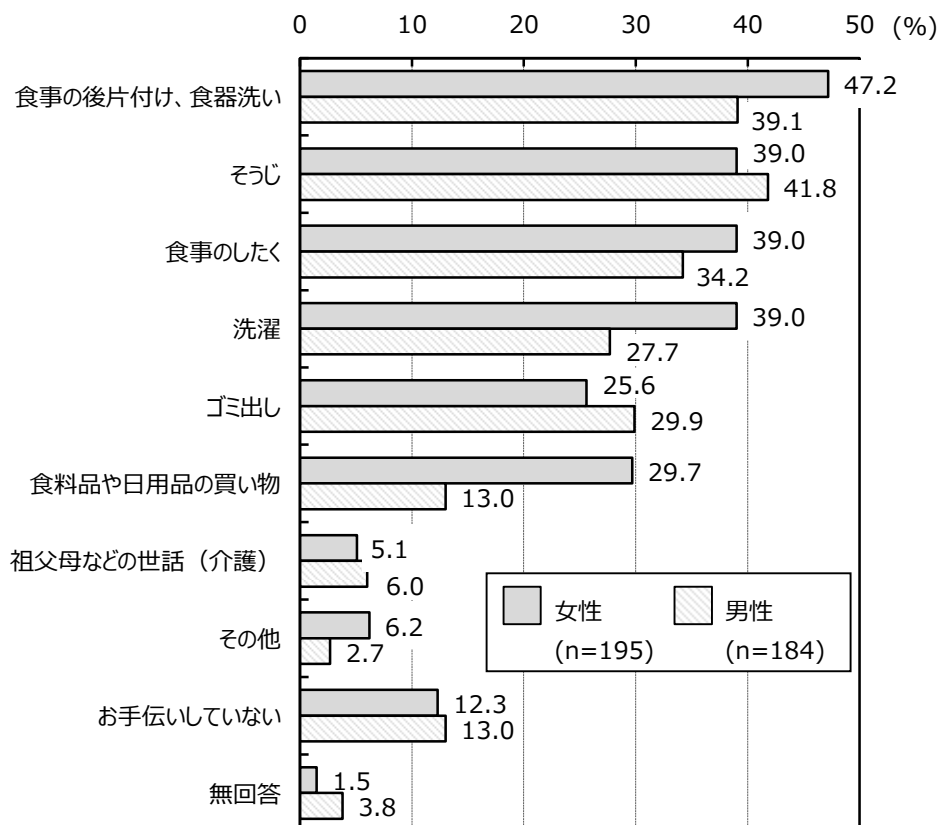
問 8-1 あなたが、家庭でお手伝いしていることは何ですか。（複数回答）

「食事の後片付け、食器洗い」が 43.4%と最も高く、次いで、「そうじ」が 40.1%、「食事のしたく」が 36.0%となっています。



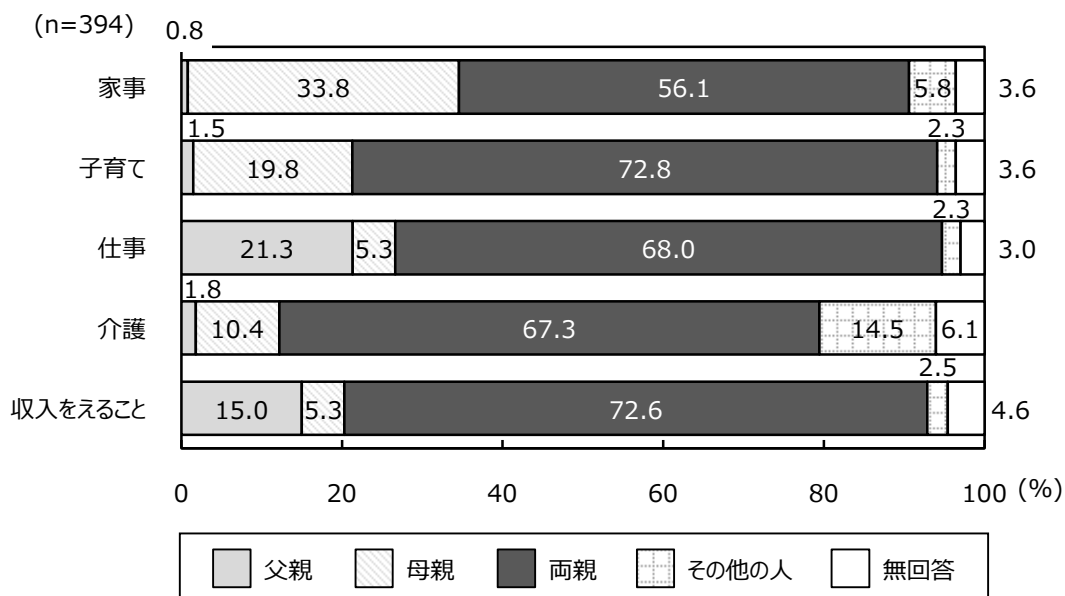
【クロス集計分析（性別）】

《女性》は「食事の後片付け、食器洗い」が最も高いのに対し、《男性》は「そうじ」が最も高くなっています。



問 9 あなたは次のことを行うのは誰が一番よいと思いますか。(単数回答)

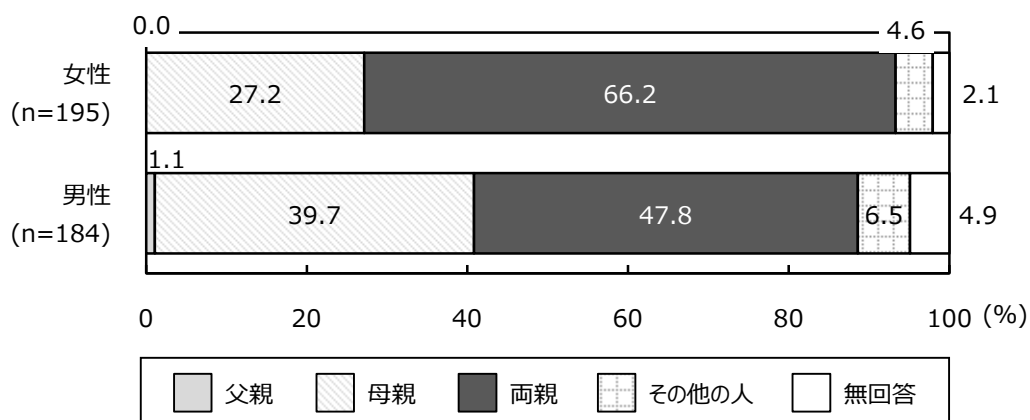
いずれの分野も「両親」が最も高くなっていますが、特に《収入をえること》、《子育て》での割合が高い傾向にあります。



【クロス集計分析（性別）】

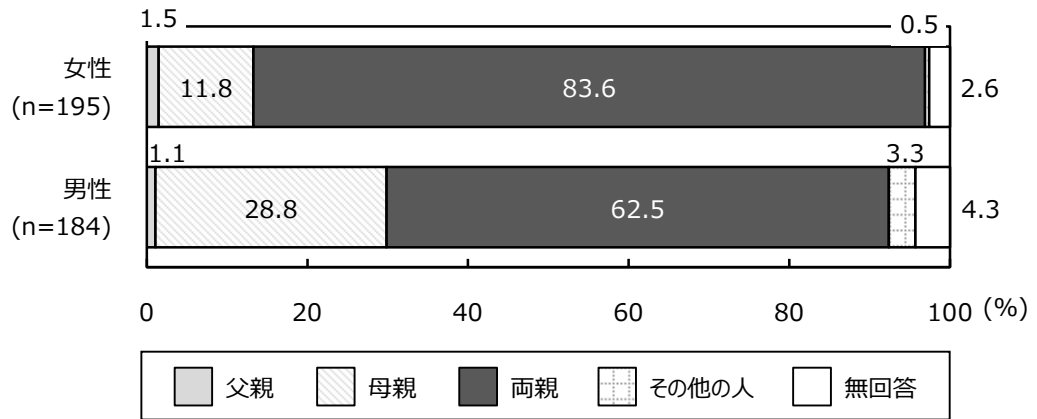
■ 家事

《家事》についてみると、男女ともに「両親」が最も高くなっていますが、《女性》が66.2%、《男性》が47.8%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を18.4ポイント上回っています。



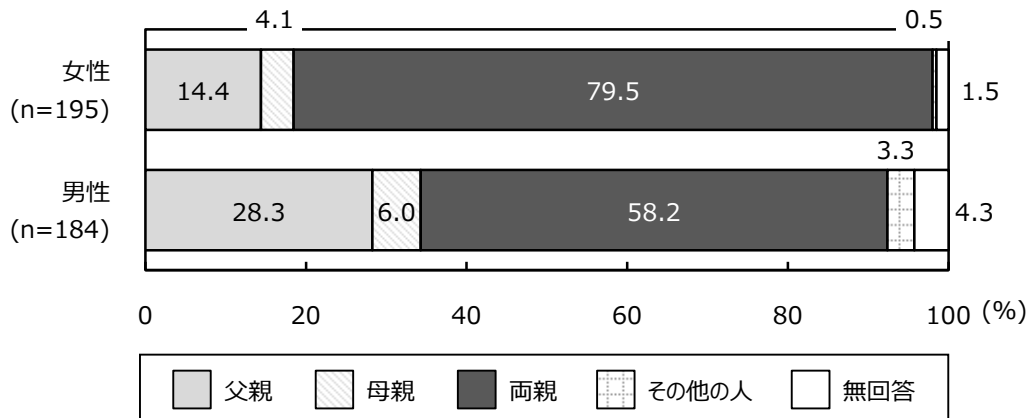
■ 子育て

《子育て》についてみると、男女ともに「両親」が最も高くなっていますが、《女性》が83.6%、《男性》が62.5%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を21.1ポイント上回っています。



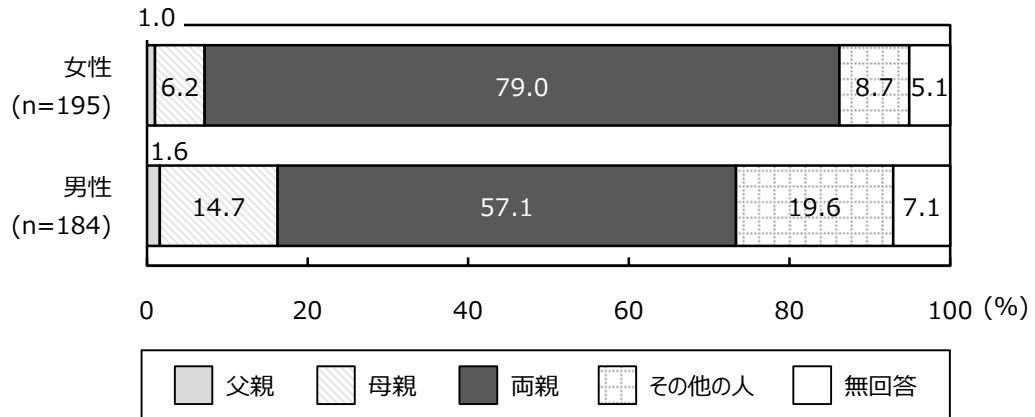
■ 仕事

《仕事》についてみると、男女ともに「両親」が最も高くなっていますが、《女性》が79.5%、《男性》が58.2%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を21.3ポイント上回っています。



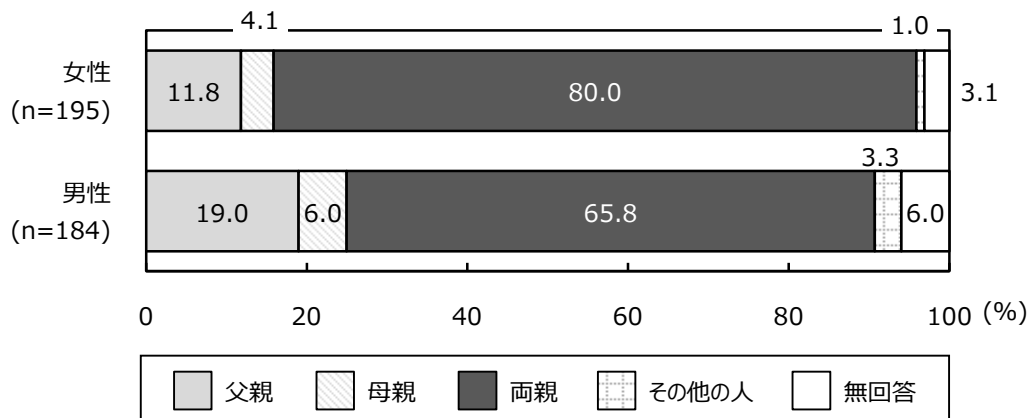
■ 介護

《介護》についてみると、男女ともに「両親」が最も高くなっていますが、《女性》が79.0%、《男性》が57.1%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を21.9ポイント上回っています。



■ 収入をえること

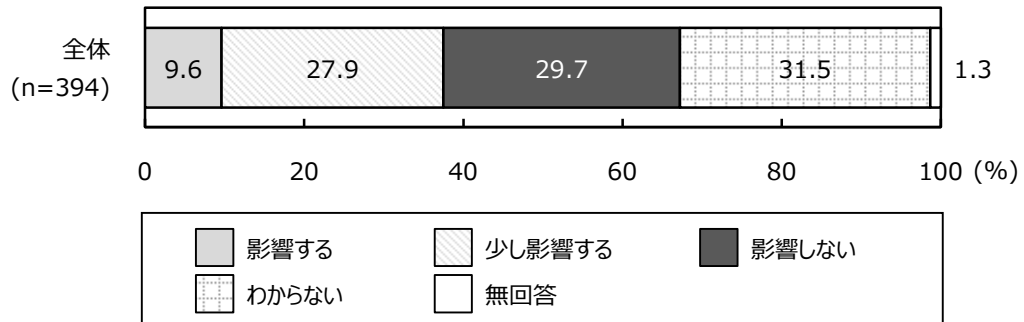
《収入をえること》についてみると、男女ともに「両親」が最も高くなっていますが、《女性》が80.0%、《男性》が65.8%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を14.2ポイント上回っています。



4. 結婚・将来などについて

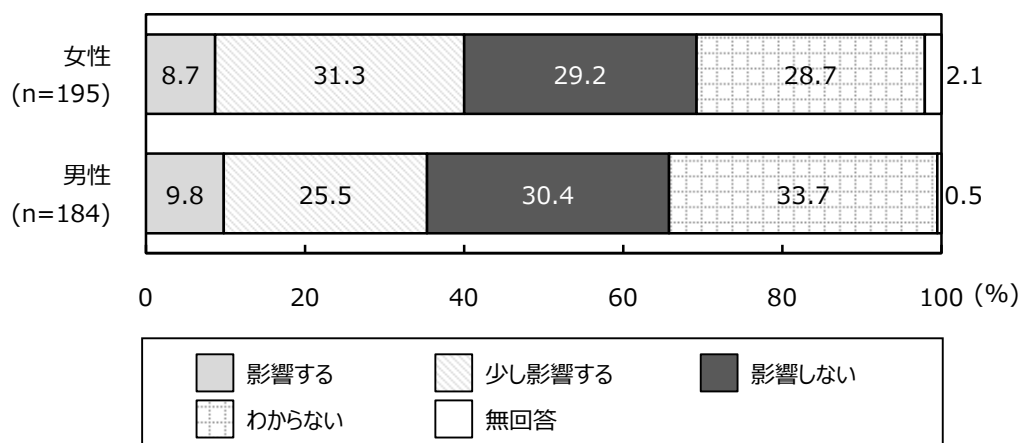
問 10-1 将来なりたい仕事を実現するうえで、「男であること」・「女であること」が影響すると思いますか。（単数回答）

『影響する』（「影響する」+「少し影響する」）と「影響しない」の割合を比較すると、『影響する』は 37.5%、「影響しない」は 29.7%となっています。「わからない」については 31.5%となっています。



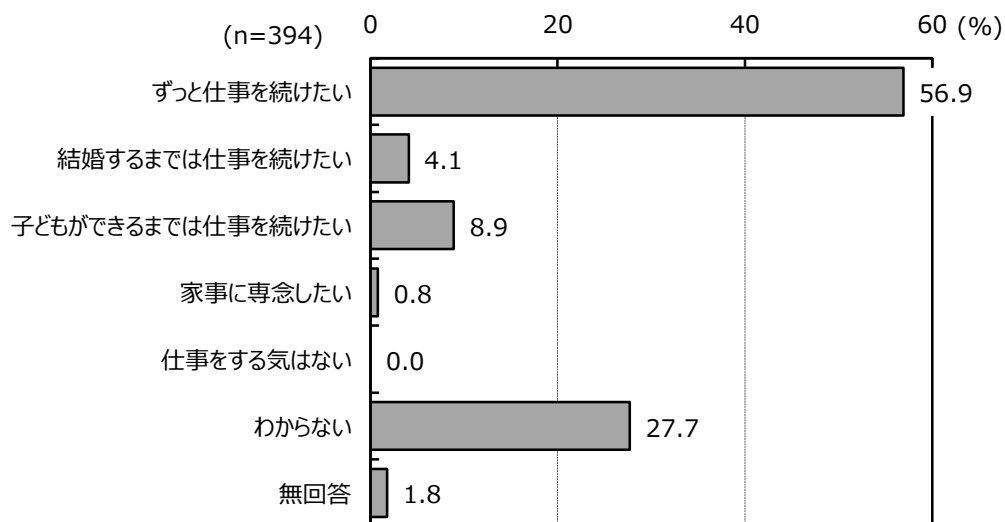
【クロス集計分析（性別）】

男女ともに『影響する』が最も高くなっていますが、《女性》が 40.0%、《男性》が 35.3%と、《女性》の方が高くなっています。



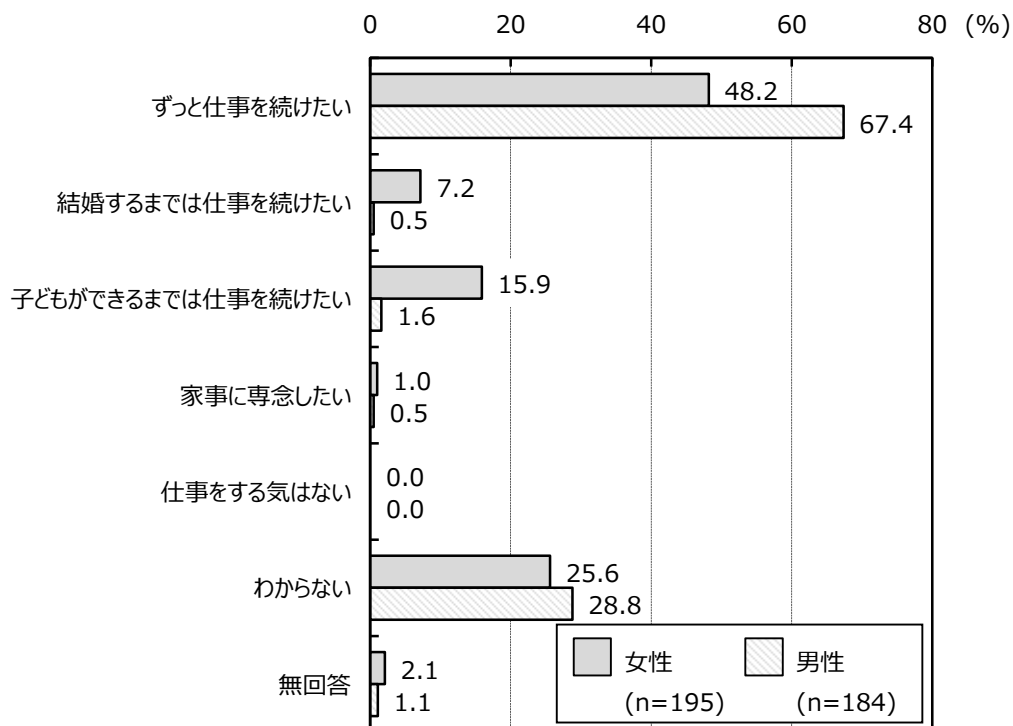
問 11 あなたは、将来どのような働き方をしたいですか。（単数回答）

「ずっと仕事を続けたい」が 56.9%と最も高くなっています。次いで、「わからない」が 27.7%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに「ずっと仕事を続けたい」が最も高くなっていますが、《女性》は 48.2%、《男性》は 67.4%と男女差が大きく、《男性》が《女性》を 19.2 ポイント上回っています。

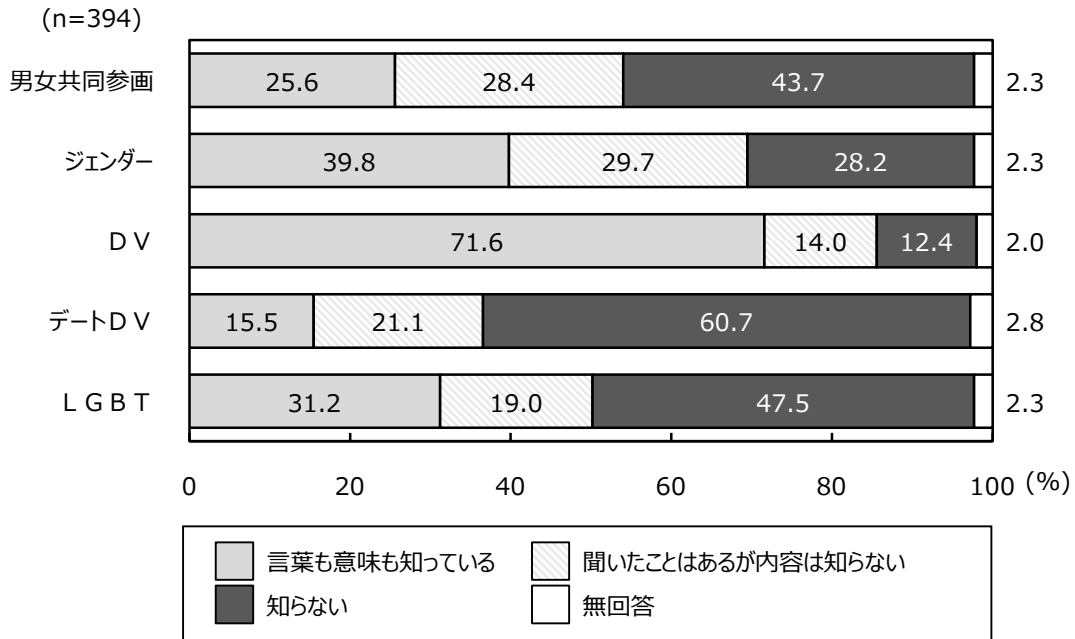


5. 男女の人権について

問 12 あなたは次の言葉を知っていますか。（単数回答）

《ジェンダー》、《DV》については「言葉も意味も知っている」が最も高くなっていますが、それ以外の項目は「知らない」が最も高くなっています。

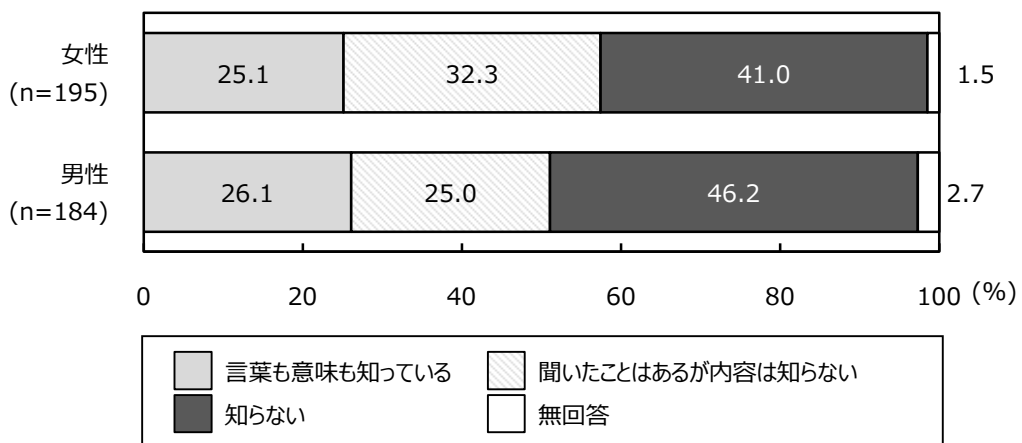
「言葉も意味も知っている」の割合については《DV》で最も高く、71.6%となっています。次いで、《ジェンダー》で39.8%、《LGBT》で31.2%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

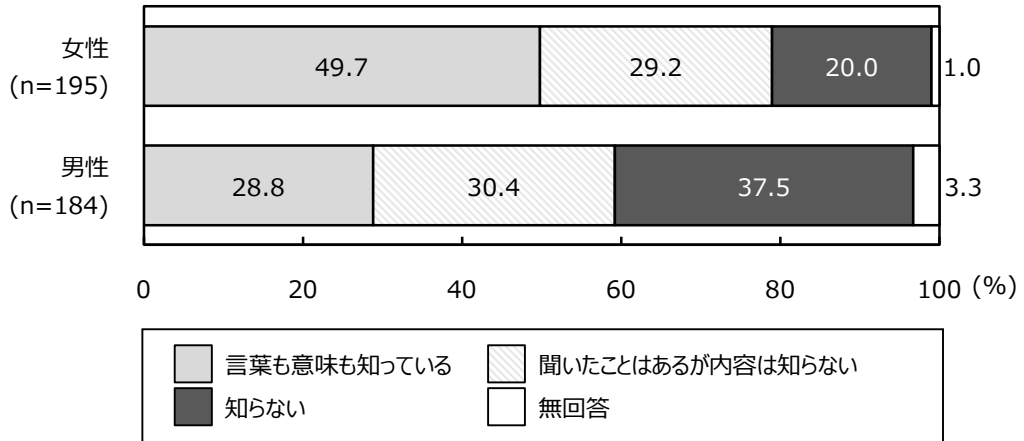
■ 男女共同参画

《男女共同参画》についてみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。「言葉も意味も知っている」の割合については《女性》が25.1%、《男性》は26.1%となっています。



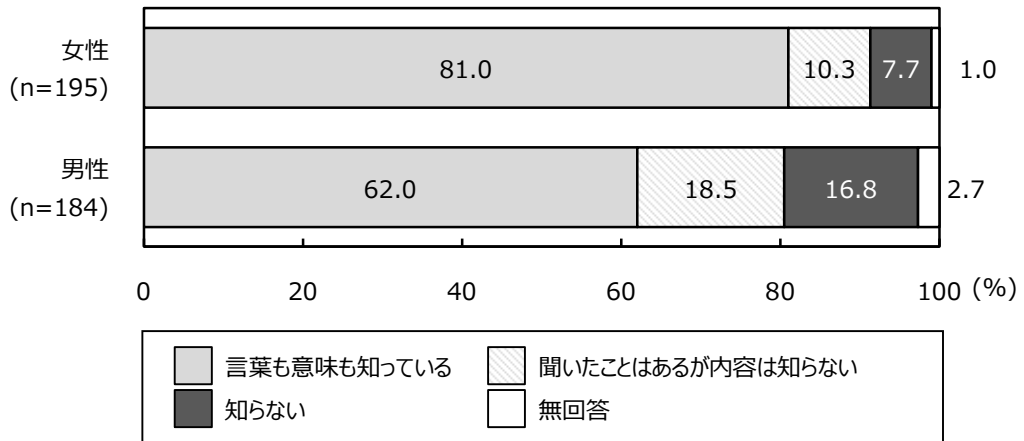
■ ジェンダー

《ジェンダー》についてみると、《女性》は「言葉も意味も知っている」が最も高いのに対し、《男性》は「知らない」が最も高くなっています。「言葉も意味も知っている」の割合については《女性》が49.7%、《男性》は28.8%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を20.9ポイント上回っています。



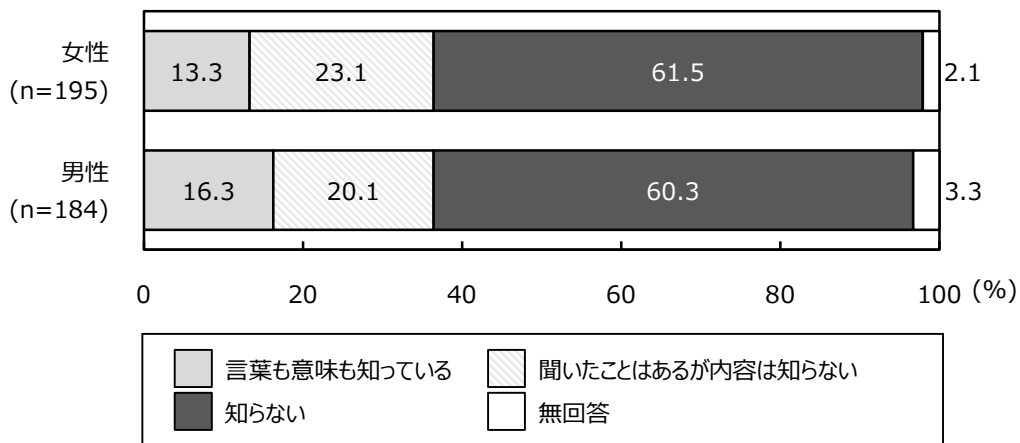
■ DV

《DV》についてみると、男女ともに「言葉も意味も知っている」が最も高くなっていますが、《女性》は81.0%、《男性》は62.0%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を19.0ポイント上回っています。



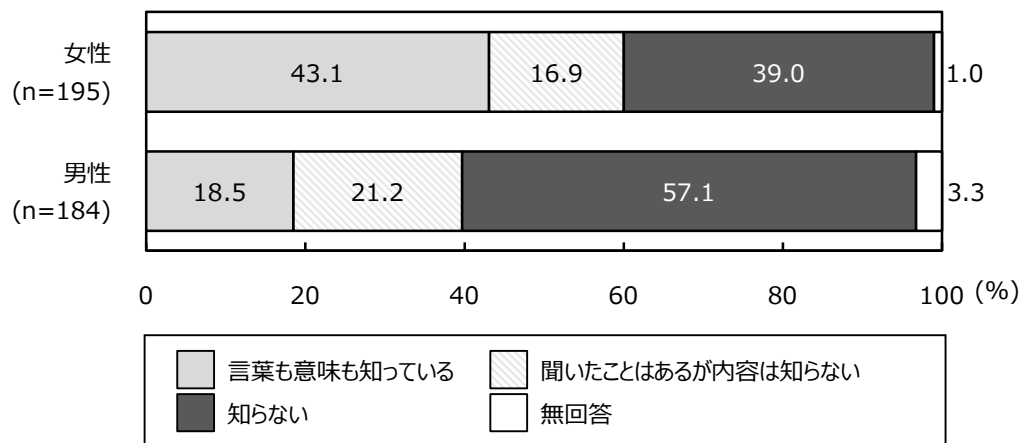
■ デートDV

《デートDV》についてみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。「言葉も意味も知っている」の割合については《女性》が13.3%、《男性》は16.3%となっています。



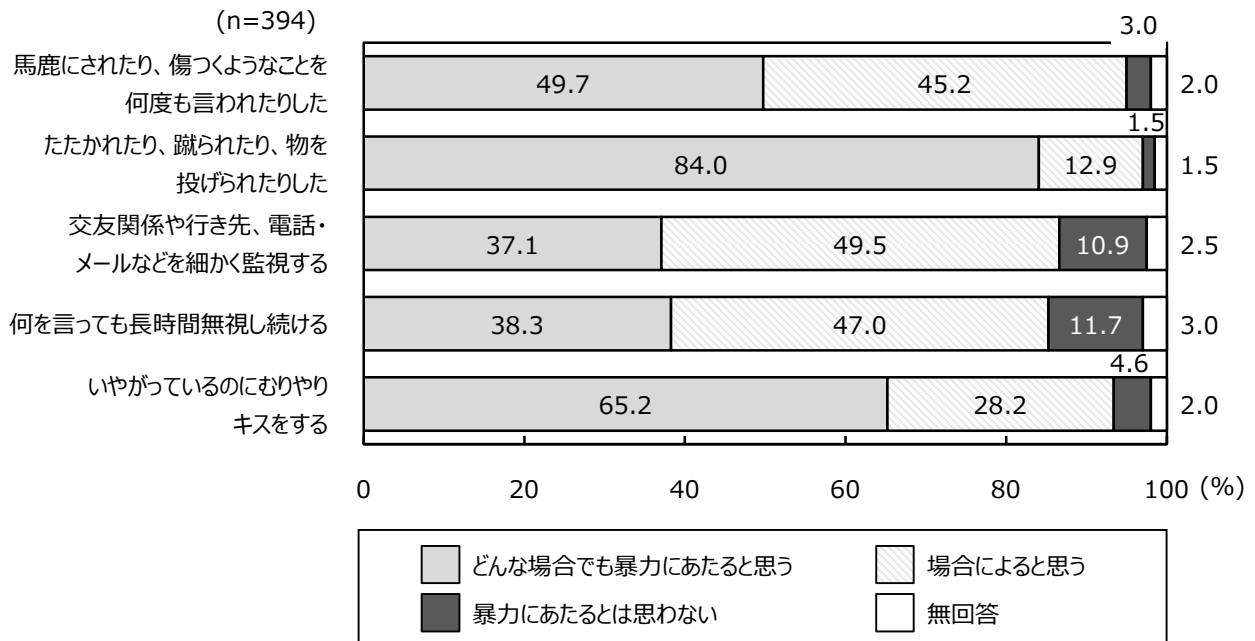
■ LGBT

《LGBT》についてみると、《女性》は「言葉も意味も知っている」が最も高いのに対し、《男性》は「知らない」が最も高くなっています。「言葉も意味も知っている」の割合については《女性》が43.1%、《男性》は18.5%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を24.6ポイント上回っています。



問 13 交際相手との間で次のことが行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。（単数回答）

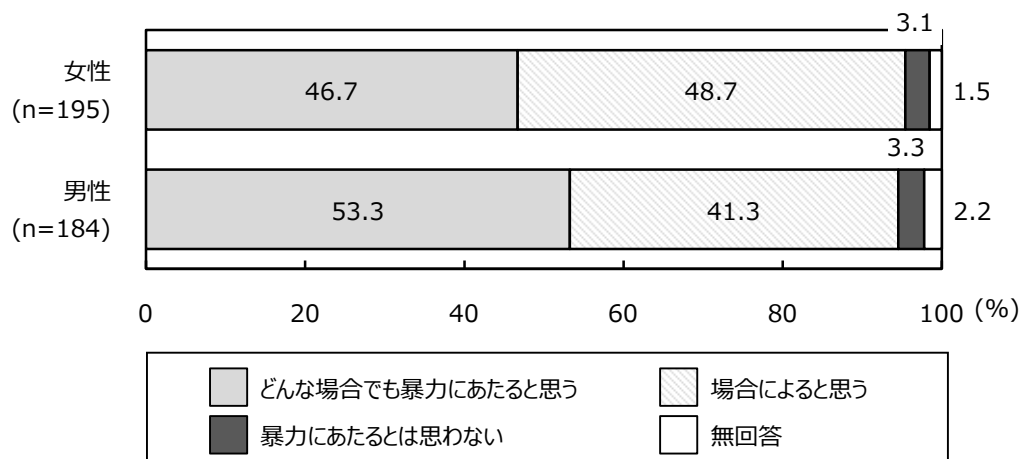
いずれの項目も「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、「たたかれたり、蹴られたり、物を投げられたりした」での割合が特に高くなっています。一方、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」、「何を言っても長時間無視し続ける」での割合は低い傾向にあり、30%台となっています。



【クロス集計分析（性別）】

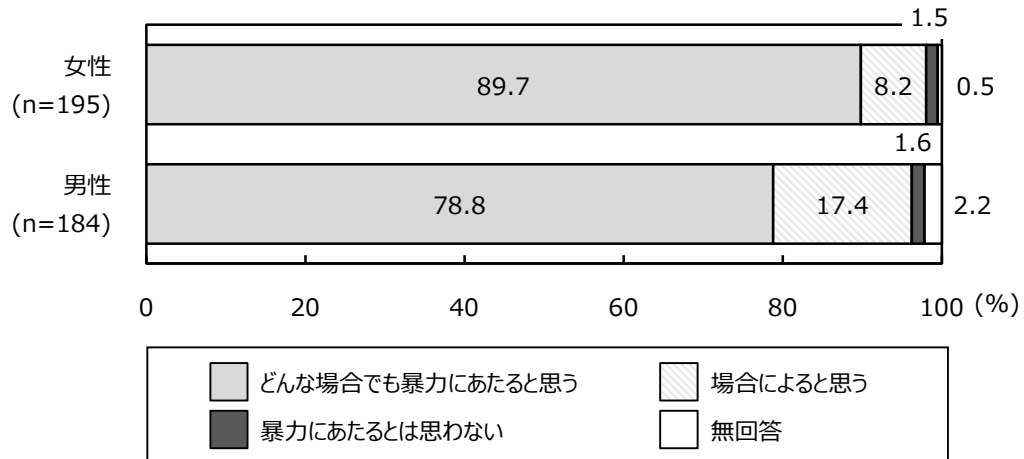
■ 馬鹿にされたり、傷つくようなことを何度も言われたりした

《馬鹿にされたり、傷つくようなことを何度も言われたりした》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が46.7%、《男性》が53.3%と、《男性》の方が高くなっています。



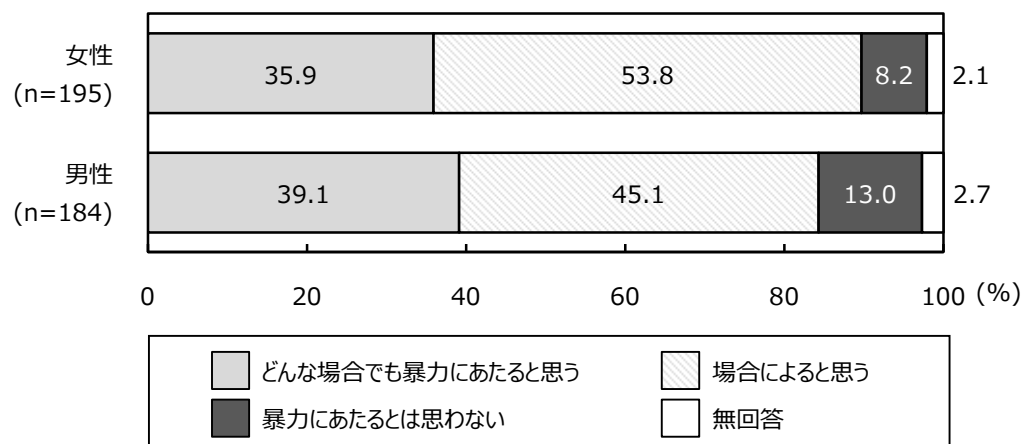
■ たたかれたり、蹴られたり、物を投げられたりした

《たたかれたり、蹴られたり、物を投げられたりした》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が 89.7%、《男性》が 78.8%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を 10.9 ポイント上回っています。



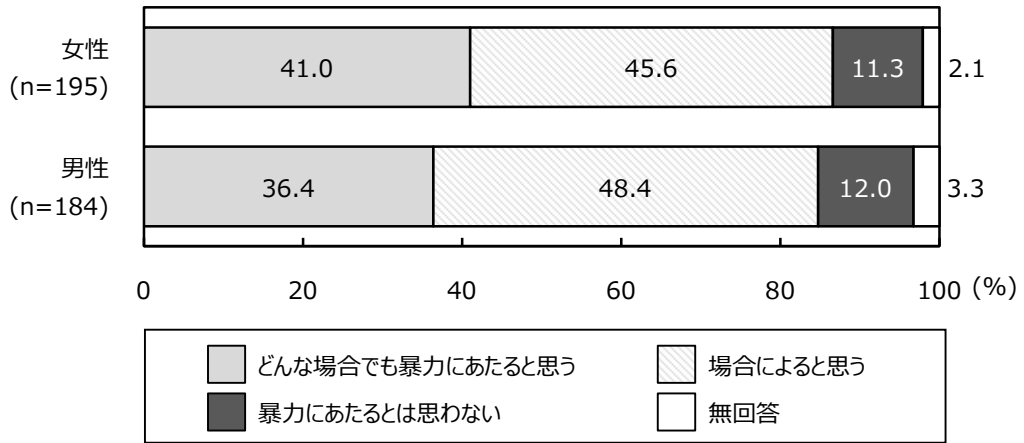
■ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

《交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する》についてみると、男女ともに「場合によると思う」が最も高くなっています。「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合については《女性》が 35.9%、《男性》が 39.1%となっています。



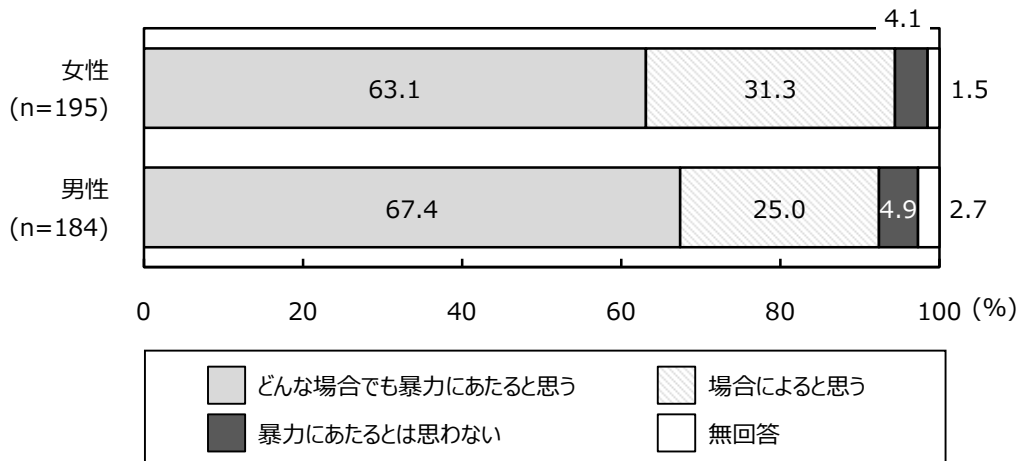
■ 何を言っても長時間無視し続ける

《何を言っても長時間無視し続ける》についてみると、男女ともに「場合によると思う」が最も高くなっています。「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合については《女性》が41.0%、《男性》が36.4%となっています。



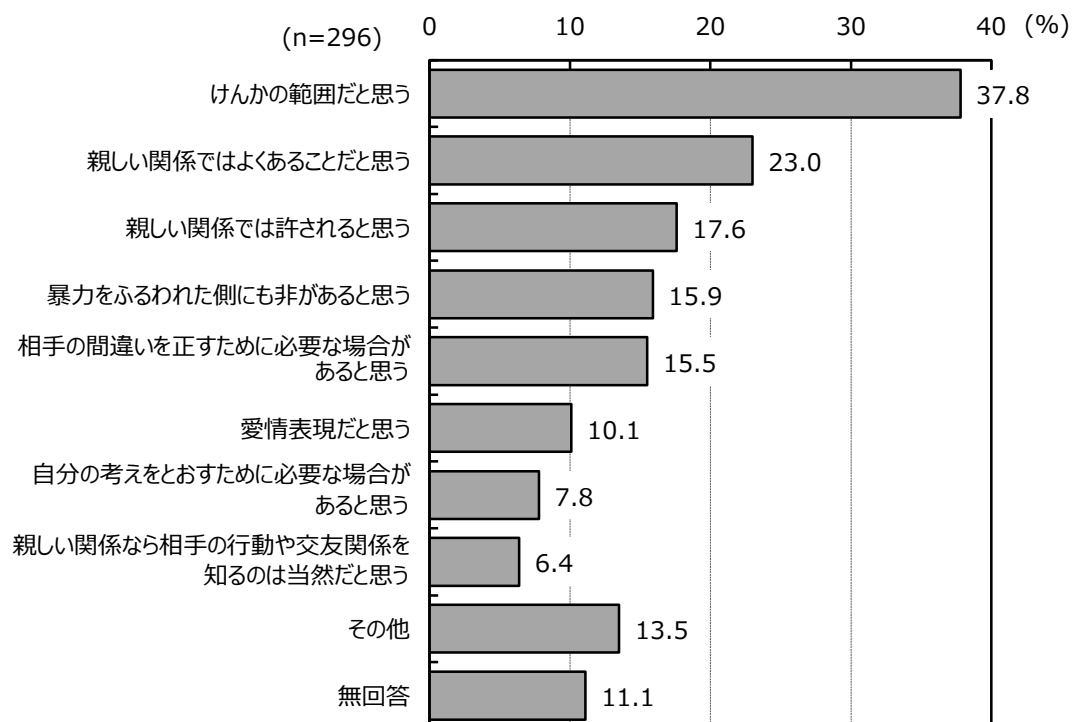
■ いやがっているのにむりやりキスをする

《いやがっているのにむりやりキスをする》についてみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、《女性》が63.1%、《男性》が67.4%と、《男性》の方が高くなっています。



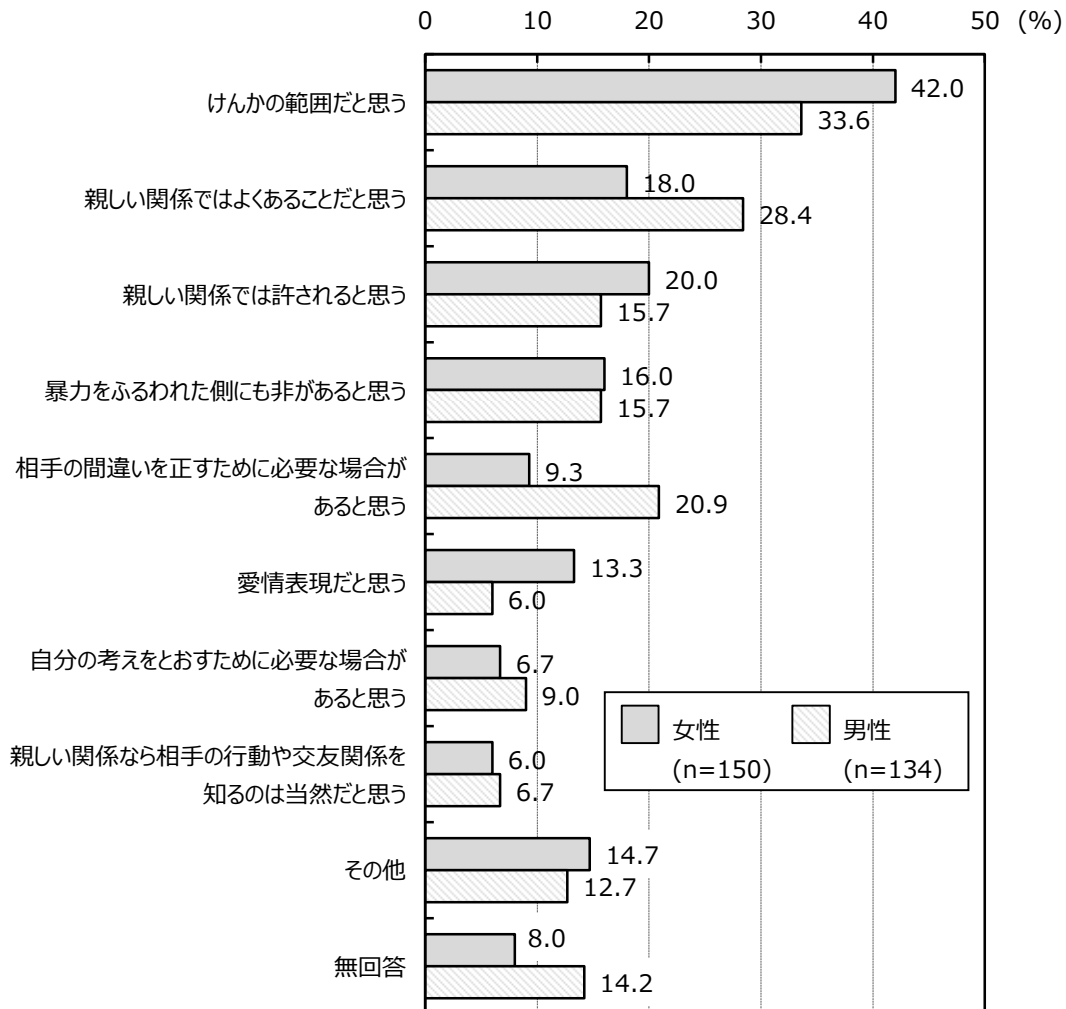
問 13 で 1 つでも「場合によると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人にお聞きします
問 13-1 「場合によると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。（複数回答）

「けんかの範囲だと思う」が 37.8%と最も高く、次いで、「親しい関係ではよくあることだと思う」が 23.0%、「親しい関係では許されると思う」が 17.6%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

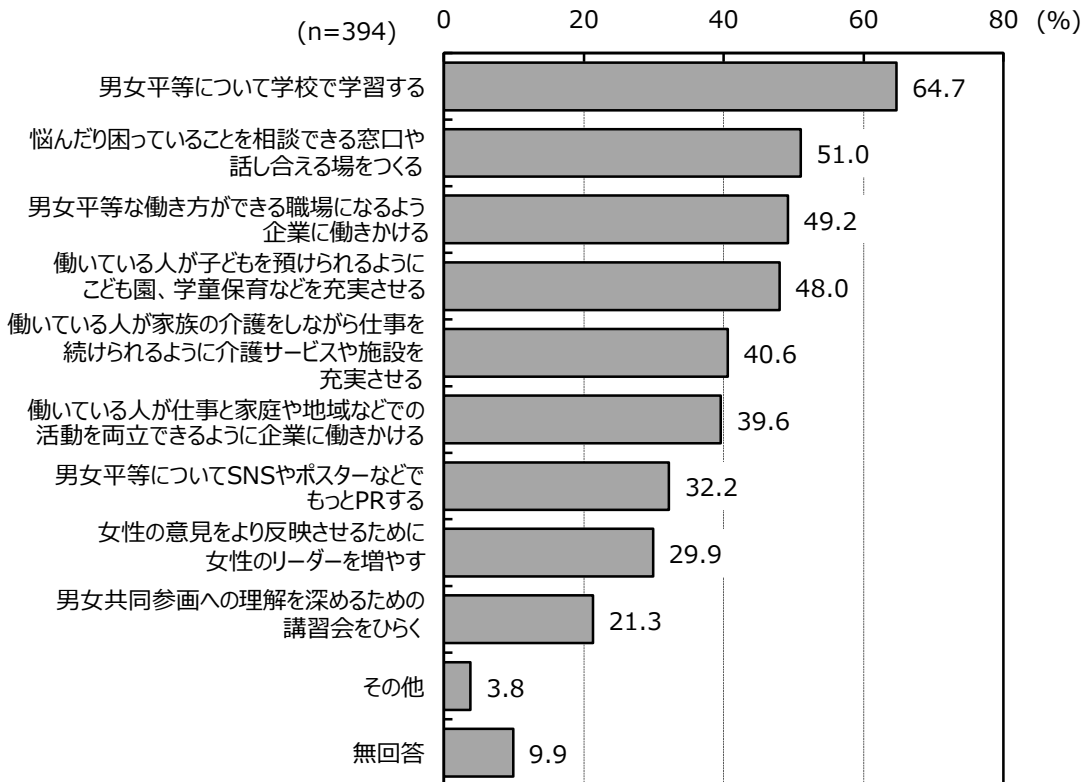
男女ともに「けんかの範囲だと思う」が最も高くなっています。また、「親しい関係ではよくあることだと思う」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」の割合については《男性》での割合が高く、《女性》を10ポイント以上上回っています（順に10.4ポイント、11.6ポイント）。



6. 町の男女共同参画に対する取組について

問 14 久御山町では、男だから女だからと決めつけないで、誰もがその人らしく個性や能力を発揮することができる社会の実現を目指しています。これから、町がどのようなことに力を入れて取り組むとよいと思いますか。（複数回答）

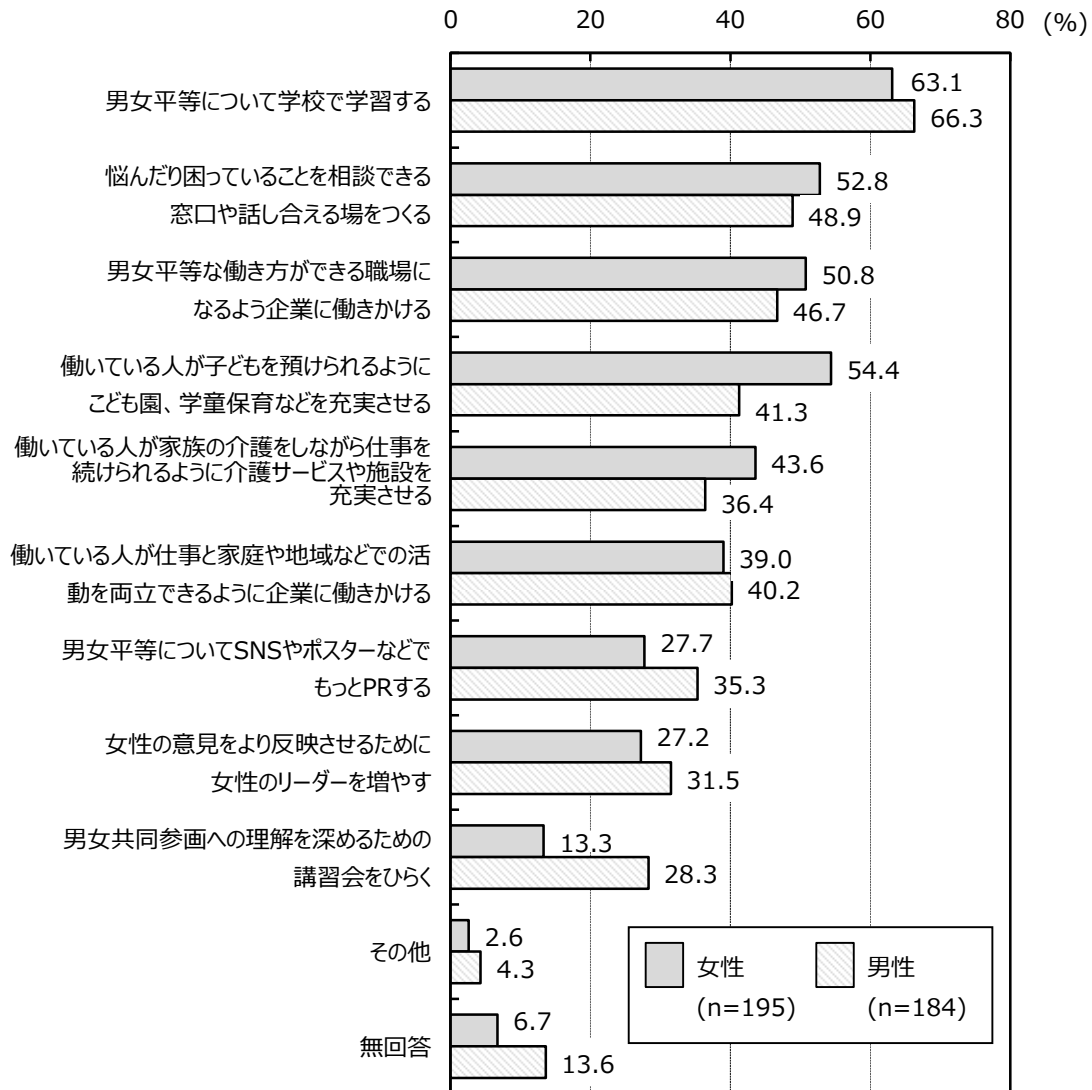
「男女平等について学校で学習する」が 64.7%と最も高く、次いで、「悩んだり困っていることを相談できる窓口や話し合える場をつくる」が 51.0%、「男女平等な働き方ができる職場になるよう企業に働きかける」が 49.2%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

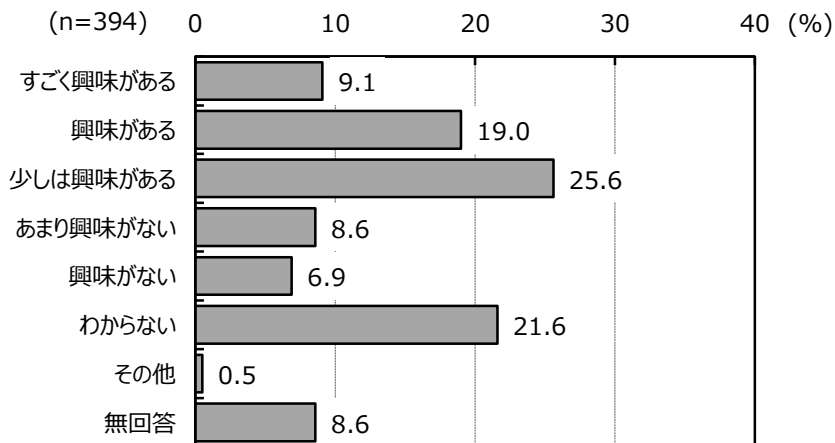
男女ともに「男女平等について学校で学習する」が最も高くなっています。そのほかについては、「働いている人が子どもを預けられるようにこども園、学童保育などを充実させる」、「悩んだり困っていることを相談できる窓口や話し合える場をつくる」が上位となっています。

「働いている人が子どもを預けられるようにこども園、学童保育などを充実させる」の割合については男女差が大きく、《女性》が《男性》を 13.1 ポイント上回っています。



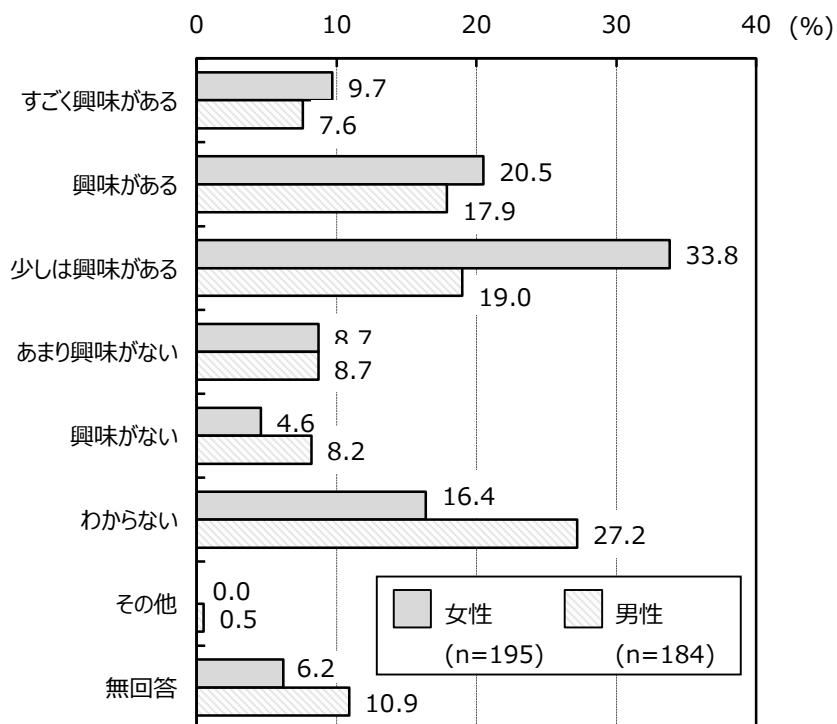
問 15 あなたは男女共同参画社会（みんなが性別に関わらずお互いの良いところをいかして、いきいきと暮らしていける社会）について、興味や関心はありますか。（単数回答）

『興味がある』（「すごく興味がある」+「興味がある」+「少しは興味がある」）と『興味がない』（「興味がない」+「あまり興味がない」）の割合を比較すると、『興味がある』は 53.7%、『興味がない』は 15.5%となっています。



【クロス集計分析（性別）】

男女ともに『興味がある』が最も高くなっていますが、《女性》が 64.0%、《男性》が 44.5%と男女差が大きく、《女性》が《男性》を 19.5 ポイント上回っています。



IV. 事業所調査の結果

1. 事業所概要

問 1 主な業種についてお答えください。(単数回答)

「製造業」が 57.9%と最も高くなっています。

	建設業	製造業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	情報通信業	医療、福祉	教育、学習支援	(%)
全体(n=19)	5.3	57.9	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	

	飲食店、宿泊業	運輸業	電気・ガス・熱供給・水道業	その他サービス業	その他	無回答
全体(n=19)	0.0	0.0	0.0	15.8	10.5	0.0

問 2 経営形態についてお答えください(単数回答)

「法人」が 89.5%と、大半を占めています。

	個人	法人	その他	無回答	(%)
全体(n=19)	5.3	89.5	0.0	5.3	

問3 久御山町内の事業所における従業者数についてお答えください。

① 従業者数（社長・非正規雇用等含む。人材派遣者を除く）

「10～19人」が21.1%と最も高くなっています。

総従業員数に占める女性の割合については、「20%未満」が36.8%と最も高くなっています。

【総数】

	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	(%)
全体(n=19)	5.3	21.1	10.5	10.5	15.8	0.0	10.5	5.3	

	80～89人	90～99人	100人以上	無回答
全体(n=19)	0.0	0.0	15.8	5.3

【うち女性の割合】

	0%	10%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	50%以上	無回答	(%)
全体(n=19)	0.0	10.5	36.8	21.1	10.5	5.3	10.5	5.3	

② 正規雇用数

「1～9人」が31.6%と最も高くなっています。

正規雇用者に占める女性の割合については、「10%未満」が31.6%と最も高くなっています

【総数】

	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50人以上	無回答	(%)
全体(n=19)	31.6	15.8	10.5	15.8	0.0	15.8	10.5	

【うち女性の割合】

	0%	10%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	50%以上	無回答	(%)
全体(n=19)	0.0	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0	10.5	10.5	

③ 管理職数

「4～6人」が47.4%と最も高くなっています。

管理職者数に占める女性の割合については、「0.0%」が57.9%と最も高くなっています。

【総数】

	なし	1～3人	4～6人	7～9人	10人以上	無回答	(%)
全体(n=19)	5.3	21.1	47.4	5.3	10.5	10.5	

【うち女性の割合】

	0%	10%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	50%以上	無回答	(%)
全体(n=19)	57.9	15.8	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	

2. 経営方針及び従業員の就業等の状況に関すること

問 4 経営理念や経営方針、行動宣言などに次の内容を掲げていますか。(単数回答)

「経営方針等に掲げている」の割合は《健康経営》が 47.4%と最も高く、次いで、《SDGs》が 42.1%、《ワーク・ライフ・バランスの推進》が 36.8%となっています。

《ダイバーシティの推進》、《女性活躍の推進》については、「経営方針等に掲げている」の割合は低いものの、「経営方針等には掲げていないが経営課題として位置付けている」の割合が高くなっています。

	(%)			
(n=19)	経営方針等に掲げている	経営方針等には掲げていないが経営課題として位置付けている	経営方針や経営課題として位置付けていない	無回答
① ワーク・ライフ・バランスの推進	36.8	57.9	5.3	0
② ダイバーシティの推進	15.8	52.6	31.6	0
③ 女性活躍の推進	15.8	68.4	15.8	0
④ 健康経営	47.4	47.4	5.3	0
⑤ SDGs	42.1	36.8	21.1	0

問 5 女性が管理職に就くことについてどのようにお考えですか。(複数回答)

「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いた方がよい」が 94.7%と、大半を占めています。

	(%)							
	意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いた方がよい	女性の多い職場であれば、管理職に就いた方がよい	どちらかという管理職は男性がよい	現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性は少ない	女性は、家事や子育て、介護等の負担も大きく、管理職に就くのは難しい	その他	女性の従業員がいない	無回答
全体(n=19)	94.7	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 6 女性も男性も同じ環境で働いていくために、特に女性にとって課題となっていることがあればお答えください（複数回答）

「女性自身が、昇進・昇格を望まず、仕事に消極的である」が 31.6%と最も高く、次いで、「女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある」、「男性の認識、理解が不十分である」がそれぞれ 26.3%、「モデルロールとなる女性の先輩がいないため、昇進・昇格を望む女性職員がいない（少ない）」が 21.1%となっています。

(%)

	女性はずぐ辞めてしまうので、人材として育てられない	女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある	女性自身が、昇進・昇格を望まず、仕事に消極的である	男性の認識、理解が不十分である	業務の内容が、女性に任せられない、あるいは女性には向いていないことが多い	将来管理職になる可能性はあるが、現在のところ登用基準(在職年数など)を満たしていない	モデルロールとなる女性の先輩がいないため、昇進・昇格を望む女性職員がいない(少ない)	顧客が女性管理職をいやがる
全体(n=19)	0.0	26.3	31.6	26.3	10.5	5.3	21.1	0.0

	管理職に女性を登用する機運がまだ低い	特になし	その他	無回答
全体(n=19)	5.3	21.1	0	0

問 7 過去 3 年間に於いて、貴事業所では結婚・妊娠・出産により女性正社員が離職した割合はどの程度ですか。（単数回答）

「0%」が 57.9%と最も高くなっています。

(%)

	0%	1～25%	26～50%	51～75%	76～100%	わからない	対象者がいない	無回答
全体(n=19)	57.9	26.3	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0

3. ワーク・ライフ・バランスに関すること

問 8 「京都府ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度」についてご存知ですか。（単数回答）

「知っている」が 57.9%と最も高くなっています。

(%)

	知っている	知らない(今回初めて知った場合を含みます)	宣言を行っている	無回答
全体(n=19)	57.9	21.1	21.1	0.0

問 8 で「知らない」を回答された方にお聞きします

問 8-1 今後取り組む必要があるとお考えですか。（単数回答）

回答数 4 件のうち、「わからない」が 2 件、「必要がある」が 1 件、「必要はない」が 1 件となっています。

(%)

	必要がある	必要だと思うが、現実的には難しい	必要はない	わからない	その他	無回答
全体(n=4)	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0

問9 貴事業所で働き方改革やワーク・ライフ・バランス向上のための取り組みで実施しているものを選択ください。(複数回答)

「有給休暇の半日単位での利用」が73.7%と最も高く、次いで、「企業独自の家族手当や児童手当の支給」が57.9%、「短時間勤務制度の導入」、「育児・介護休業から復職しやすい体制の整備」がそれぞれ47.4%となっています。

(%)

	ノー残業デーの設定など時間外勤務削減のための取り組み	短時間勤務制度の導入	フレックスタイム勤務の導入	在宅勤務制度の導入	有給休暇の半日単位での利用	有給休暇の時間単位での利用	自己啓発休暇、リフレッシュ休暇など多様な休暇制度の導入	育児・介護休業等取得者の代替職員の雇用
全体(n=19)	26.3	47.4	10.5	5.3	73.7	26.3	5.3	10.5

	育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入	企業独自の家族手当や児童手当の支給	育児・介護休業から復職しやすい体制の整備	再雇用制度の導入	その他	取り組んでいない	無回答
全体(n=19)	0.0	57.9	47.4	26.3	0.0	0.0	0.0

問 10 ここ5年間における育児休業の取得状況について男女別にお答えください。(単数回答)

男性の取得状況については、「対象者はいない」、「対象者はいるが取得者はいない」がそれぞれ 36.8%と最も高くなっています。

女性の取得状況については、「対象者はいない」が 42.1%と最も高くなっています。

《男性》

(%)

	対象者はいない	対象者はいるが取得者はいない	取得者数は増えている	取得者数は減っている	取得者数は変わらない	その他	無回答
全体(n=19)	36.8	36.8	26.3	0	0	0	0

《女性》

(%)

	対象者はいない	対象者はいるが取得者はいない	取得者数は増えている	取得者数は減っている	取得者数は変わらない	その他	無回答
全体(n=19)	42.1	5.3	31.6	5.3	15.8	0	0

問 11 ここ5年間における介護休業の取得状況について男女別にお答えください。

(①②の項目について、それぞれ単数回答)

男性の取得状況については、「対象者はいない」が 63.2%と最も高くなっています。

女性の取得状況についても、「対象者はいない」が 73.7%と最も高くなっています。

《男性》

(%)

	対象者はいない	対象者はいるが取得者はいない	取得者数は増えている	取得者数は減っている	取得者数は変わらない	その他	無回答
全体(n=19)	63.2	21.1	0.0	5.3	5.3	5.3	0.0

《女性》

(%)

	対象者はいない	対象者はいるが取得者はいない	取得者数は増えている	取得者数は減っている	取得者数は変わらない	その他	無回答
全体(n=19)	73.7	15.8	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0

問 12 ここ5年間における貴事業所の従業者全体を見て、年次有給休暇の取得状況について男女別にお答えください。(単数回答)

男性の取得状況については、「以前と比較して取得日数は増えている」が84.2%と最も高くなっています。女性の取得状況についても、「以前と比較して取得日数は増えている」が84.2%と最も高くなっています。

《男性》

	以前と比較して取得日数は増えている	取得日数は大きく変わらない	以前と比較して取得日数は減っている	その他	無回答
全体(n=19)	84.2	15.8	0.0	0.0	0.0

《女性》

	以前と比較して取得日数は増えている	取得日数は大きく変わらない	以前と比較して取得日数は減っている	その他	無回答
全体(n=19)	84.2	15.8	0.0	0.0	0.0

問 12-1 育児休業、介護休業、年次有給休暇の取得状況などについて実状や課題があればお答えください。(自由記述)

- 人員の多い部門では休暇は取得しやすいが、専門職など業務分掌が進んでいない部門は取得しづらいなど、部門によって差がある。
- 有給休暇に関しては、半日から時間単位を取得する制度があり、取得しやすくなっている。
- 段取りや前日のやり切れてない分の仕事をやり、予定が入れば帰るといったかたちで、休暇を取得しやすいとの声があがっている。
- 有給の取得が多くて業務に支障がでる日がある。

問 13 テレワークを実施していますか。(単数回答)

「実施していない」が 57.9%と最もたかくなっています。

	コロナ禍以前から実施している	コロナ禍から実施している	実施していない	実施していたが、現在は実施していない	その他	無回答
全体 (n=19)	0.0	26.3	57.9	15.8	0.0	0.0

問 13 で「(コロナ禍以前から) 実施している」、「(コロナ禍から)実施している」、「実施していたが、現在は実施していない」と回答された方にお聞きします

問 13-1 コロナ禍以降のテレワークの実施状況について男女別にお答えください。(単数回答)

男性の実施状況については、「実施者数は増えている」が 37.5%と最も高くなっています。

女性の実施状況については、「実施者数は変わらない」が 37.5%と最も高くなっています。

《男性》

	実施者はいない	実施者数は増えている	実施者数は減っている	実施者数は変わらない	その他	無回答
全体 (n=19)	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0

《女性》

	実施者はいない	実施者数は増えている	実施者数は減っている	実施者数は変わらない	その他	無回答
全体 (n=19)	25.0	25.0	12.5	37.5	0.0	0.0

問 13 で「(コロナ禍以前から) 実施している」、「(コロナ禍から)実施している」、「実施していたが、現在は実施していない」と回答された方にお聞きします

問 13-2 テレワークの実施について実状や課題があればお答えください。

- 会社として、顔を合わせて仕事をする、お客様と会える環境で働くスタンス。現状は緊急事態宣言やまん延防止特別措置の発出時のみテレワークを実施している。
- 仕事の職種にもよるが、加工者は難しい。

4. その他の取組み等について

問 14 ハラスメントの防止に対して、取り組まれていますか。（単数回答）

「取り組んでいる」が 52.6%と最も高くなっています。

(%)

	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいない が今後取り組む予 定	無回答
全体(n=19)	52.6	5.3	42.1	0.0

問 15 障がい者や LGBT の方に対する配慮や差別防止のために取り組まれていますか。
（単数回答）

「取り組んでいる」、「障がい者や LGBT の方がいないため取り組んでいない」がそれぞれ 36.8%と、同率で最も高くなっています。

(%)

	取り組んでいる	障がい者や LGBT の方がいないため 取り組んでいない	その他の理由で取 り組んでいない	取り組んでいない が今後取り組む予 定	無回答
全体(n=19)	36.8	36.8	10.5	15.8	0.0

問 16 SDGs（持続可能な開発目標）に対して、取り組まれていますか。（単数回答）

「取り組んでいる」が 57.9%と最も高くなっています。

(%)

	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいない が今後取り組む予 定	無回答
全体(n=19)	57.9	26.3	15.8	0.0

問 17 男女共同参画社会づくりをさらに推進していくために、今後、町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで回答）

「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が52.6%と最も高く、次いで、「男女がともに子育てに関わるための取組や施策を充実する」が47.4%、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」がそれぞれ31.6%となっています。

(%)

	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	職場における男女の均等な取扱いについて啓発し、徹底を図る	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女共同参画に関する情報提供や交流の場などの男女共同参画センターを整備する	広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
全体(n=19)	31.6	31.6	10.5	10.5	52.6	5.3	0.0	0.0

	女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する	男女がともに子育てに関わるための取組や施策を充実する	その他	わからない	特になし	無回答
全体(n=19)	0.0	47.4	0.0	10.5	0.0	5.3

問 18 貴事業所の雇用や職場環境において、ここ10年の間で、職場において男女共同参画はどの程度進んでいると思いますか。（単数回答）

「ある程度進んでいる」が63.2%と最も高く、「進んでいる」（「かなり進んでいる」+「ある程度進んでいる」）の割合は68.5%となっています。

(%)

	かなり進んでいる	ある程度進んでいる	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	わからない	無回答
全体(n=19)	5.3	63.2	15.8	0.0	15.8	0.0

問18で「かなり進んでいる」、「ある程度進んでいる」、「あまり進んでいない」「ほとんど進んでいない」と回答された方にお聞きます。

問 18-1 進んだと思う理由、または進んでいないと思う理由をお書きください。

① 進んだと思う理由

- 女性社員の比率が格段に増加している。また、育児休暇を取得した女性社員は100%である（1名のみ保育園の関係で退職）。
- 必要に応じて休暇が取りやすい環境に改善できている。産休、育休を必要とした対象者が未だほとんどないので、今後、状況に応じ対応していく方針。
- 女性の積極的採用。
- 公平な人事評価制度の定着、働きやすい職場環境づくり。
- 給与格差の是正、有給の消化等、総合的に行なっている。

② 進んでいないと思う理由

- 男女が同じ職種にならないので難しい。
- 雇用はしているが定着しない。
- 男性社員、女性社員ともに意識していない。